559
559-75
1200501511682

金刀比羅宮風光圖會

上巻

金刀比羅宮風光圖會

上卷

帝國圖書館藏

昭和三・四・一七・交・帝國圖

559-75

凡例

一、金刀比羅宮の風光八十三圖を輯錄して風光圖會上卷とし茲に上梓す。餘は他日下卷出版を期して之を輯めんとす。

一、當宮に屬せざるもの一二あるも、一般參拜者の參考の爲め併せて之を輯錄せり。

一、本書は圖を主として、これに簡單なる解說を添へたり。一般記事は別に上梓せる金刀比羅宮記に讓る。

昭和三年初春

編者識

金刀比羅宮風光圖會　上卷

目次

(一)、琴平山（象頭山）
(二)、祓川橋
(三)、多度津鳥居
(四)、丸龜中府鳥居
(五)、榎井鳥居
(六)、苗田鳥居
(七)、高藪鳥居
(八)、大宮鳥居
(九)、新町鳥居
(一〇)、阿波町鳥居
(一一)、御使者口鳥居

(一二)、大宮橋
(一三)、富士見馬場
(一四)、高燈籠
(一五)、高燈籠神苑
(一六)、御神事場梅林
(一七)、御神事場
(一八)、御神事場齋庭
(一九)、鞘橋
(二〇)、一之阪鳥居
(二一)、登回廊
(二二)、琴陵宥常銅像
(二三)、崇敬講社本部玄關
(二四)、崇敬講社本部大廣間
(二五)、崇敬講社本部西階上廣間
(二六)、鼓樓
(二七)、清少納言塚
(二八)、大門
(二九)、櫻馬場
(三〇)、御廐
(三一)、主基記念殿
(三二)、櫻馬場西詰銅鳥居
(三三)、木馬舍
(三四)、茶所
(三五)、祓戸社
(三六)、火雷社
(三七)、祓戸社前銅馬

(三八)、旭社前回廊、黄銅鳥居

(三九)、賢木門

(四〇)、皇廟皇陵遙拜所

(四一)、連理橋

(四二)、闇峠

(四三)、眞須賀神社

(四四)、御年神社

(四五)、事知神社

(四六)、御本宮御手水舍

(四七)、御本宮神饌殿

(四八)、御本宮拜殿

(四九)、御本宮北御透垣

(五〇)、常磐神社

(五一)、眞井橋

(五二)、白峰神社御手水舍

(五三)、白峰神社

(五四)、紅葉谷鳥居

(五五)、菅原神社

(五六)、卯花谷休所

(五七)、卯花谷眺望

(五八)、威德巖

(五九)、嚴魂神社

(六〇)、睦魂神社

(六一)、御本宮南渡殿

(六二)、神樂殿

(六三)、御本宮前神札所

（六四）、御本宮前警衞所
（六五）、御炊殿
（六六）、三穗津姫社
（六七）、嚴嶋神社
（六八）、三穗津姫社前銅馬
（六九）、繪馬殿
（七〇）、參集殿
（七一）、參集殿內部
（七二）、大山祇社
（七三）、下向阪下
（七四）、旭社
（七五）、旭社側面
（七六）、旭社前御手水舍
（七七）、社務所通用門
（七八）、社務所玄關
（七九）、社務所玄關床
（八〇）、社務所四脚門
（八一）、社務所表書院
（八二）、社務所表書院內部
（八三）、社務所表書院上段之間

金刀比羅宮風光圖會　上卷

總記

帝國圖書館

金刀比羅宮は香川縣讃岐國仲多度郡(もと那珂郡といひしが、後ち多度郡と合併して、此名に改めらる)琴平山(一名象頭山)に鎭座あり。

大物主大神鎭り給ふ、後ち御相殿に　崇德天皇鎭り座す。

遠き神代の昔にありては、此のあたり海深く灣入して、岡巒三方より風波を遮り舟檝至便の地、しかも近く山陽道に對し、東は近畿に西は九州に通し、又豐後水道、馬關海峽よりする潮汐と、由良海峽、鳴門海峽よりする潮汐とは、この冲合に於て離合集散し、四通八達の良港灣なりしを以て、大物主大神は國土御經營の砌、こゝに宮居を營み給ひ、こゝを根據として今の山陽四國近畿九州方面を御經營遊はされたり。當金刀比羅宮は卽ち其御舊蹟の地に鎭まり給へるなりと申傳ふ。

崇德上皇保元の戰亂に際し、當國に遷らせ給ふや、深く當宮を尊崇し給ひ

長寛元年には親しく御參拜の上御參籠さへも遊はされたり、今御境內に古籠所といへるは其御舊蹟なりといふ。長寛二年崩御ましますや、其翌年七月神靈を迎へ奉り、かくて當宮の御相殿に鎭り給ふ。

當宮は明治以前は金毘羅大權現と稱し奉り御歷朝の御崇敬頗る厚く、桃園天皇御宇寶曆十年五月二十日には特に日本一社の綸旨を別當に賜へり。されば金毘羅大權現は當宮に限り他に金毘羅大權現無きは素より、奥院又は別宮等も一切無く、全國津々浦々に至るまで普く神德を欽仰し奉りぬ。明治元年特に宮號仰出され金刀比羅宮と御改稱あらせらる。其御由緒の詳細は別に上梓せる金刀比羅宮記に讓り、こゝには御境內等の一般統計を記するに止めんとす。

○神　林

三百九十二町五反二畝二十七步

內譯

當宮御境內	百〇一町二反一畝七步
當宮琴平山神林	八十二町二反十五步
當宮大麻山神林	二百〇六町九反五畝步
當宮百合山神林	二町一反六畝五步

（備考、琴平山の面積は百九十一町六反二十九步にして、前記御境內及琴平山神林に琴平公園八町一反九畝七步を合せたるもの卽ち是なり）

○建　物

百五十一棟　建坪二千百八十九坪

○鳥居、橋梁、立燈籠、高麗狗

鳥居	十七基
橋梁	四所
立燈籠	五百〇三基
高麗狗	七對

○石階、石玉垣、敷石

石階	千二百三十二段
石玉垣	九百六十六間餘
敷石	五百〇一間餘

○電話

普通電話	八個所
宮域內電話	十七個所

○宮設電燈

電線	十一万四千餘尺
燈數	五百〇五燈
燭光	五千六百九十四燭光

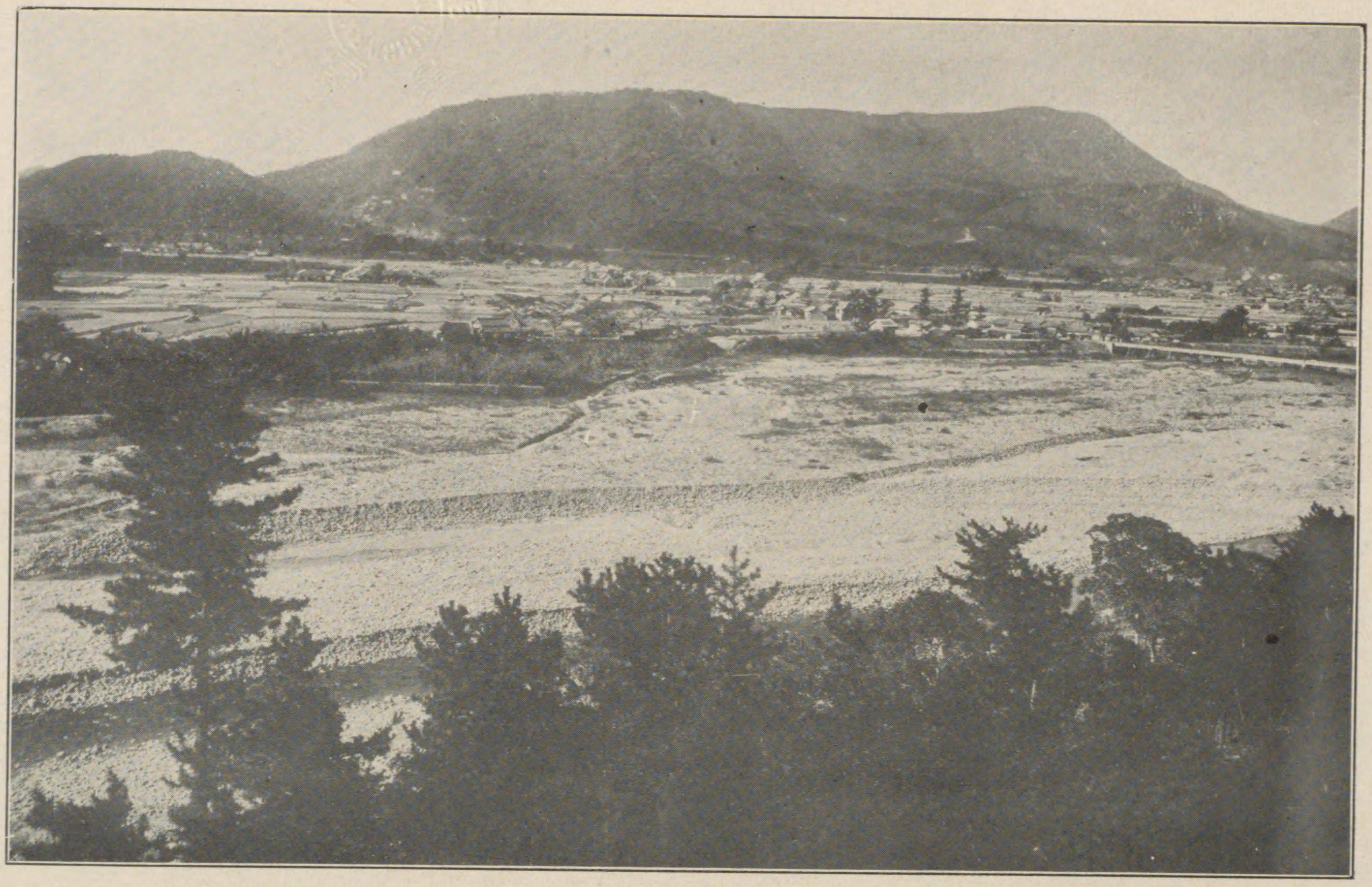
○水道

飲用水道	五千百〇七尺
防火水道	一萬〇四百六十九尺
防火水補給水道	千〇五十五尺
雜用水道	二千四百四十二尺
水源及水槽	五個所
貯水量	三千四百四十七石三斗
防火栓	六十個

○神苑（風致保護區共）

神苑	二万七千八百餘坪
南神苑（御神事場）	二千〇九十一坪

北神苑（高燈籠神苑）　八百九十八坪



琴平山（象頭山）

（一）琴平山　（象頭山）

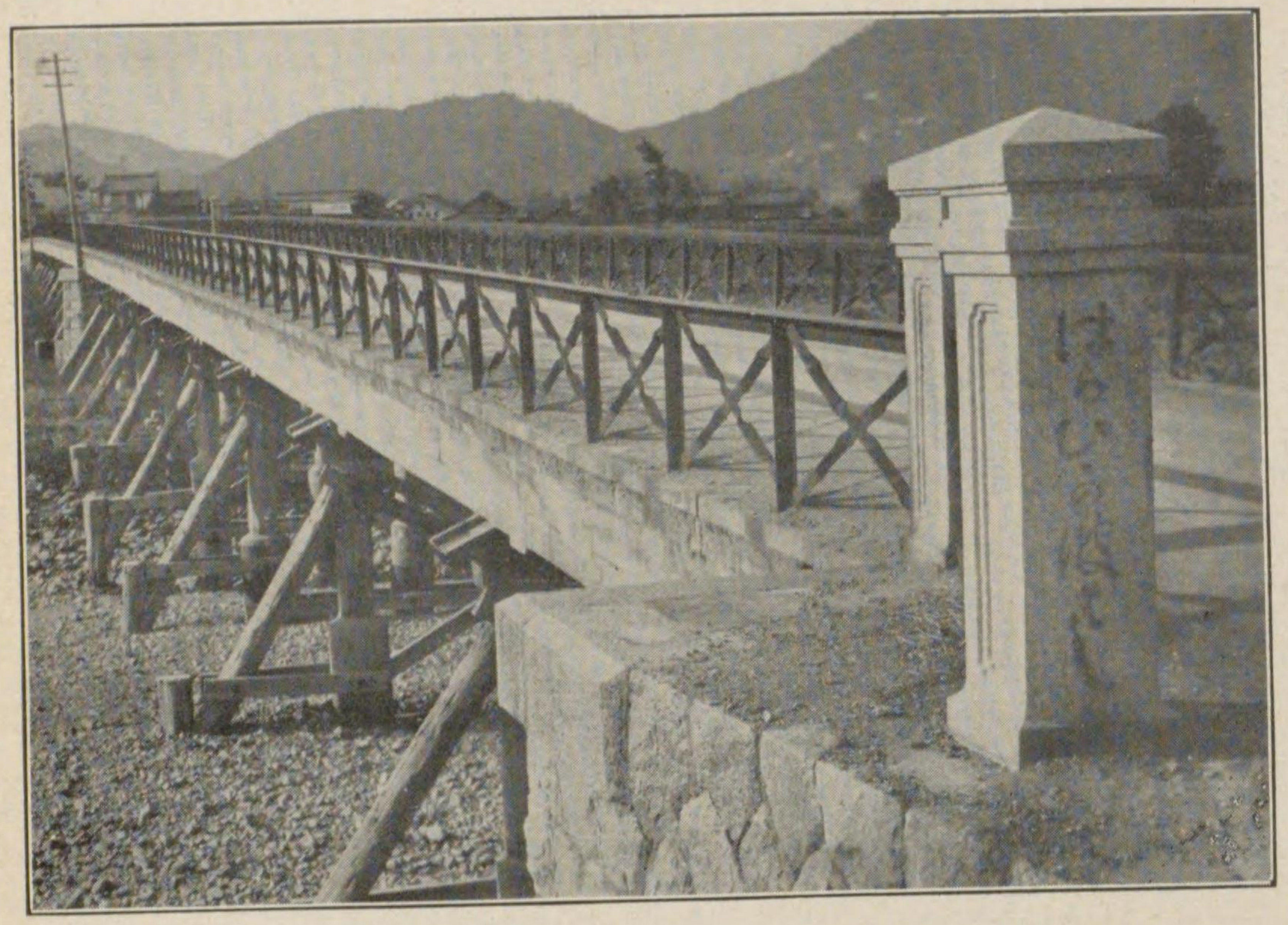
琴平山は金刀比羅宮の鎮まりませる神山にして、形の似たるより象頭山と稱せらる。香川縣讃岐國仲多度郡にあり。海拔千七百十九尺（五百二十一米）。全山樹木鬱密、太古の俤を存する稀有の靈境なり。林樹多種多樣二百數十種に及ぶ。面積百九十一町六反二十九歩、内金刀比羅宮御境内百一町二反一畝七歩、同神林八十二町二反十五歩、琴平公園八町九畝七歩なり。春の櫻、秋の紅葉、共に世に聞こゆ、松茸も亦名あり。風致保安林とす。

神のます琴平山の月影に曇無き世の光をそ知る
　　伏見宮貞愛親王

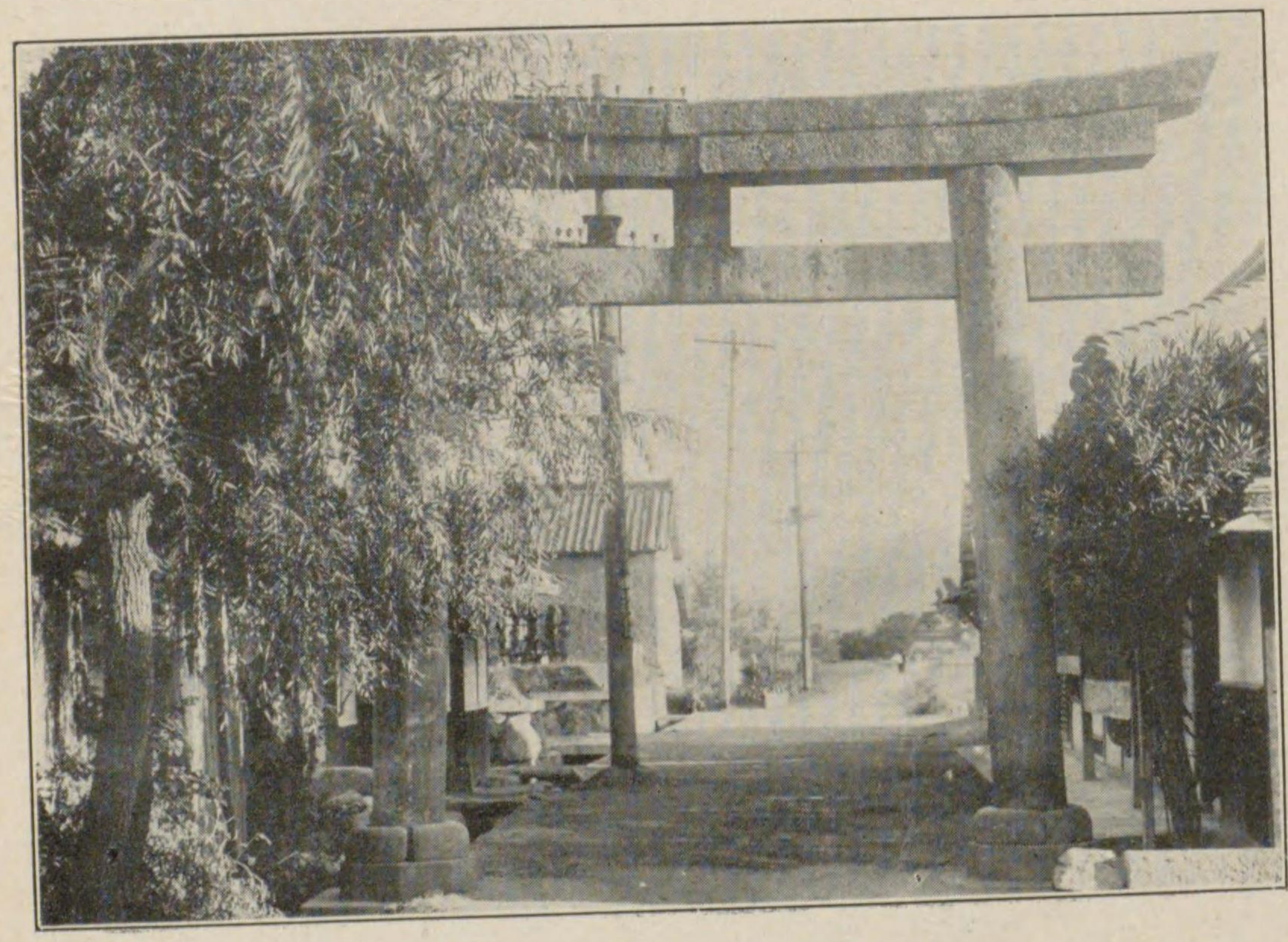
神威赫奕翕人心賽客繹如千里尋石磴連空楓樹赤
象頭山頂夕陽沈
　　久邇宮邦彦王

あまねくも降渡るらむ神のます琴平山の夕立の
雨
　　大正御即位禮主基御屏風歌

三日月や牙とぎ出す象頭山
　　與謝蕪村



祓川橋



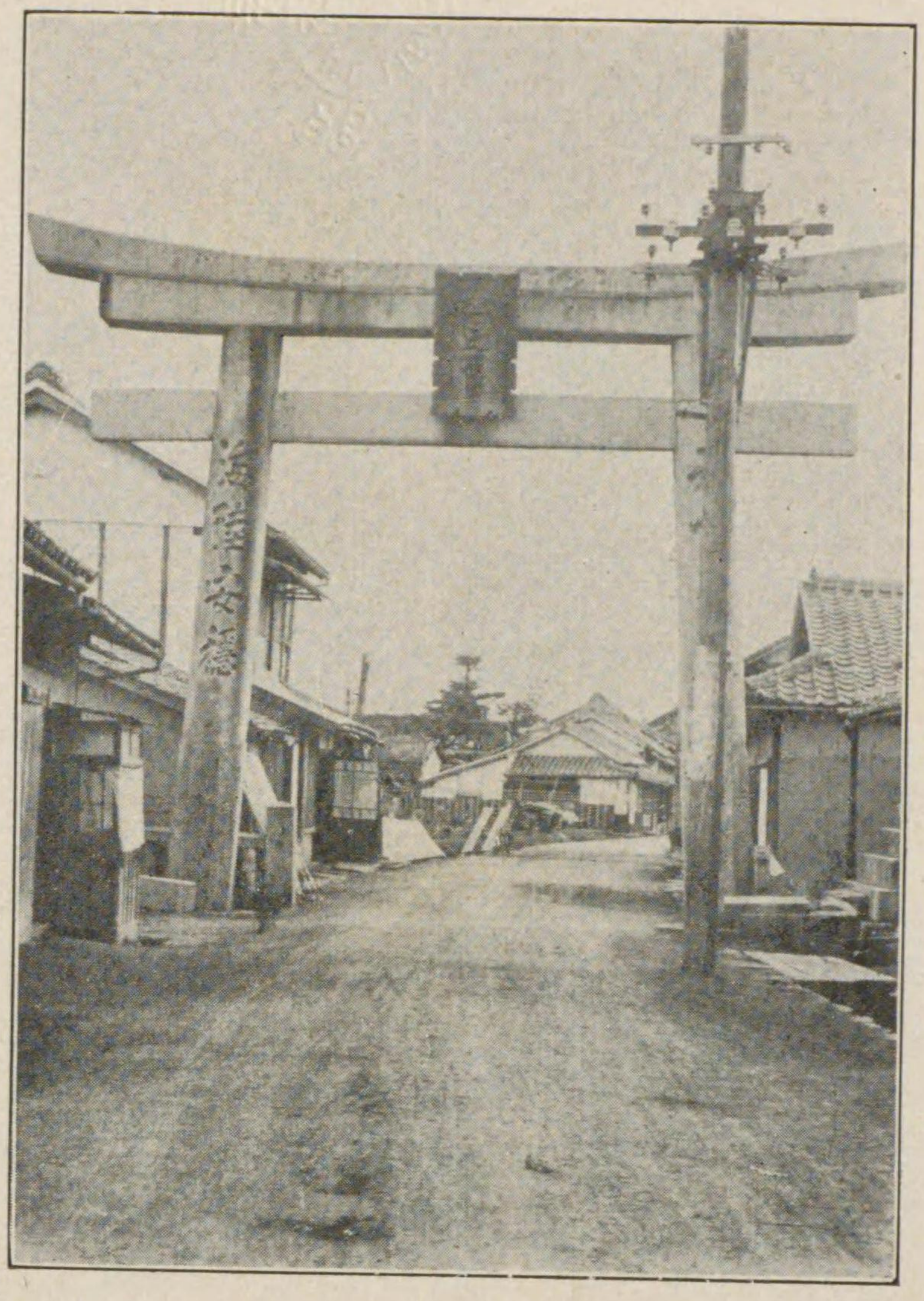
多度津鳥居

(二) 祓川橋

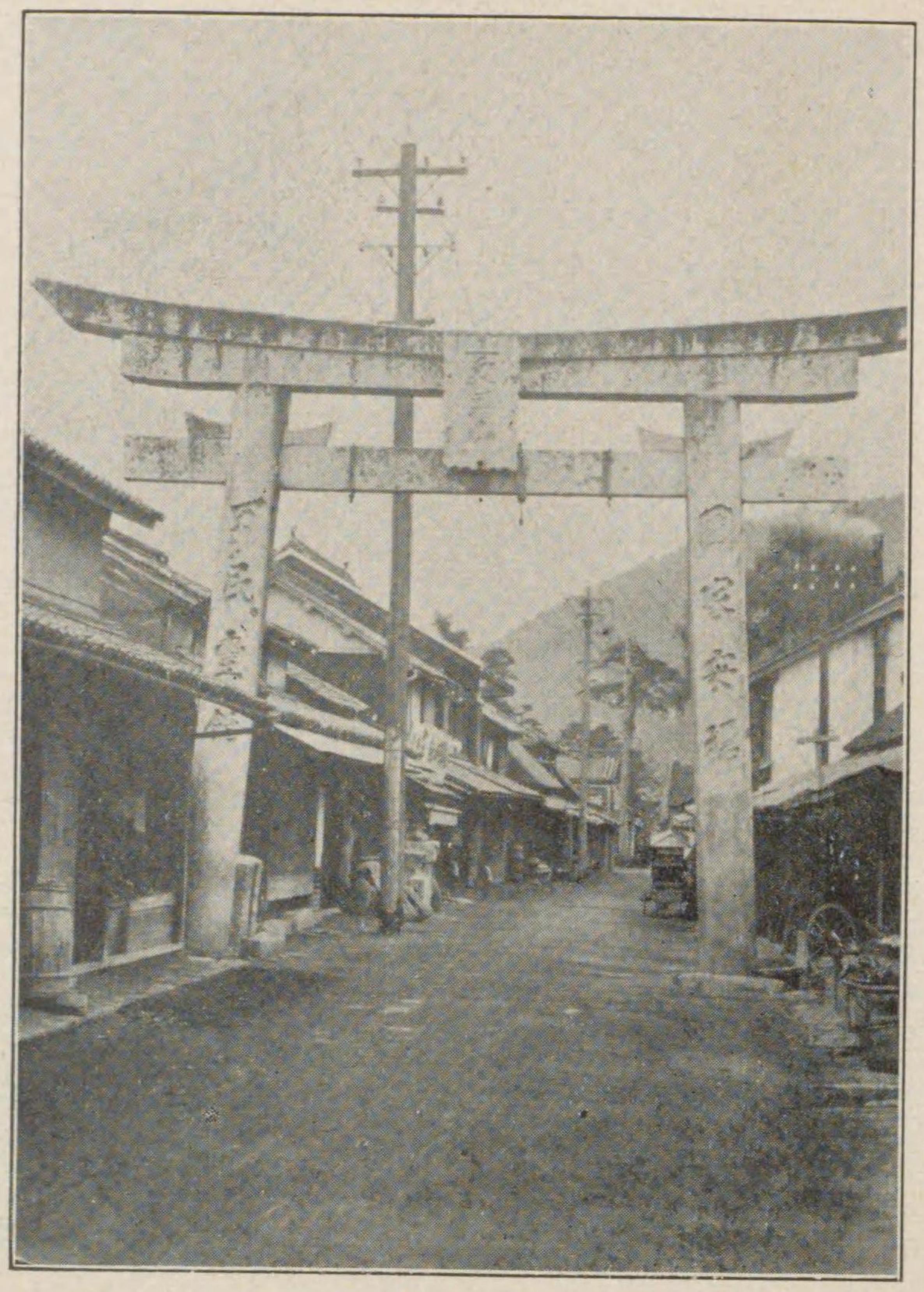
祓川(ハラヒカハ)は金刀比羅宮の東一里餘、上流は之を狹間川(ハザマ)といひ、下流は之を土器川(ドキ)といふ。高松よりの參詣街道卽ち金刀比羅宮の正面に當る所を祓川(ハラヒ)と唱ふ。參拜者此川にて心身を祓ふの意なり。祓川橋は此街道の川を橫切る所にあり。木橋、長百九間、幅二間半

(三) 多度津鳥居

多度津(タドツ)鳥居は、金刀比羅宮の北三里餘、多度津の町端れ、金刀比羅參詣舊街道にあり。華崗石明神造。高約二十尺、柱間約十四尺、寛政六年出雲國松江諸講中建設。



丸亀中府鳥居



榎井鳥居

（四）丸龜中府鳥居

丸龜中府（ナカブ）鳥居は、金刀比羅宮の北三里餘、丸龜市中府にあり。此地は丸龜の街はづれにして丸龜よりする金刀比羅參詣街道の出發點に當る。華崗石明神造、高二十二尺、柱間十五尺餘、明治四年長門國赤間關菊屋平七外十餘名建設。

（五）榎井鳥居

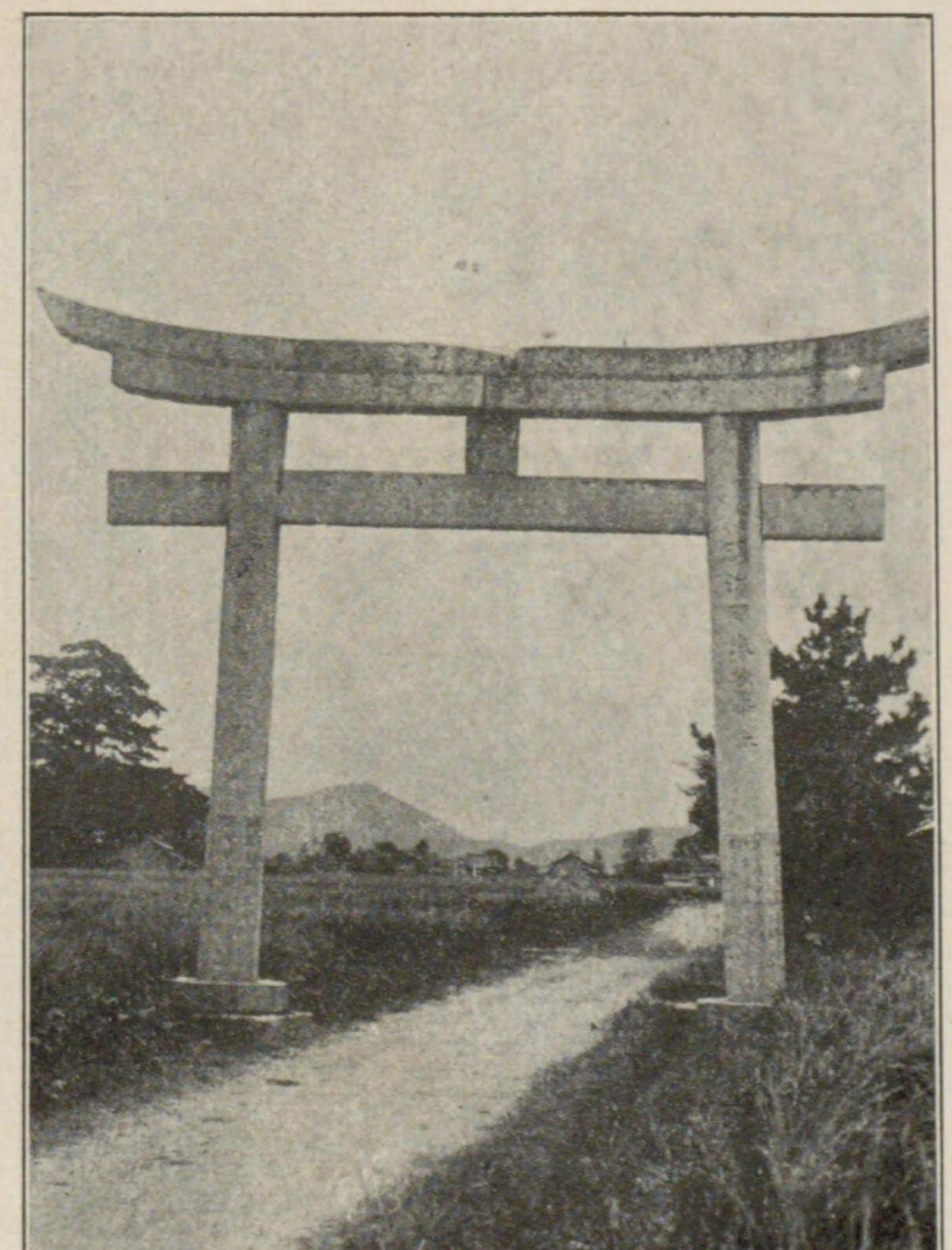
榎井（エナ井）鳥居は、金刀比羅御本宮の東二十三町榎井（エナ井）村にあり。華崗石明神造。高二十一尺餘、柱間十六尺餘。

(六) 苗田鳥居

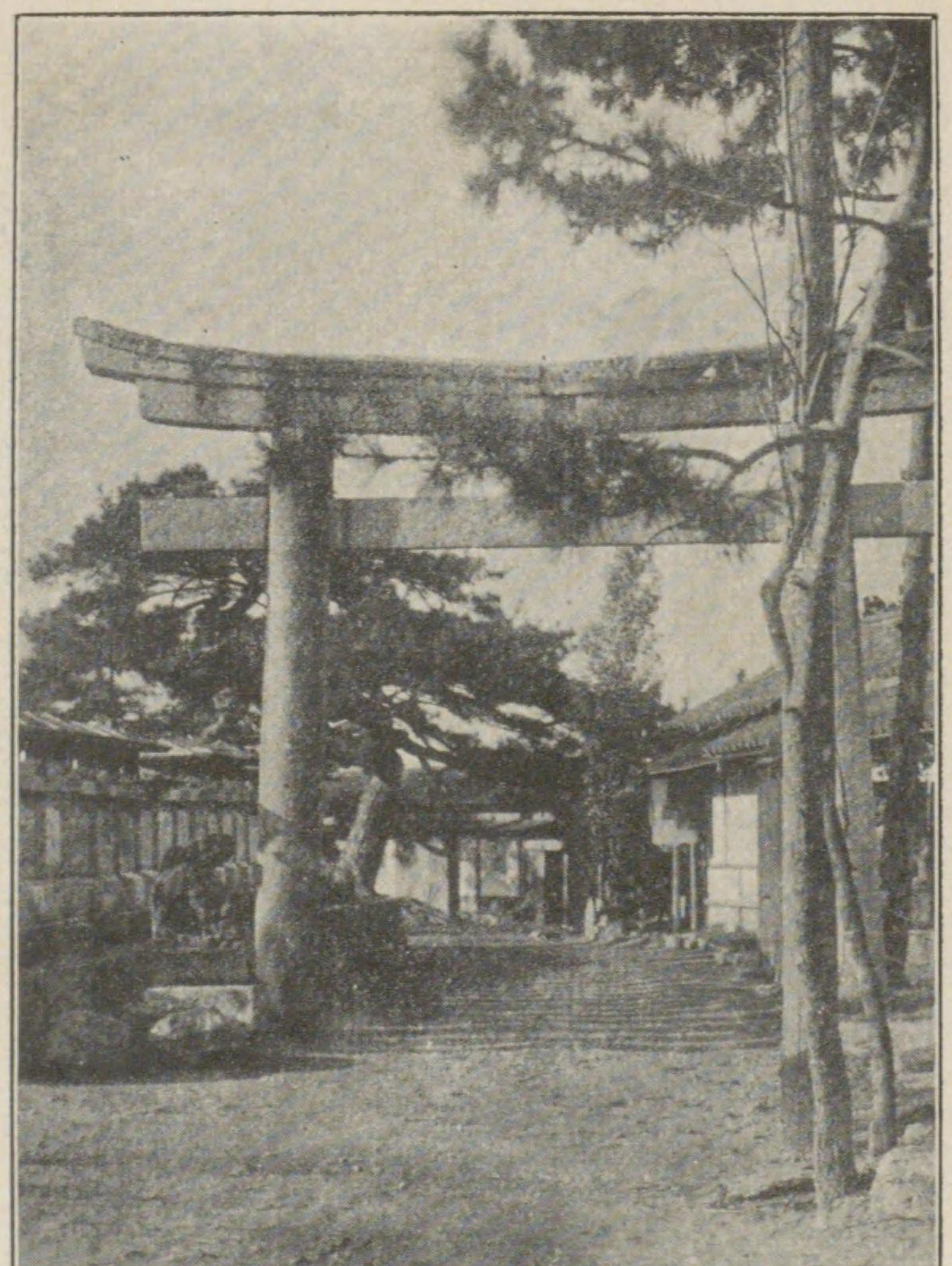
苗田(ナウダ)鳥居は、金刀比羅御本宮の東北二十一町、象郷(ザウゴウ)村字苗田(ナウダ)にあり。華崗石明神造。高二十一尺、柱間十四尺餘、明治四年備前兒嶋鎌田卯太郎正康外四十餘名獻納。

(七) 高藪鳥居

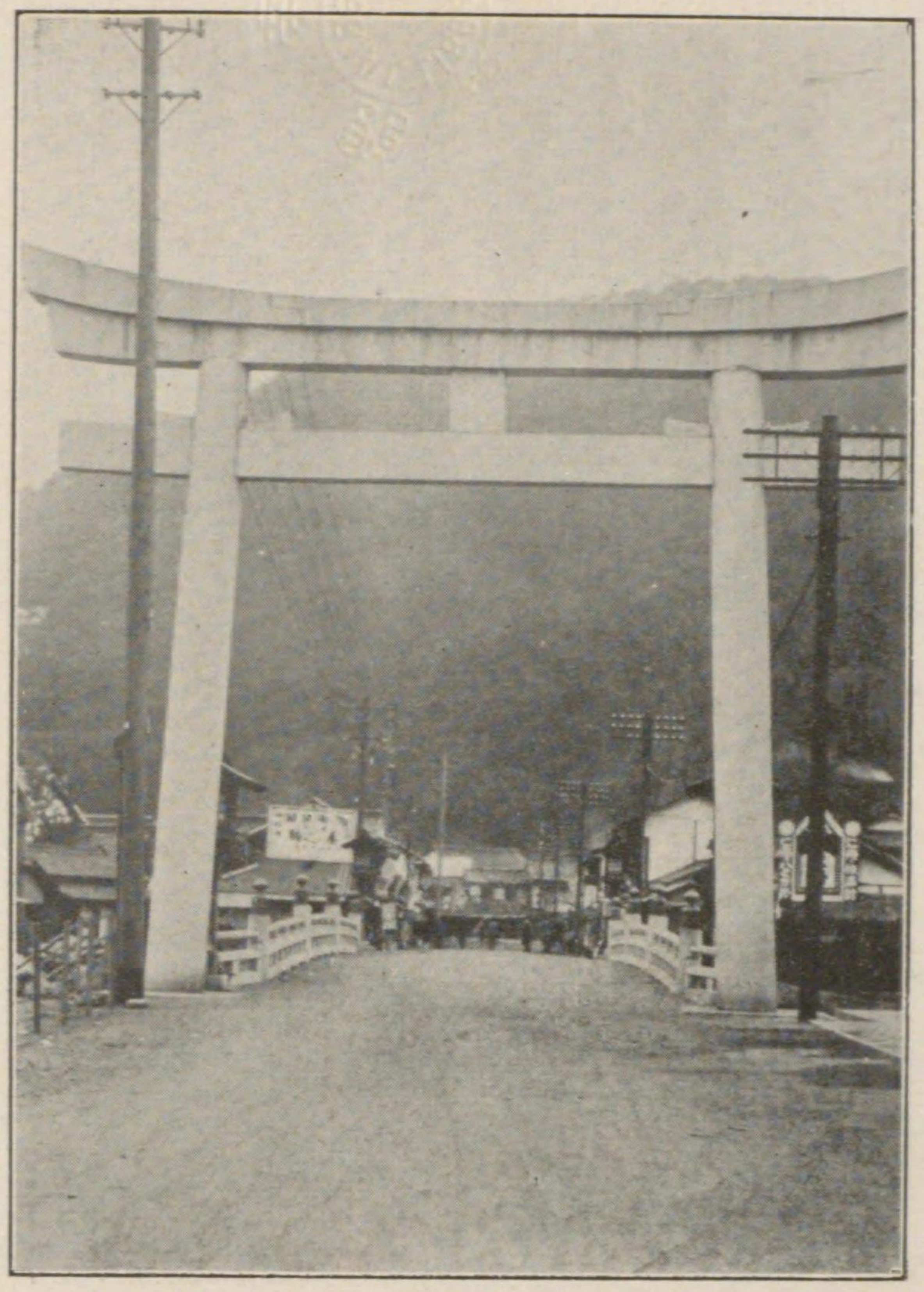
高藪(コウヤブ)鳥居は、金刀比羅御本宮の東北十四町琴平町字高藪(コウヤブ)にあり。此地は舊多度津街道より入る町の入口なり。華崗石明神造。高十八尺六寸、柱間十二尺、天明二年讃岐國粟嶋廻船中獻納。



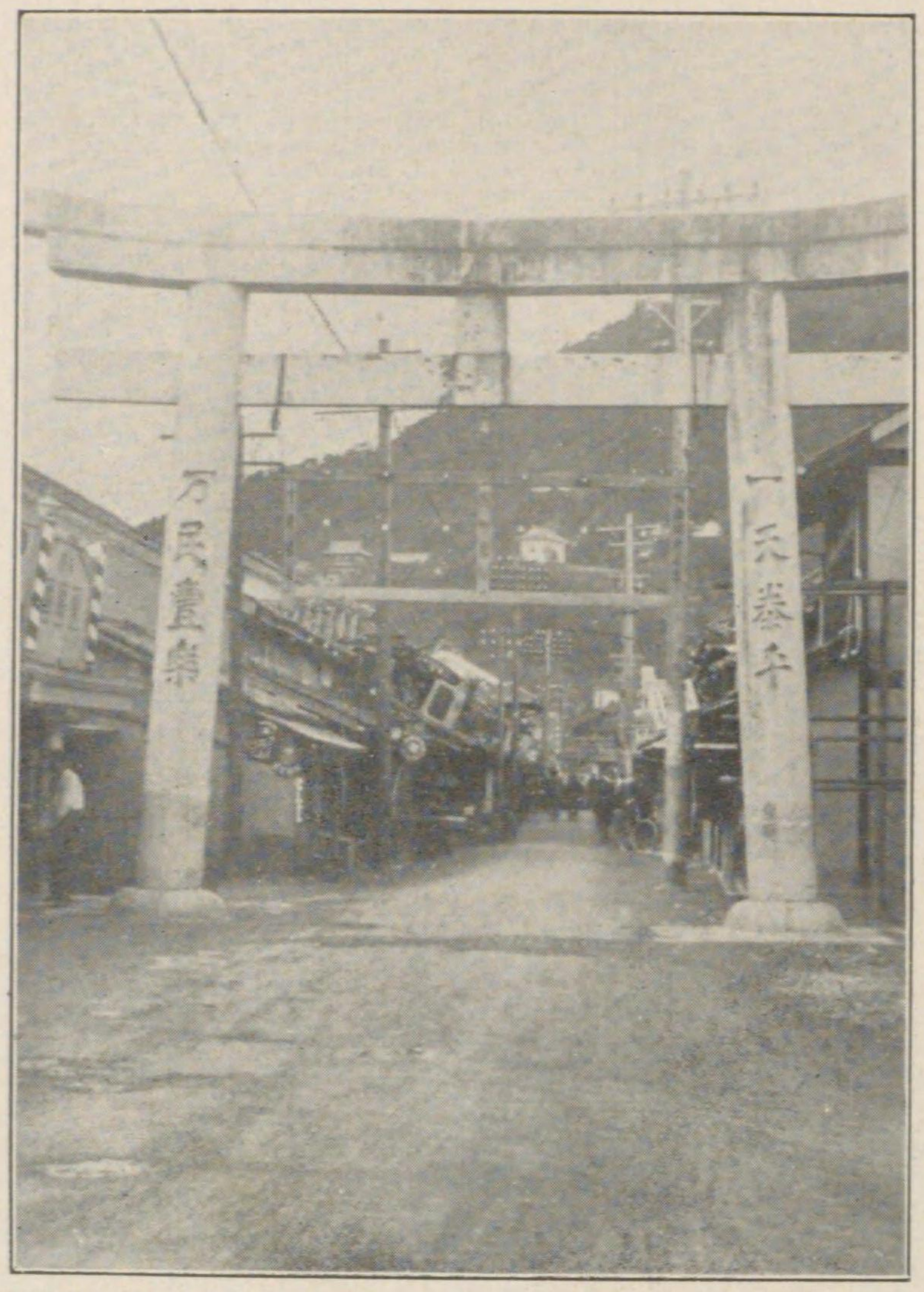
苗田鳥居



高藪鳥居



大宮鳥居



新町鳥居

（八）大宮鳥居

大宮（オホミヤ）鳥居は、金刀比羅御本宮の東北十五町、琴平町大宮橋東詰にあり。華崗石明神造、高三十二尺、柱間二十四尺、大正十四年尾張國愛知金明講獻納。

（九）新町鳥居

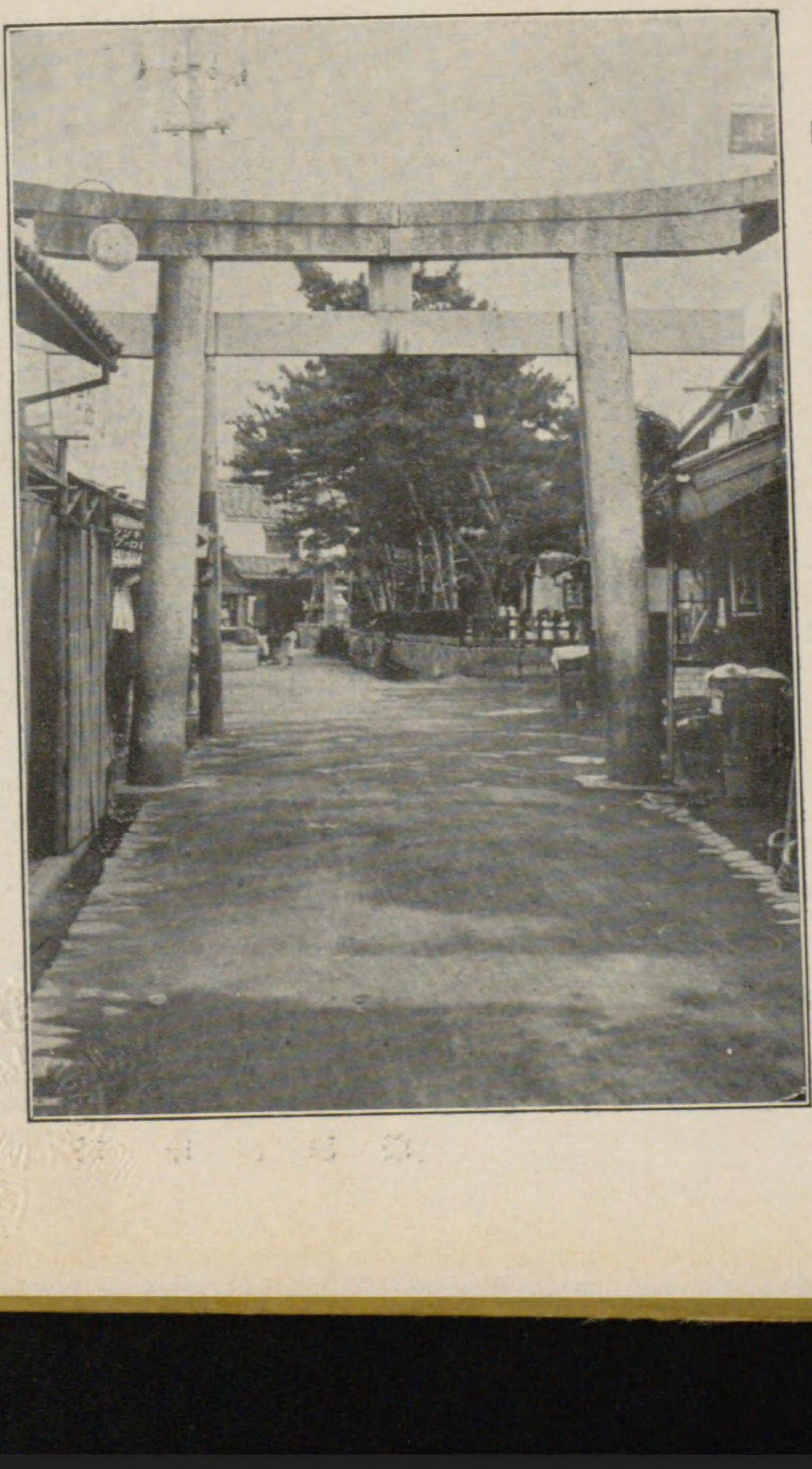
新町（シンマチ）鳥居は、金刀比羅御本宮の東十五町、琴平町字新町にあり。此地は高松街道より入る町の入口なり。華崗石明神造。高二十六尺八寸餘、柱間十七尺三寸餘、安政二年讃岐國香川郡川部村武下一郎兵衛敬典獻納。

（一〇）　阿波町鳥居

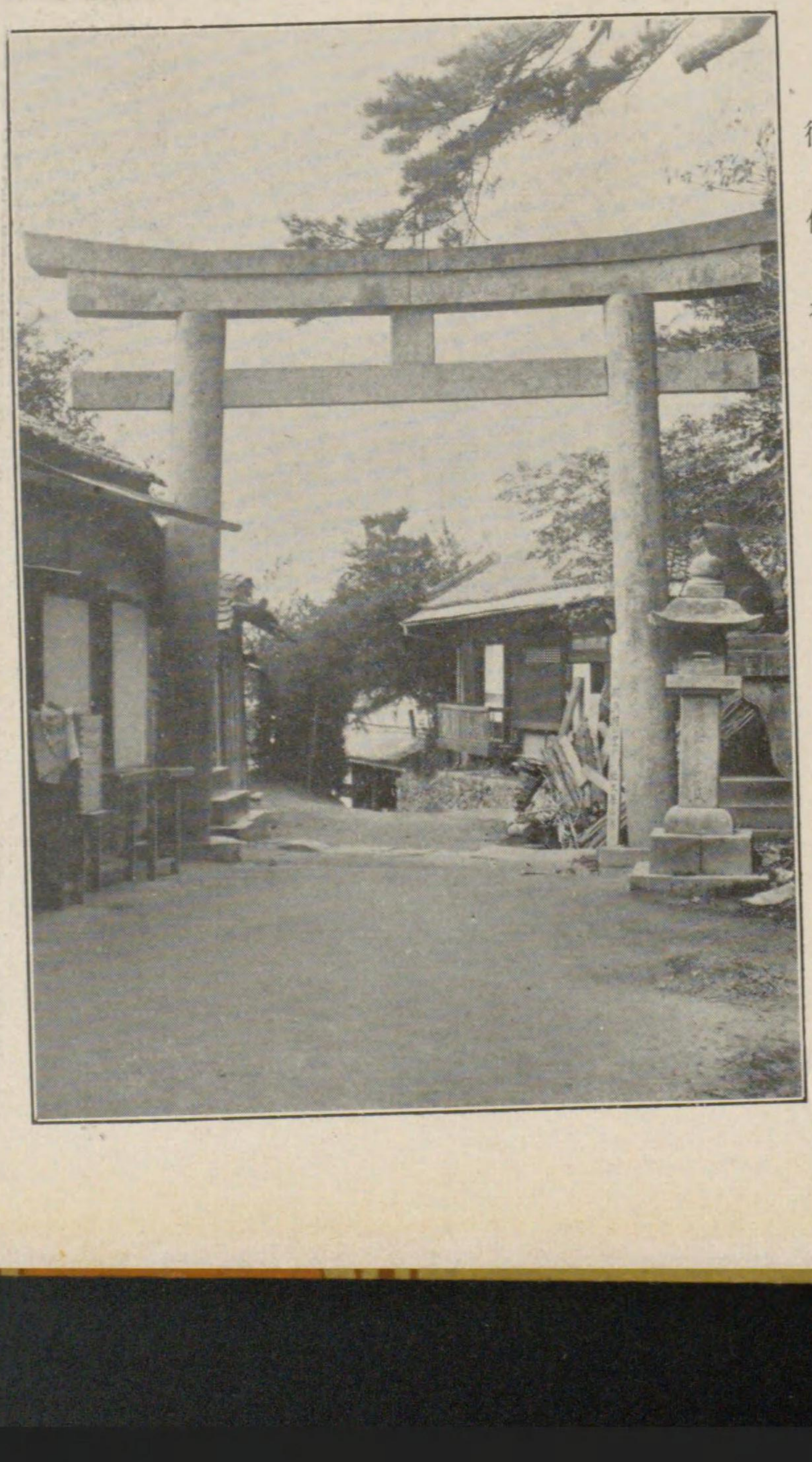
阿波町（アハマチ）鳥居は、金刀比羅御本宮東南十六町、琴平町字阿波町にあり。此地は舊阿波街道より入る町の入口なり。華崗石明神造、高二十二尺五寸、柱間十一尺、嘉永元年阿波國三好郡晝間（ヒルマ）村　佐々木彌尾六　外七十五人獻納。

（一一）　御使者口鳥居

御使者口（オシシヤクチ）鳥居は、金刀比羅御本宮の南十三町、舊伊豫街道より入る町の入口なる御使者口（オシシヤクチ）（俗に牛屋口）と稱する所にあり。華崗石明神造、高二十尺七寸餘、柱間十尺二寸、寛政六年伊豫國宇摩郡野田村續木孫兵衞獻納。



阿波町鳥居



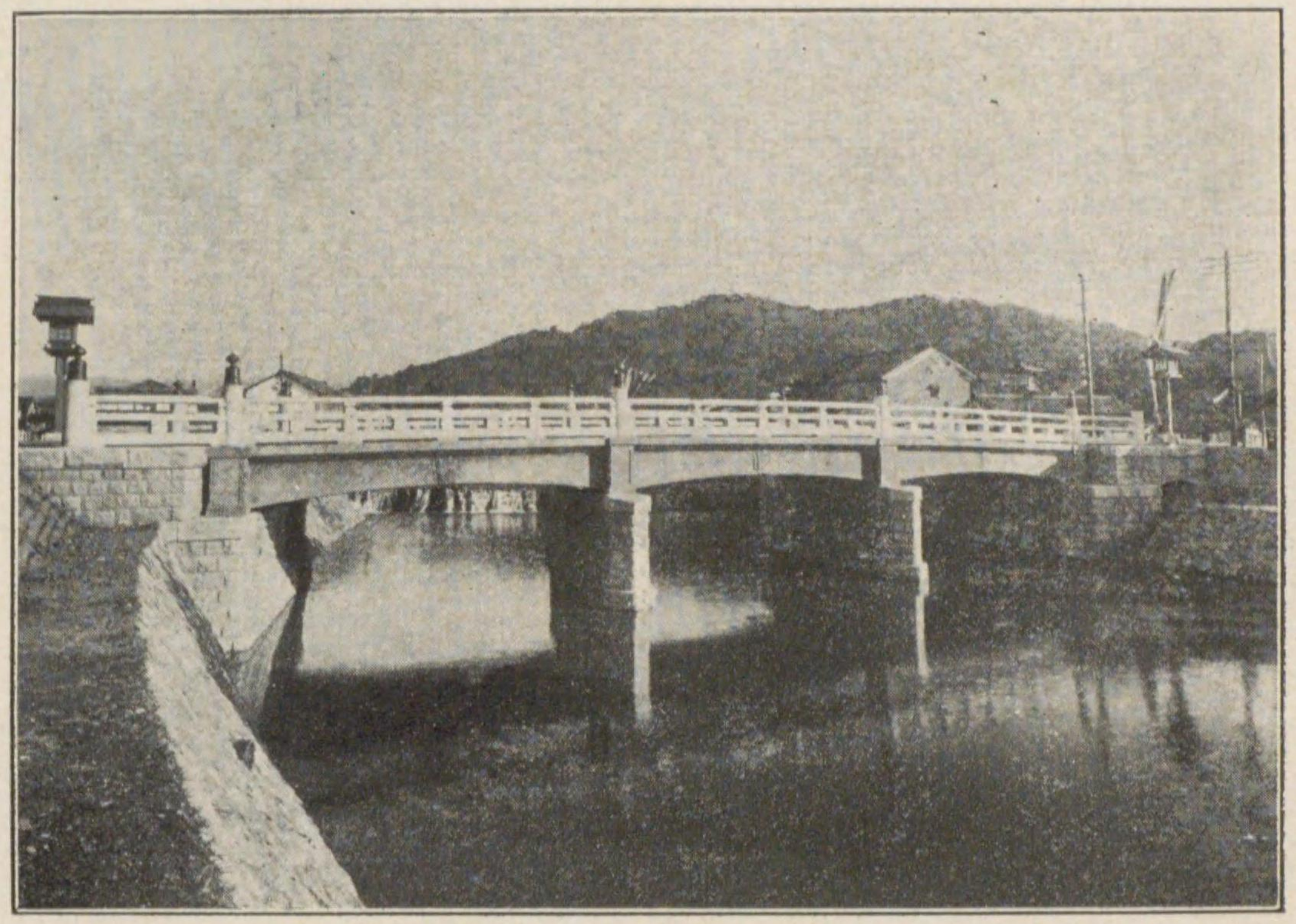
御使者口鳥居

(三) 大宮橋

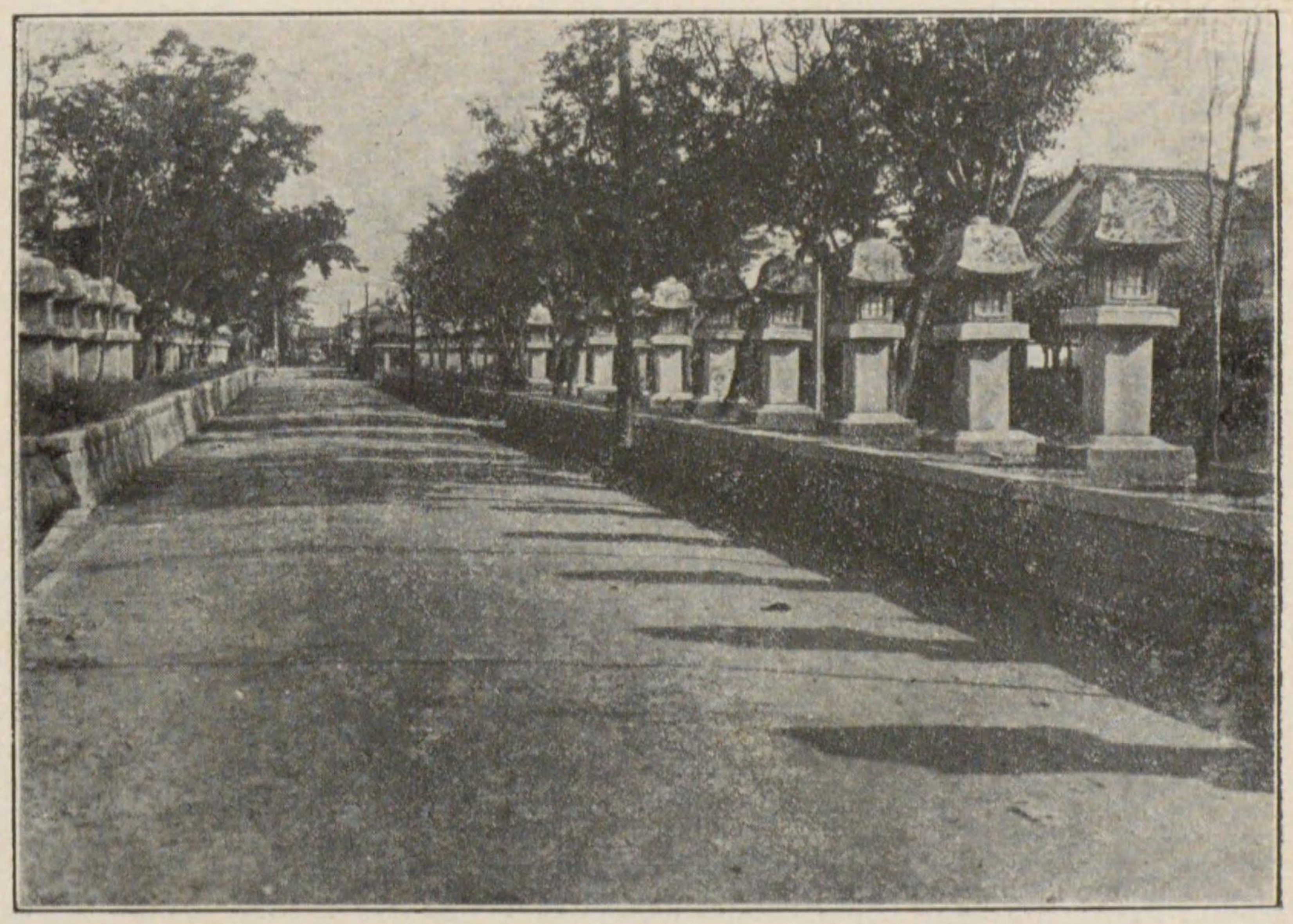
大宮橋は、金刀比羅御本宮の東北十五町、琴平町字大宮町にありて、潮川(宮川)に架す。青銅擬寶珠高欄附華崗石造、長十八間二尺、幅四間。

(三) 金刀比羅宮富士見馬場

富士見馬場は、御本宮の東北十五町、琴平町字富士見町にあり。左右の堤には石燈籠數十基を列立し、其間には多數の櫻樹を植ゑたり、馬場の長さ百二十間、夜は燈光樹々の青葉に映じて詩趣豐なるものあり。



大宮橋



富士見馬場

(四) 金刀比羅宮高燈籠

高燈籠は、御本宮の東北十六町、大宮橋東詰にあり。四注屋根、瓦葺二層、高十五間一尺、敷坪七坪餘、慶應元年讃岐國寒川(サムカハ)郡萬歲講獻納。

飲月已收光殘燈猶照闇瞥見曉鶻過一聲如裂帛　巖谷一六

金刀比羅宮高燈籠

金刀比羅宮高燈籠神苑

金刀比羅宮御神事塲梅林

(五) 金刀比羅宮高燈籠神苑

高燈籠神苑は、前記高燈籠を回れる神苑にして、一に北神苑といふ。苑内老松參差たるに藤の老樹あり。南は停車塲正面道路に面し、東は丸龜よりの舊參詣道に添ふ。此両道の交錯せる地點は舊一里塚趾にして、往時は松と榎との大樹ありて、二本樹と稱したりき。

(六) 同宮御神事塲梅林

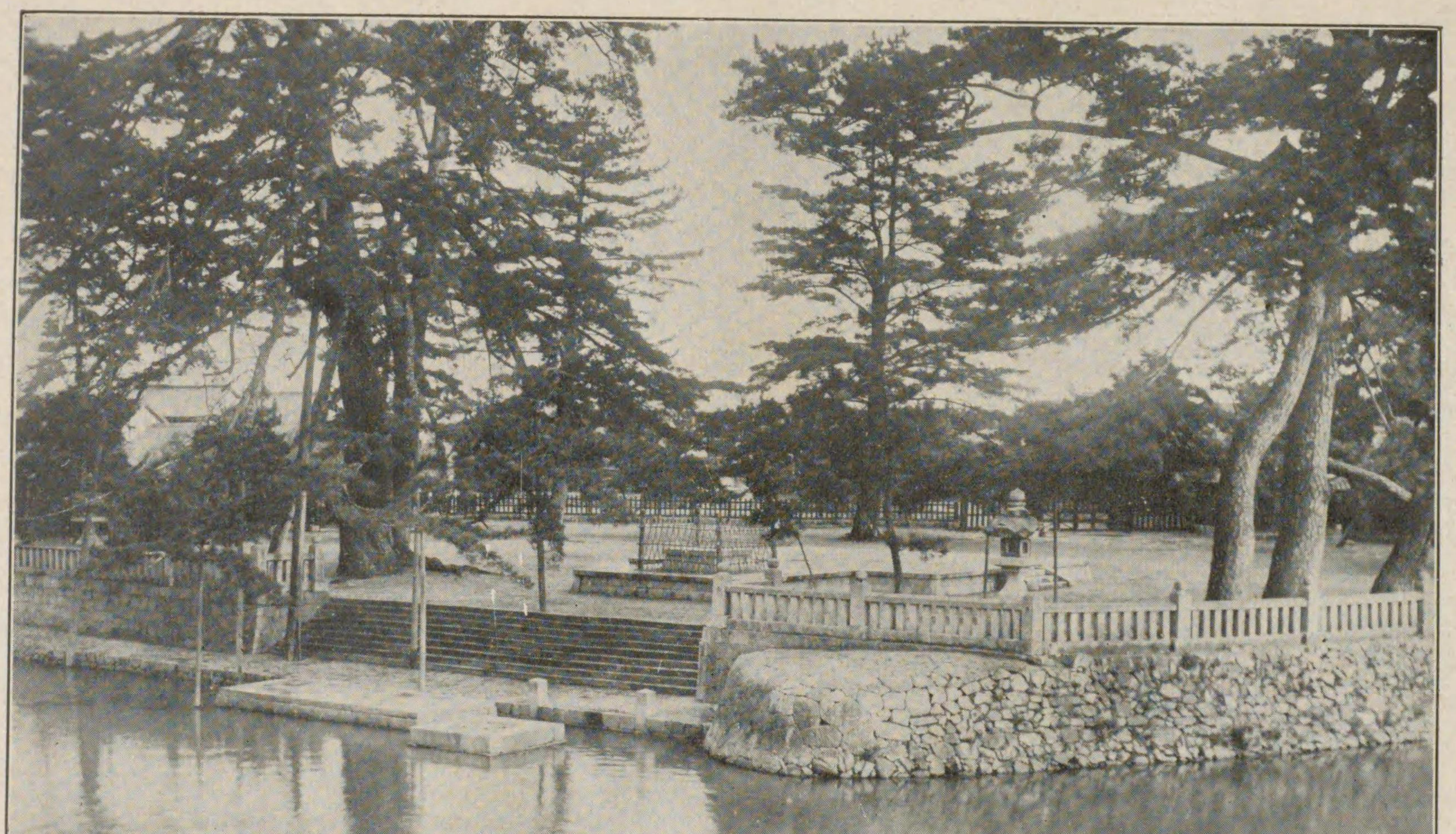
御神事塲は、御本宮の東十七町、市街の南端にありて、一に南神苑といひ、又御旅所ともいふ。面積二千九十一坪、西は潮川(宮川)を隔て、琴平公園の翠嵐に對す。此附近を世に小嵐峡といふ。苑の南半は齋庭にして、北半は梅林なり。春陽駘蕩の候笻を曳くもの多し。明治三十四年伏見宮文秀女王殿下御參拜の砌台臨あらせられたり。

(一七) 金刀比羅宮御神事場

前記御神事場齋庭の外觀なり。前を流るゝは潮川(宮川)にして、このあたりを石淵と稱す。春秋の詠見るへし。殊に滿山の錦葉妍を爭ふ晩秋の候最佳なり。

明妙照妙なせる紅葉よみそきの幣と散らすもあらなむ　文學博士鈴木重嶺

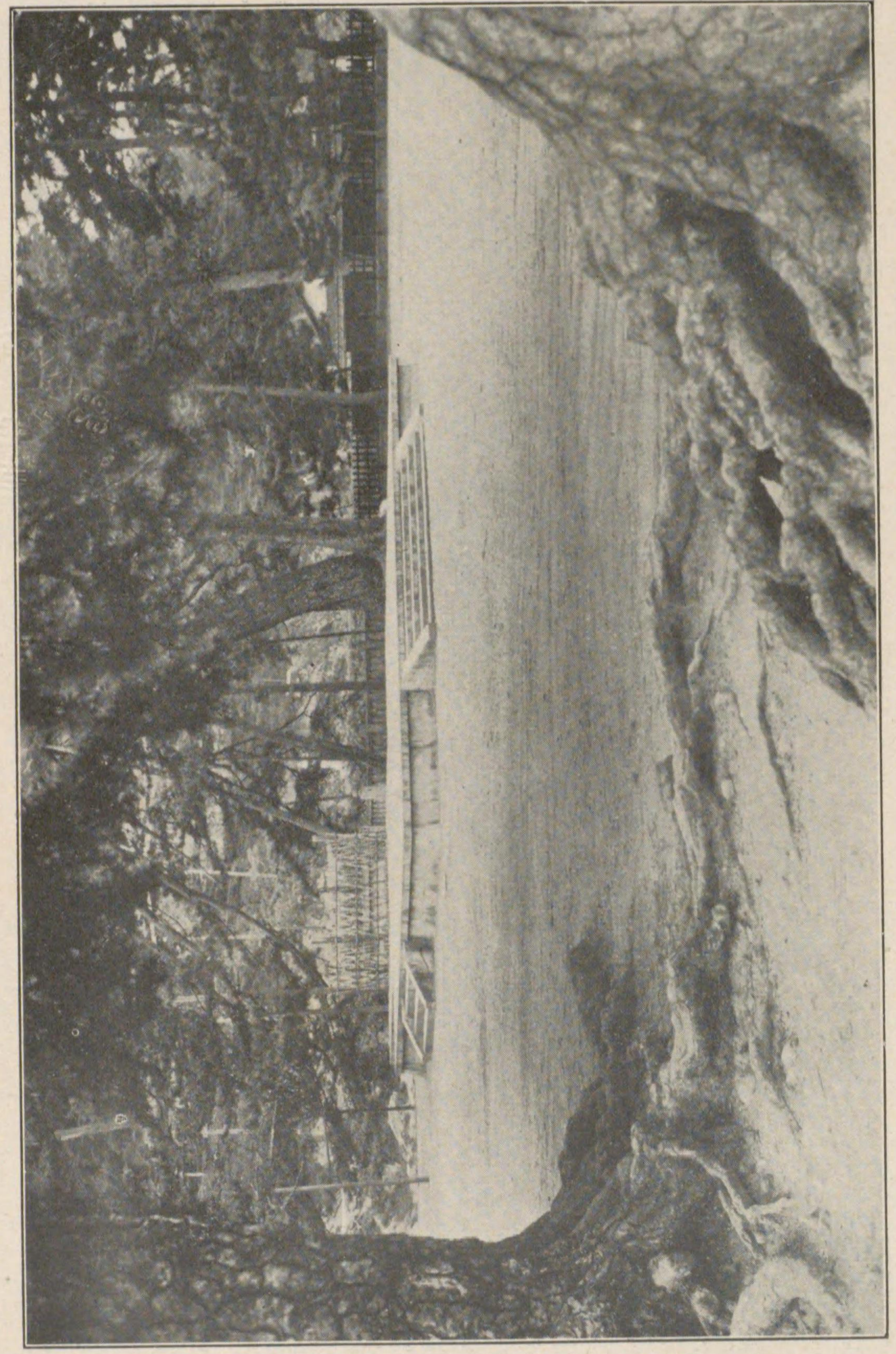
琴祠秋隱翠微中下有清流上有楓靈鼓坎坎醉人散神鴉啼送夕陽紅　森槐南



金刀比羅宮御神事場

(六)金刀比羅宮御神事場齋庭

前記御神事場の齋庭にして、砂白く松緑にして俗塵を止めず。月清き夜の松風は最詩趣に富む。毎年十月十日、十一日の御大祭を始め、四月十五日の御田植祭、六月三十日の大祓、九月八日の潮川神事は、此齋庭に於て行はる。祭壇四十四坪餘。齋庭外梅林に潮川神事場碑あり、牧野古愚の撰文、市河米庵の書なり。



金刀比羅宮御神事場齋庭

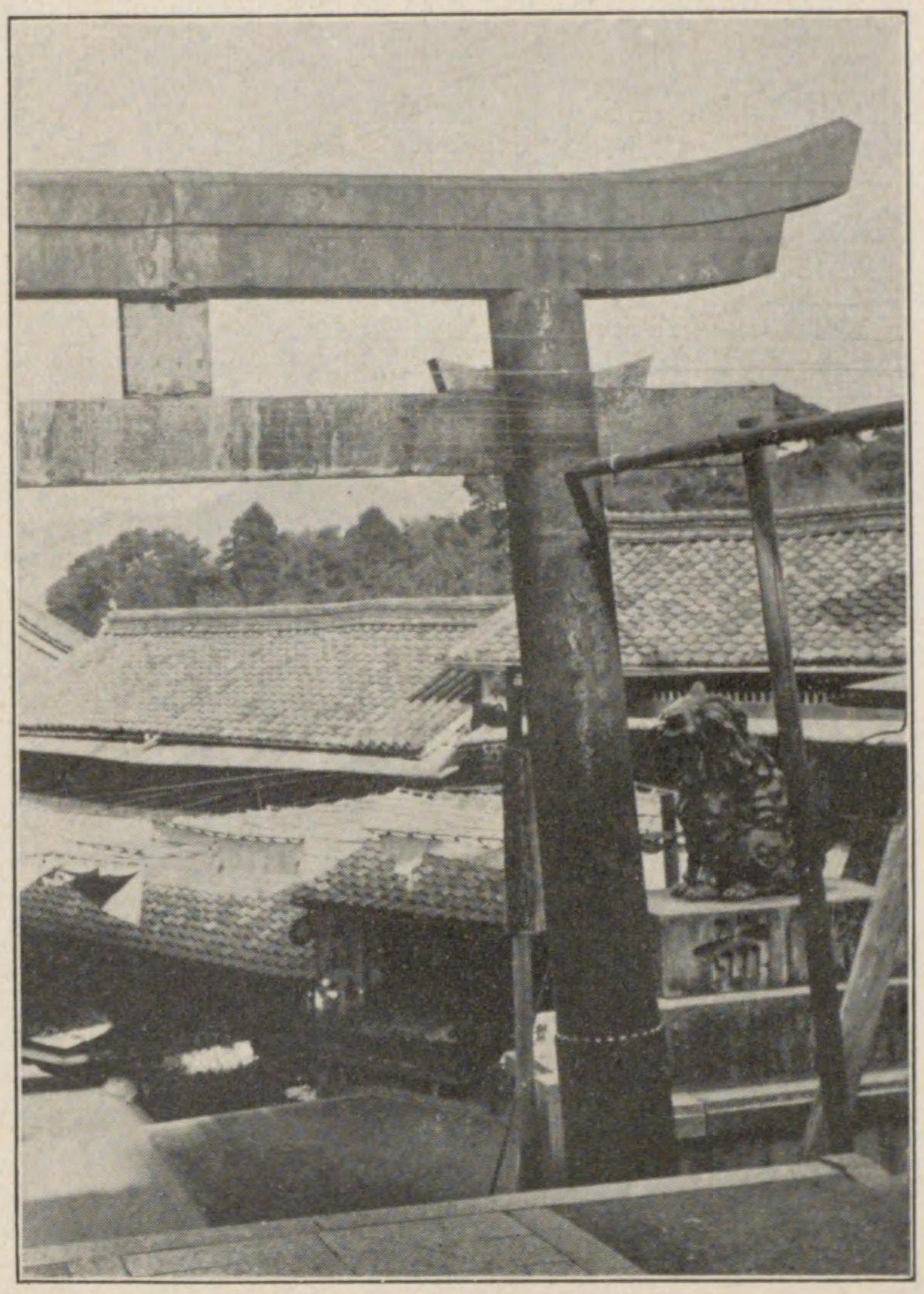
(一九) 金刀比羅宮鞘橋

鞘橋(サヤバシ)は、御本宮の東南十四町、潮川(宮川)に架す。銅葺、両妻唐破風、上屋根千鳥破風、の屋根あり、これ鞘橋(サヤバシ)の稱ある所以にして、橋柱を用ゐず両岸より組出の構造なるを以て一に浮橋(ウキハシ)ともいふ。長十三間、幅二間三尺。創建詳ならず。寛永天明の改造を經て、現今のものは明治二年の改築にして、阿波國鞘橋講中の獻納せるところなり。毎年十月十日御大祭に當り神輿此橋上を渡御あらせらる。

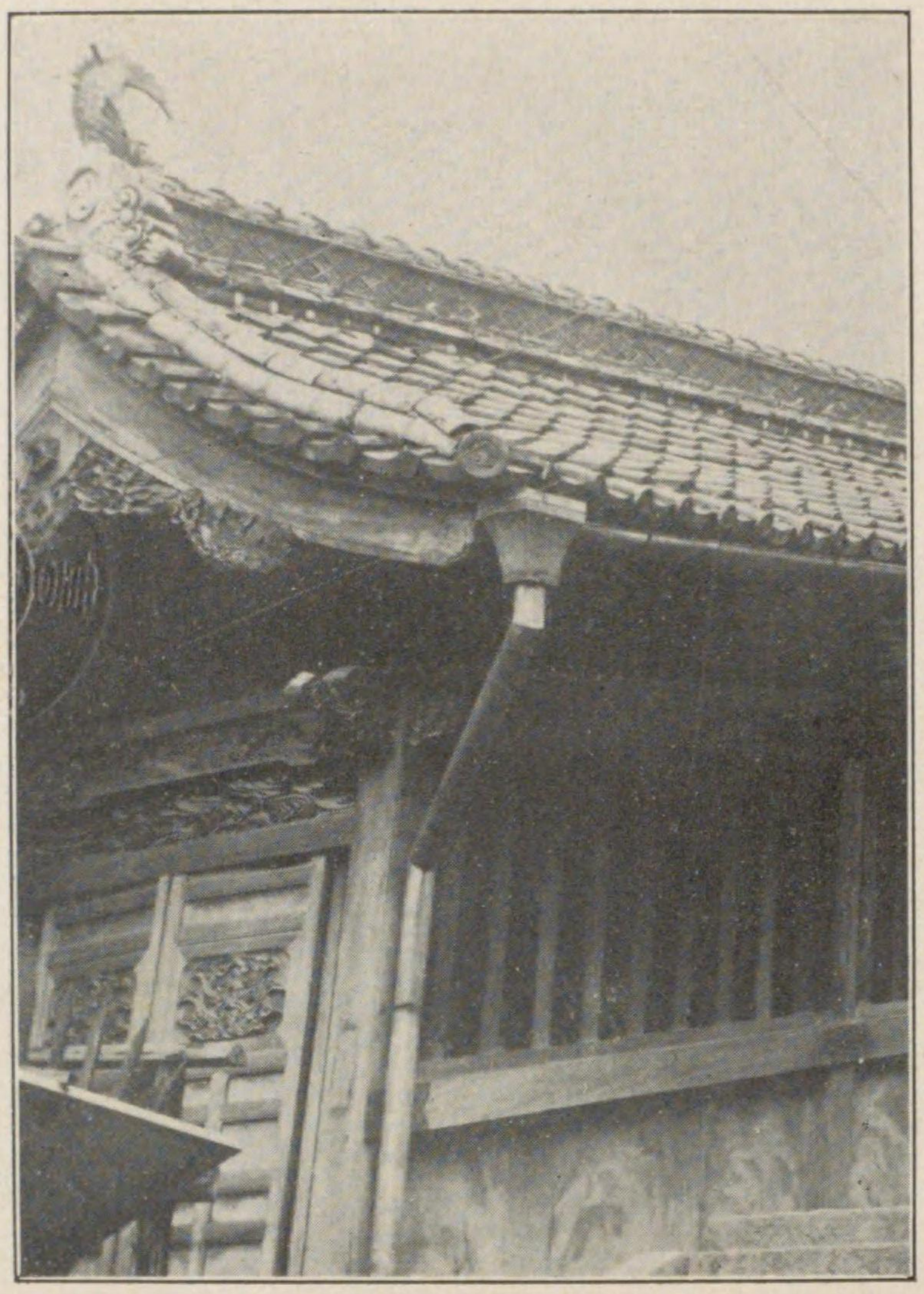
これやこの天の浮橋うへしこそ我大神の渡りましぬれ　　久米幹文

橋上安廊屋設廟亘両坼在中何所似舟居非水人　　皆川淇園

金刀比羅宮鞘橋



一之阪鳥居



金刀比羅宮登廻廊

(二〇)　一之阪鳥居

一之坂(イチノサカ)鳥居は、金刀比羅御本宮の東七町餘、琴平町字一之坂にあり。鐵製藁座造、高二十三尺七寸餘、柱間十五尺二寸餘。安政六年伊豫國西條新居濱三浦治右衛門外數百名獻納。

(二一)　金刀比羅宮登回廊

登回廊(ノボリクワイラウ)は、御本宮の東七町、琴平町字一之坂にあり。切妻造瓦葺。桁行七十二尺、梁行六尺六寸、建坪十三坪餘。慶應三年安藝國因嶋金因講獻納。

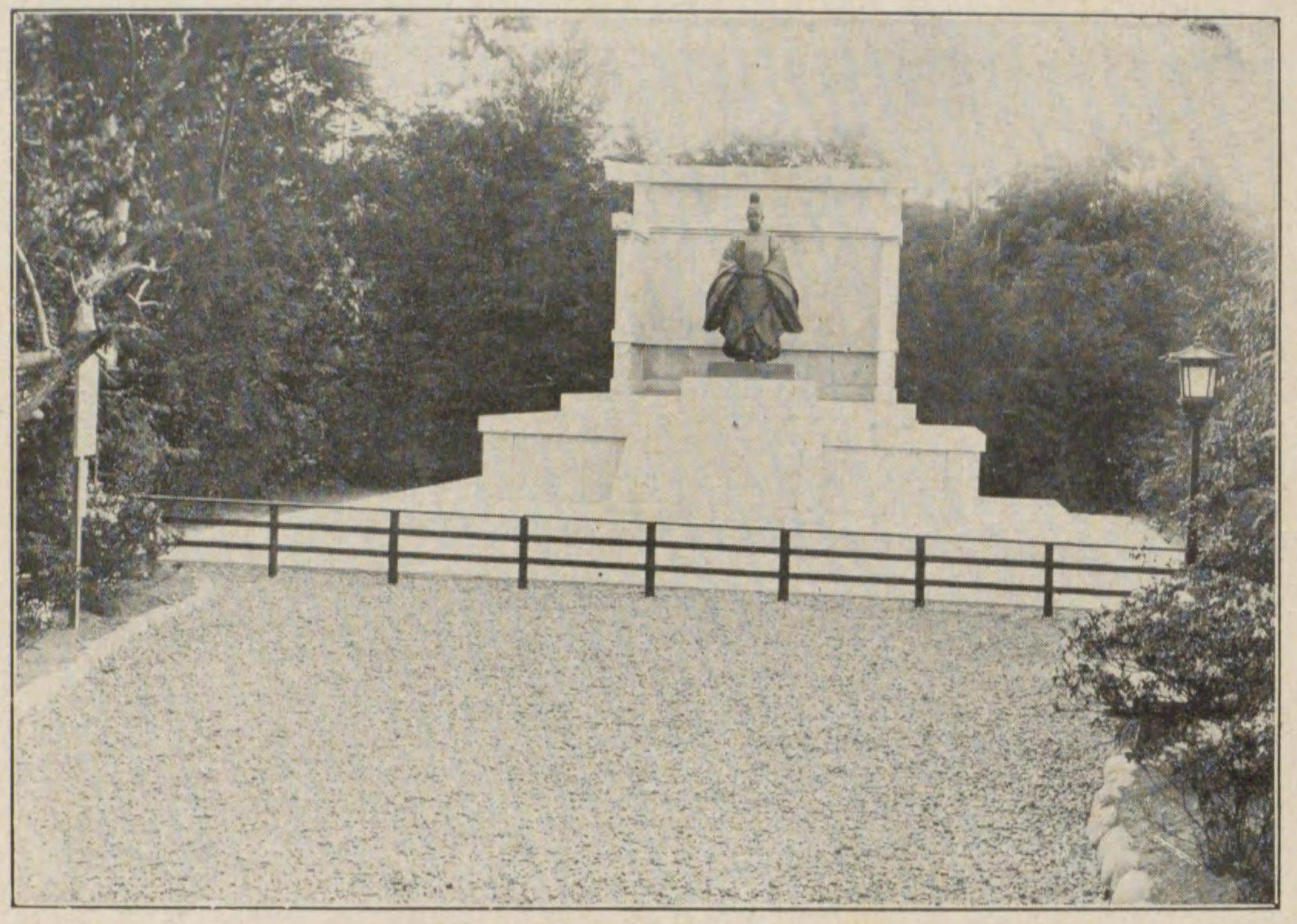
（三）琴陵宥常銅像

琴陵宥常（コトチカヒロツネ）銅像は、金刀比羅宮大門外神苑接續地にあり。宥常は累代職を金刀比羅宮に奉して宮司たり。性温厚篤實、至誠神明に奉仕する事多年一日の如し。晩年帝國水難救濟會を創立し、會長として海難救濟に力を盡し、其功顯著なるものあり、從五位に叙せられ明治二十五年卒す。

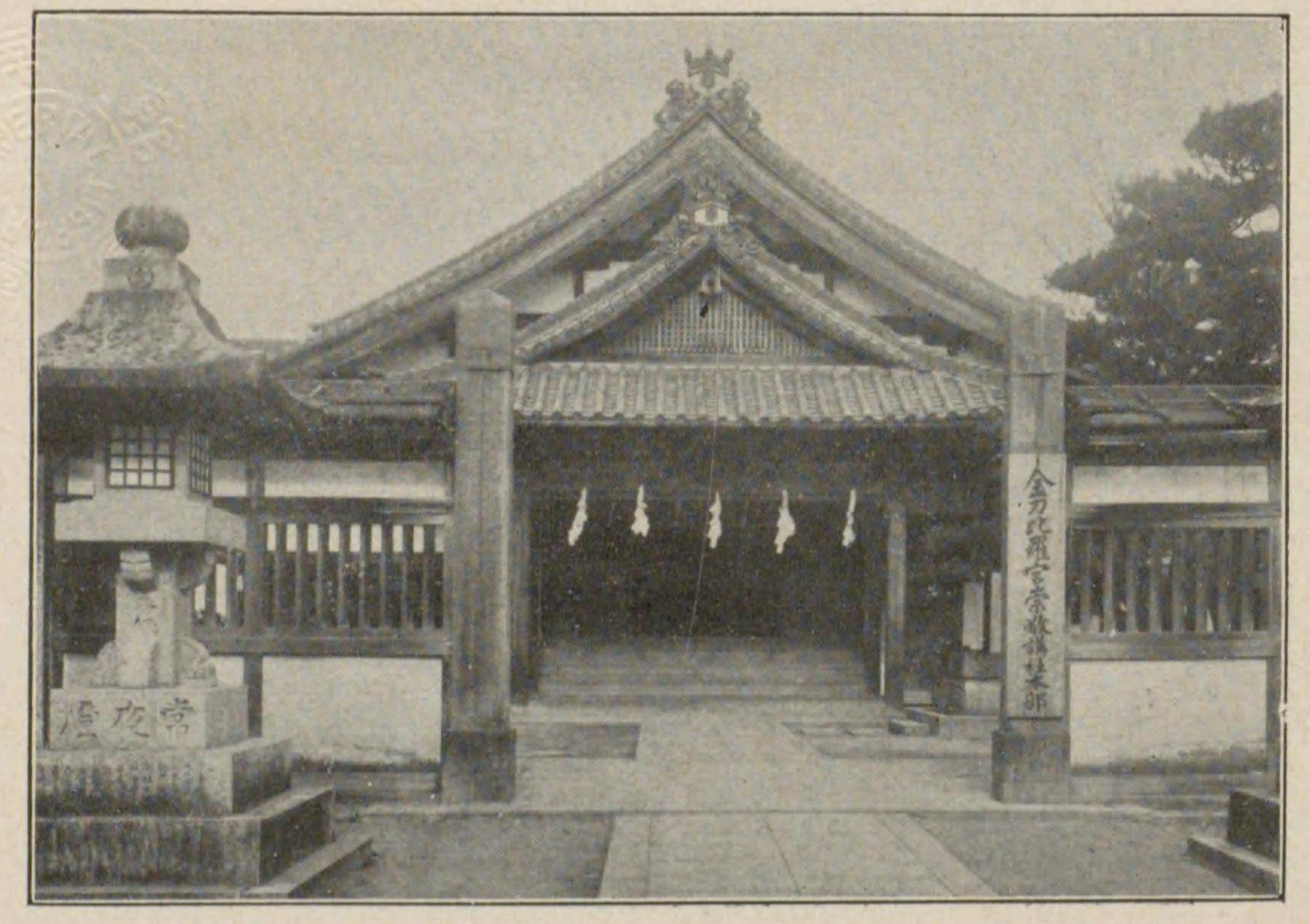
此銅像は帝國水難救濟會に於て、創立三十年記念として廣く世の篤志者の贊同を得て、昭和二年建設せるものなり。銅像高八尺五寸、同地盤より高十五尺九寸、屏障及臺石の高十七尺五寸、幅二十一尺五寸、奥行十九尺、敷坪二十五坪。像は香川縣立高松工藝學校之を鑄造す。水難救濟會は海國日本に於ける最必要なる事業の一として、大に世の同情を得、會運愈隆昌に赴き、今や全國に於ける救難所八十四個所に及び創立以來五萬人命と七千六百萬圓の船貨財とを救濟せり。

（三）金刀比羅宮崇敬講社本部玄關

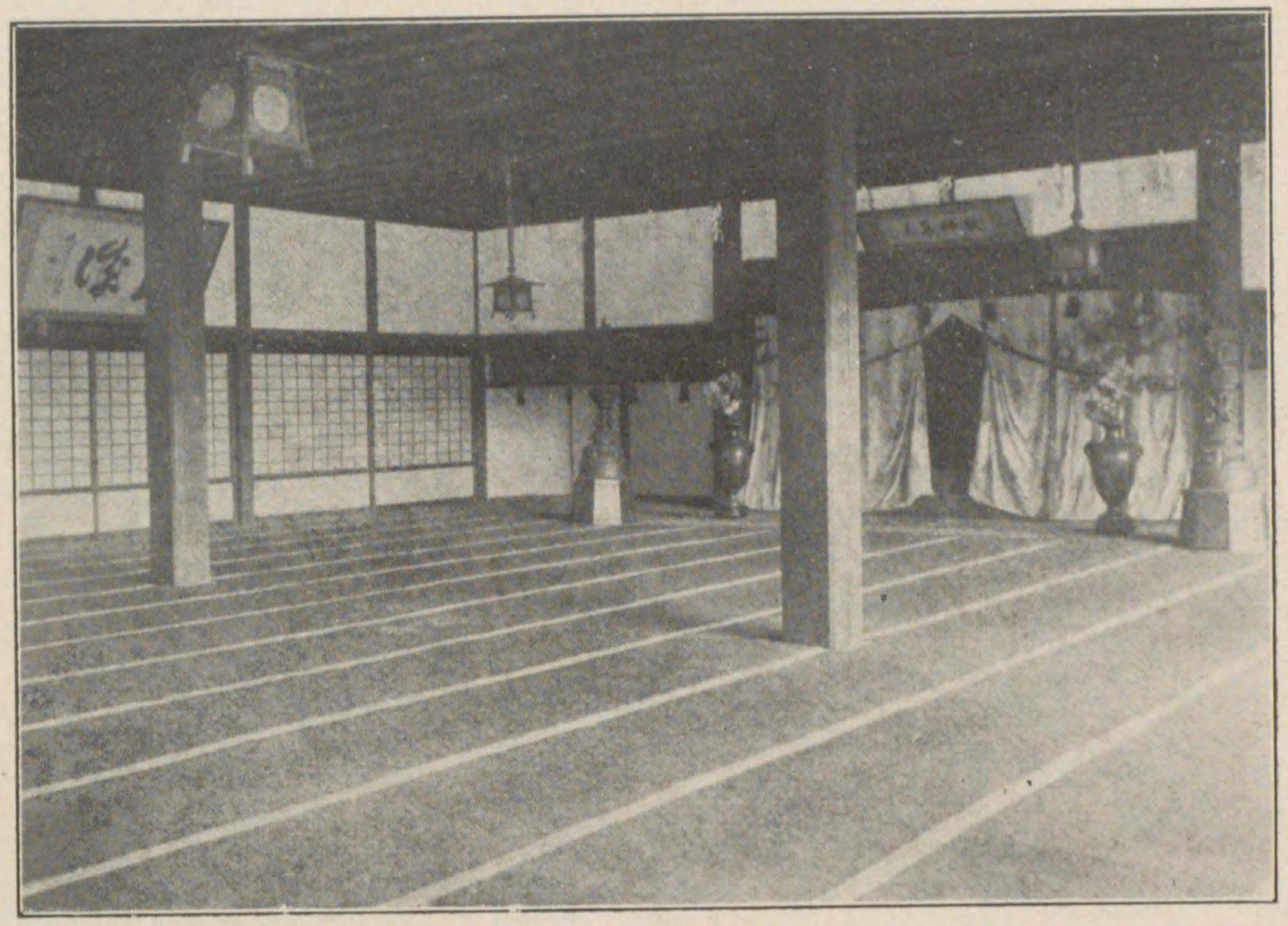
崇敬講社は、金刀比羅宮附屬講社にして、本部は講社加入又は講員參拜に關する事務を扱ふ所なり、大門外北側にあり。圖は其玄關にして入母家造瓦葺、四坪九合餘、明治十年建築。



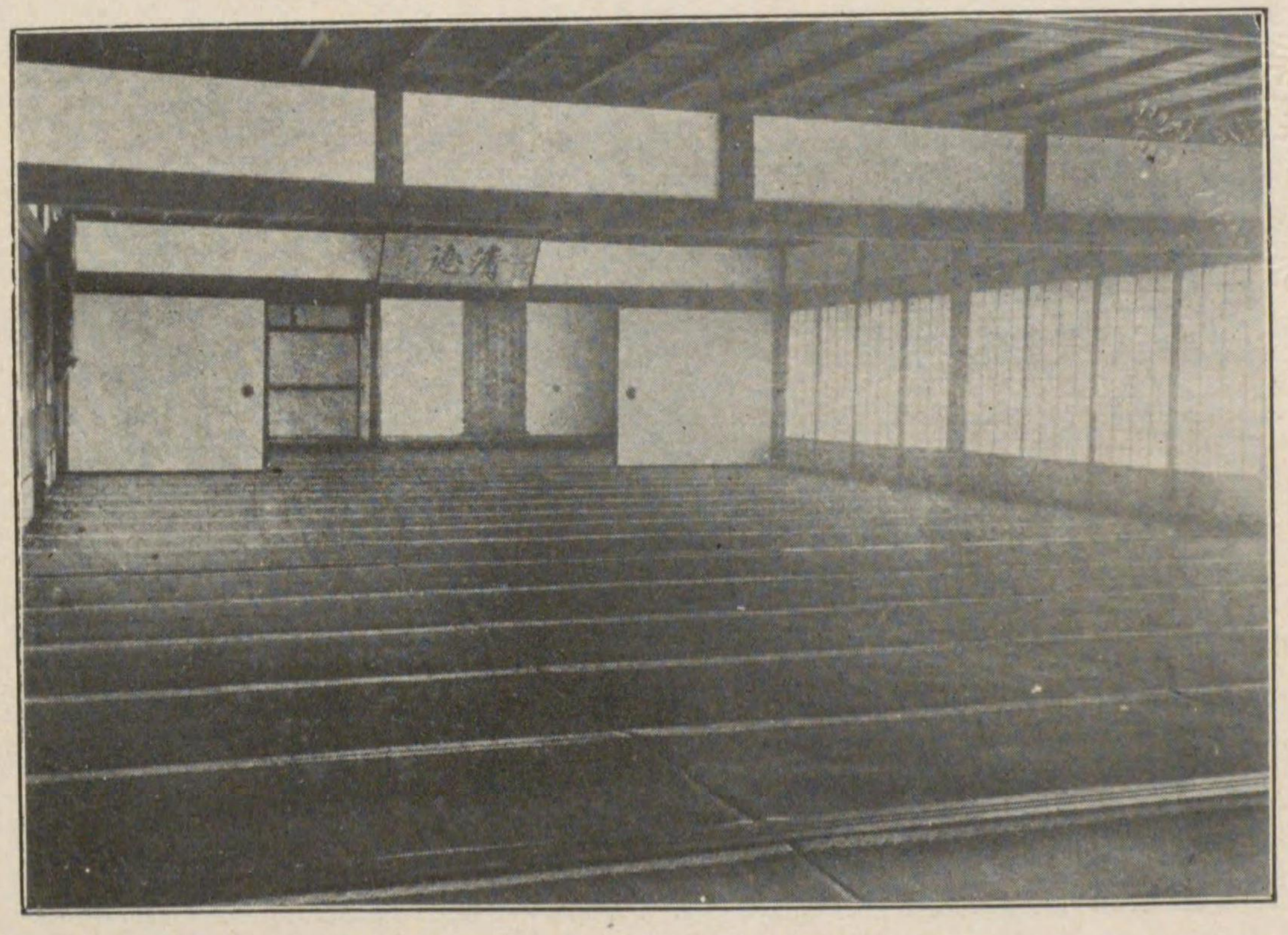
琴陵宥常銅像



金刀比羅宮崇敬講社本部玄關



金刀比羅宮崇敬講社本部大廣間



同本部西階上廣間

(二四) 金刀比羅宮崇敬講社本部大廣間

前記講社本部の大廣間。切妻造瓦葺、九十二坪餘。下屋片屋根造二十坪九合餘。明治十年建築。大廣間の東椽に立ては、琴平山の山嘴たる彌景、愛宕、天神の諸峰を望み、嵐氣軒に迫る、四季の風光甚佳なり。

(二五) 同本部西階上廣間

前記大廣間の西に隣れる二階建物の階上廣間、切妻瓦葺、九十三坪餘、明治十年建築。此廣間の西北に續きて二階建小座敷あり。其襖、一の間は春季花鳥圖濃彩、二の間は秋野群鹿圖淡彩、孰も森寛齋の筆なり。此廣間及小座敷よりの眺望絶佳にして、神苑の一部を越えて、琴平山の翠巒、那珂の平野、讃岐小富士をも望むべし。

(二六) 金刀比羅宮鼓樓

鼓樓(コロウ)は大門外の南側にあり。二層入母家造、瓦葺、建坪六坪五合、寶永七年の建築なり。樓上時鼓を備へ晝夜時を報す。

松風も聲打添へて神山の高き鼓の音ぞ聞こゆる

文學博士　小中村清矩

老松森蔽空屹爾譙樓立方知報午時嵐翠鼓聲濕

巖谷一六

(二七) 清少納言塚

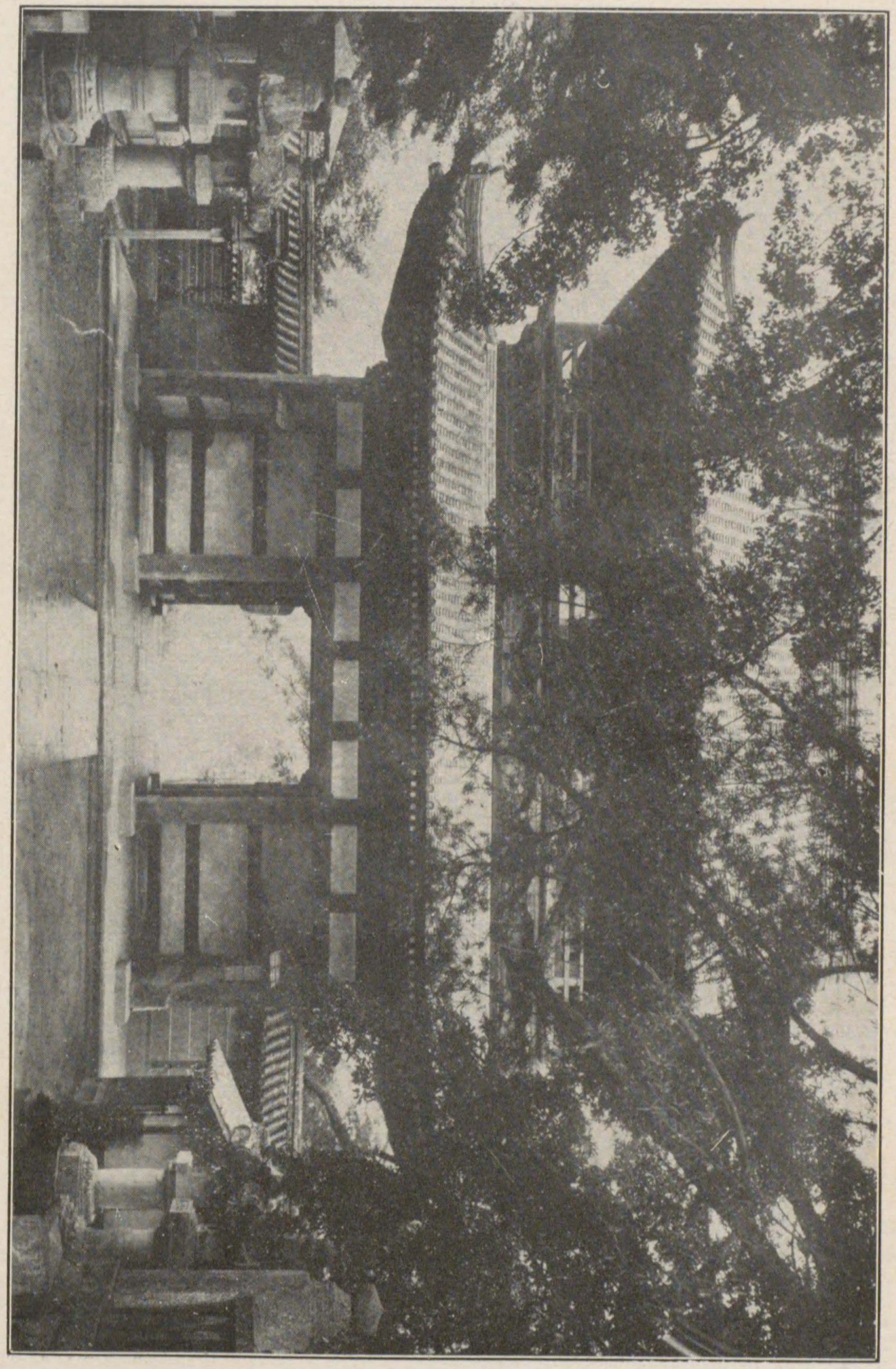
清少納言塚は鼓樓の東に隣れり、一に清塚(キヨヅカ)といふ。清原元輔はいたく當宮を崇敬せしが、清少納言老後四國に渡り、父元輔の所縁によりて當宮に奉し、終に此地に卒すと言傳へ、其塚と稱する古墳ありしが、寶永七年五月前記鼓樓建築に當り、工夫共過ちて塚石を壞しけるに、其夜附近に住める大野孝信(タカノブ)の夢に宮女現れ「うつゝなき跡のしるしを誰にかは訪はれしなれとありてしもかな」といへる和歌を詠す。こゝに於て塚を修め、天保十五年傍に碑を建てゝ此事蹟を誌す。

金刀比羅宮鼓樓

清少納言塚

(三六)金刀比羅宮大門

大門は神域に入る總門にして、二層入母屋造本瓦葺、建坪二十五坪餘、慶安二年改築。樓上に揭揚せる琴平山三字の額は、有栖川宮熾仁親王殿下の御筆なり。



金刀比羅宮大門

（二九）金刀比羅宮櫻馬場

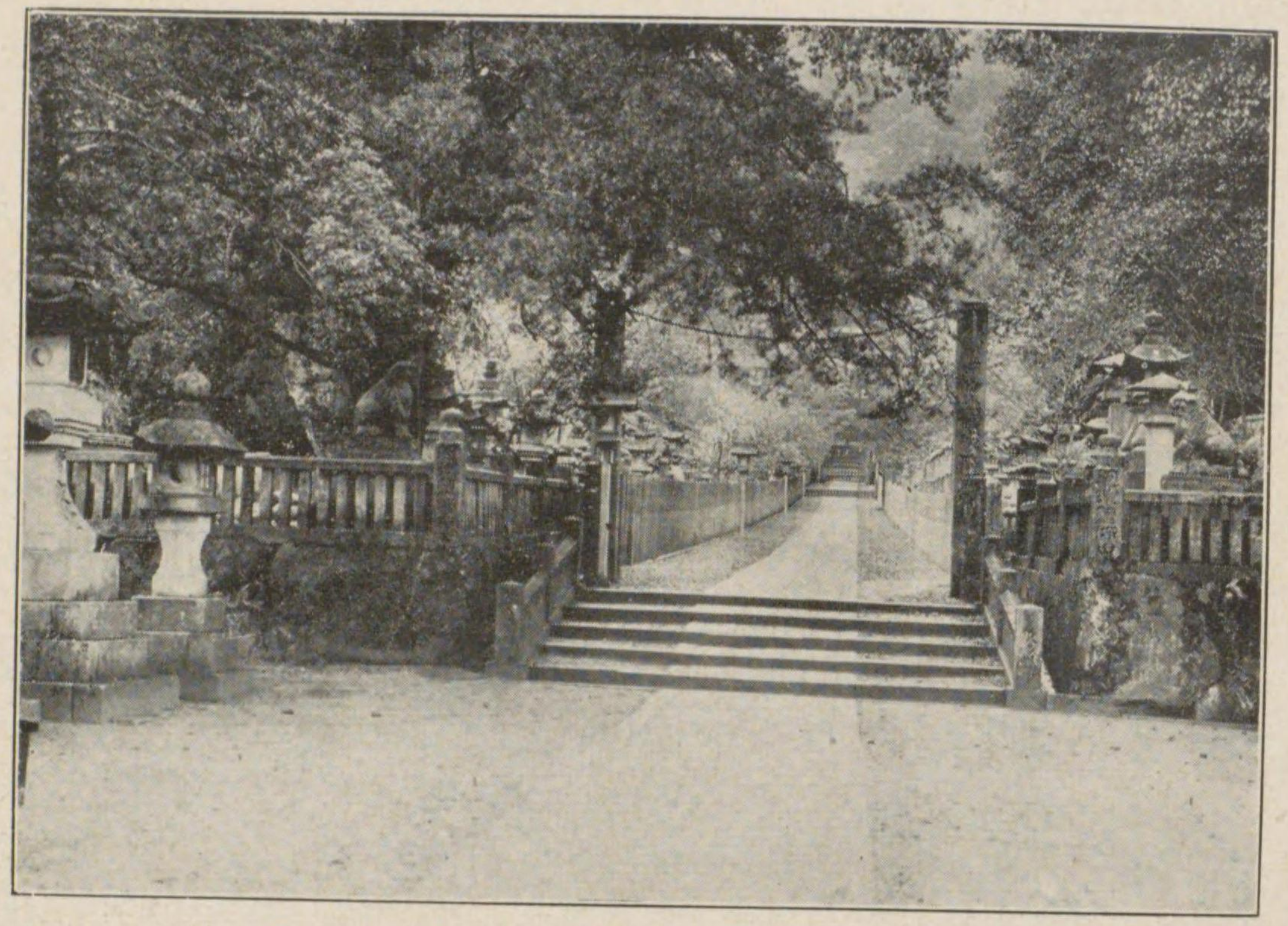
大門を入りて約一町半の間を櫻馬場（サクラノババ）といふ。中央の通路は石疊にして、左右玉垣の内には數拾株の彼岸櫻を栽ゑ、石燈籠を列立す。花時頗艶麗、古來其名遠近に聞こゆ。

花を世にもてはやさるゝ象山の春の盛に逢ひにける哉　男爵　高崎正風

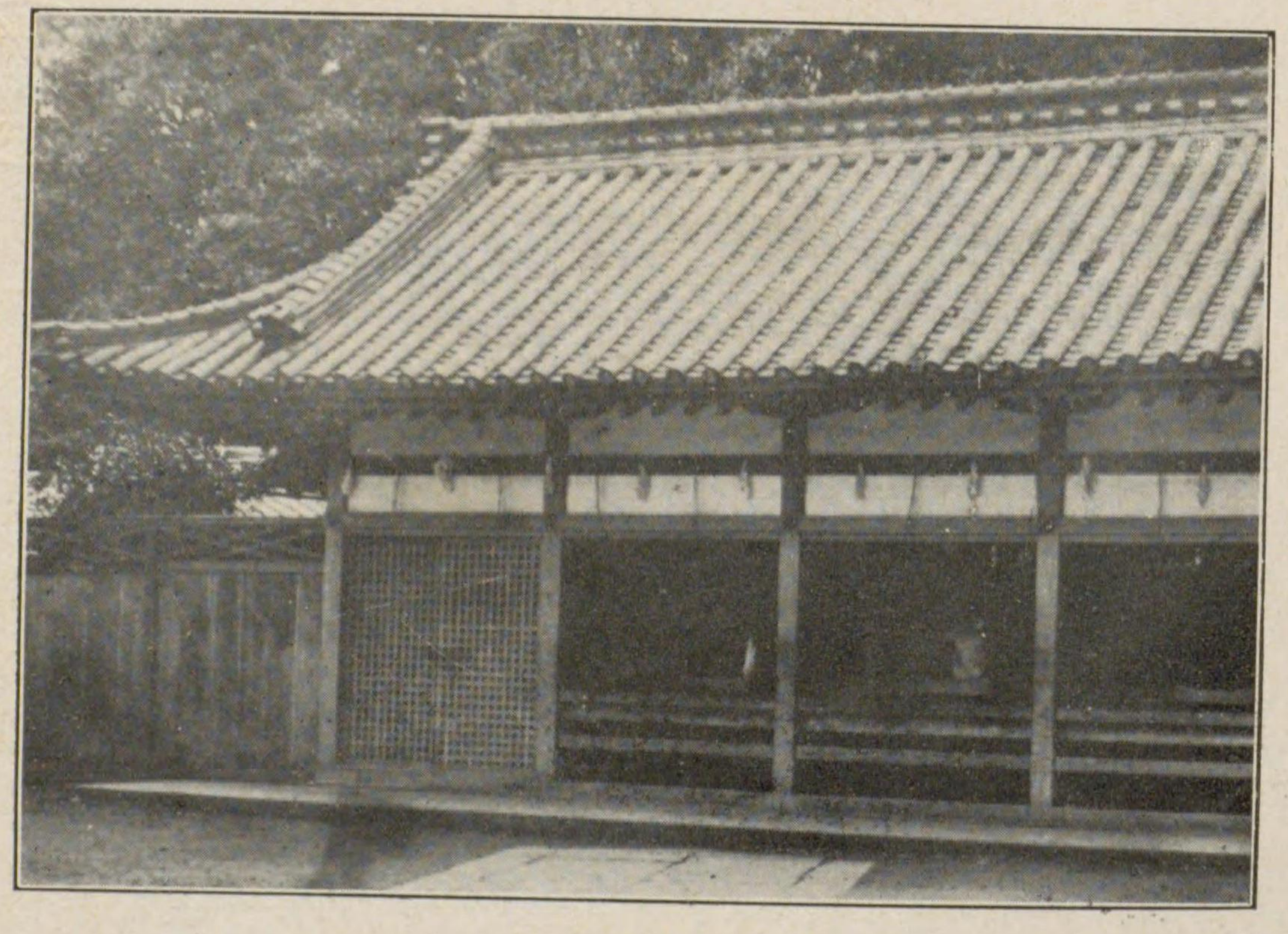
南土奥區在高甍俯翠微両行花映帶轉眄鬪芳菲　伊藤東涯

（三〇）同御廐

御廐（ミウマヤ）は櫻馬場を西に進む事二町左方にあり。入母家造平入、瓦葺、建坪十六坪、下屋二坪七合餘、大正二年改築、神馬二頭又は三頭を飼養す。

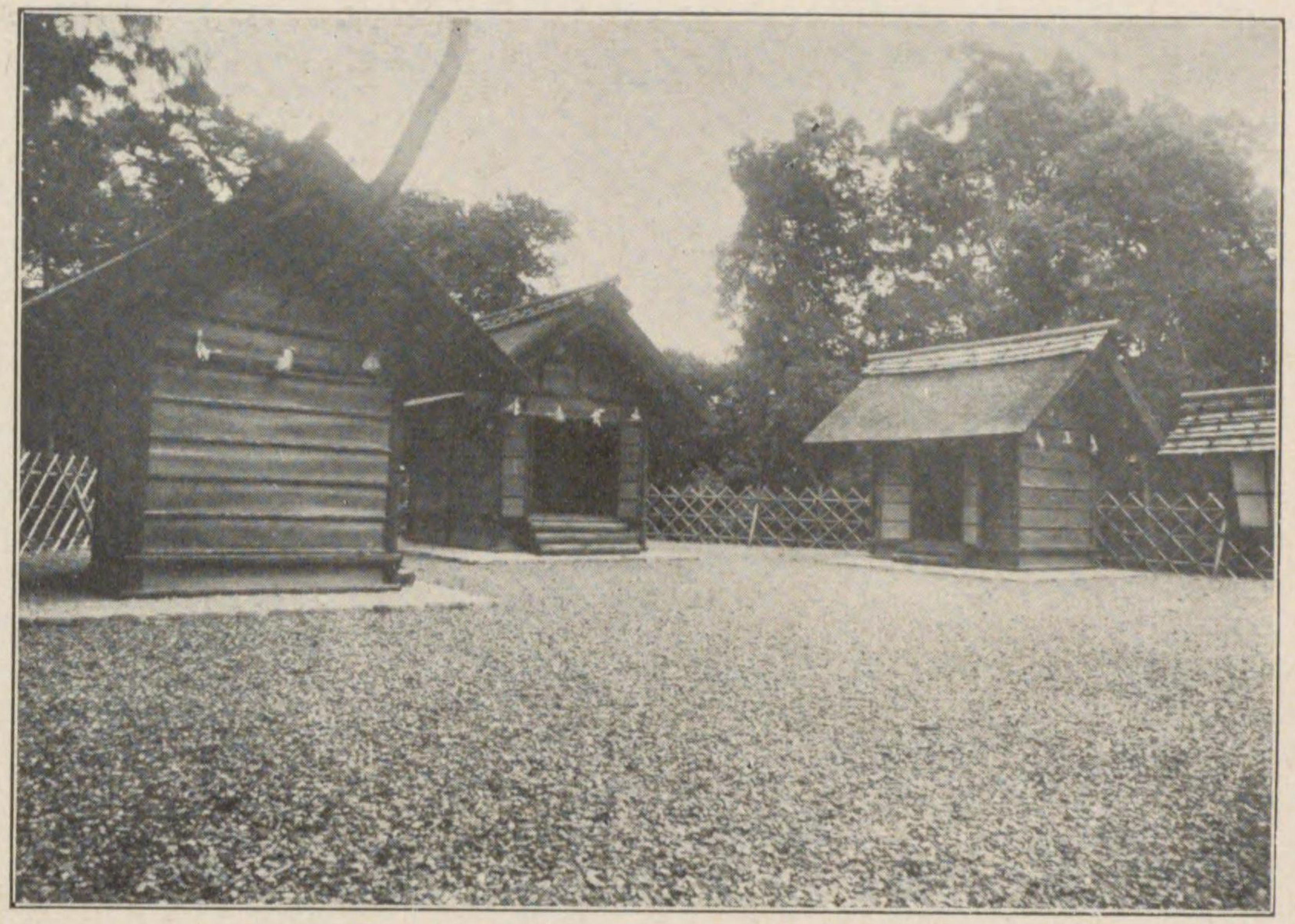


金刀比羅宮櫻馬場

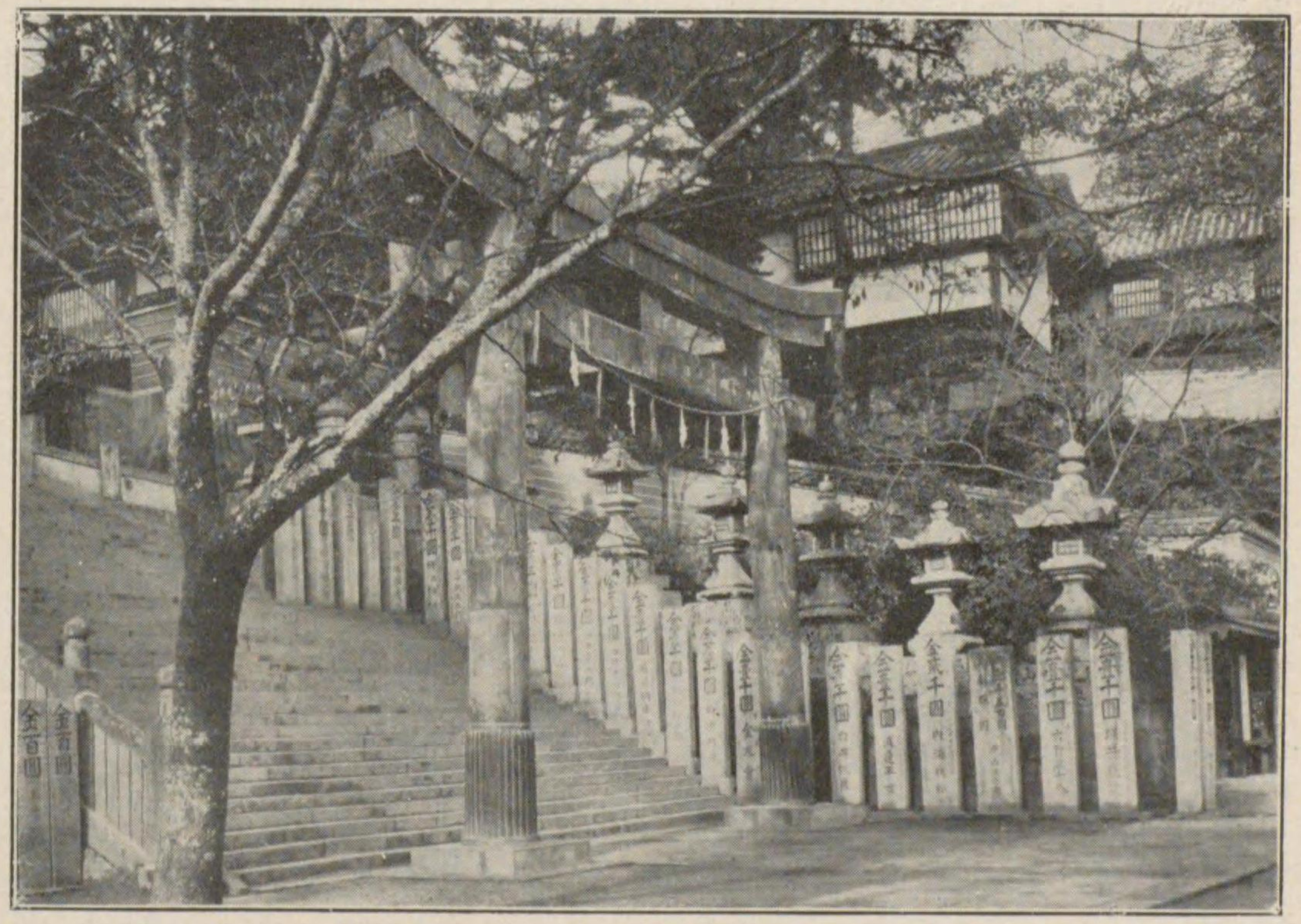


金刀比羅宮御廐

金刀比羅宮主基記念殿



金刀比羅宮櫻馬塲西詰銅鳥居



(三) 金刀比羅宮主基記念殿

大正御卽位禮に當り、香川縣を主基國に　勅定、齋田を綾歌郡山田村に置かせられ、大正四年八月掌典參向齋院地鎭祭を行ひ齋院を建てられ、九月十八日勅使參向此齋院に於て拔穗の御儀を行はせられたり。當宮はこゝに大禮を記念せんが爲め齋院を其筋より申請けて、大正五年原形の如く移遷したるもの卽此主基記念殿なり。三殿のうち中央は神殿、向うて右は神饌殿、左は稲實殿とす。いづれも切妻黑木造、茅葺にして、神殿は五坪、神饌殿稲實殿は各三坪。竹柵は延長五十一間餘。

(三) 同櫻馬塲西詰銅鳥居

櫻馬塲西詰銅鳥居は、銅製藁座造、高二十四尺、柱間十六尺五寸にして、元山麓高燈籠の東側にありしを、大正元年大阪市南區天王寺大道十二代目 朝日山四郎右衛門 之を 移轉修築す。

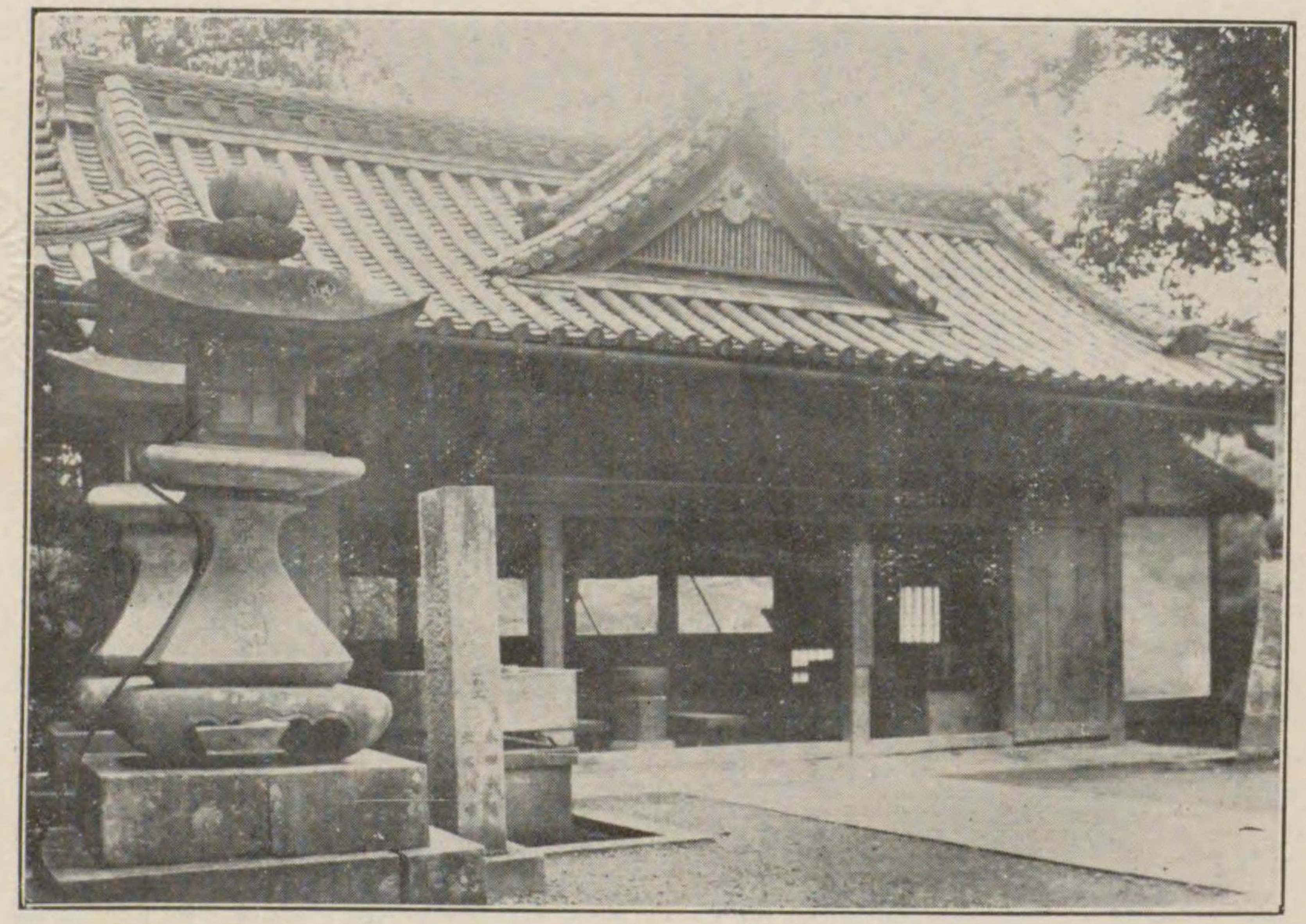
(三三) 金刀比羅宮木馬舎

木馬舎（モクバシャ）は櫻の馬場西詰鳥居をくゝりゝ社務所門前に出て、左に折れて進めは、左方にある建物にして、入母家造平入、瓦葺、建坪十八坪餘、慶安三年讃岐高松城主松平讃岐守賴重獻納。內に納むる木馬は京師田中環中齋弘敎宗圓作。

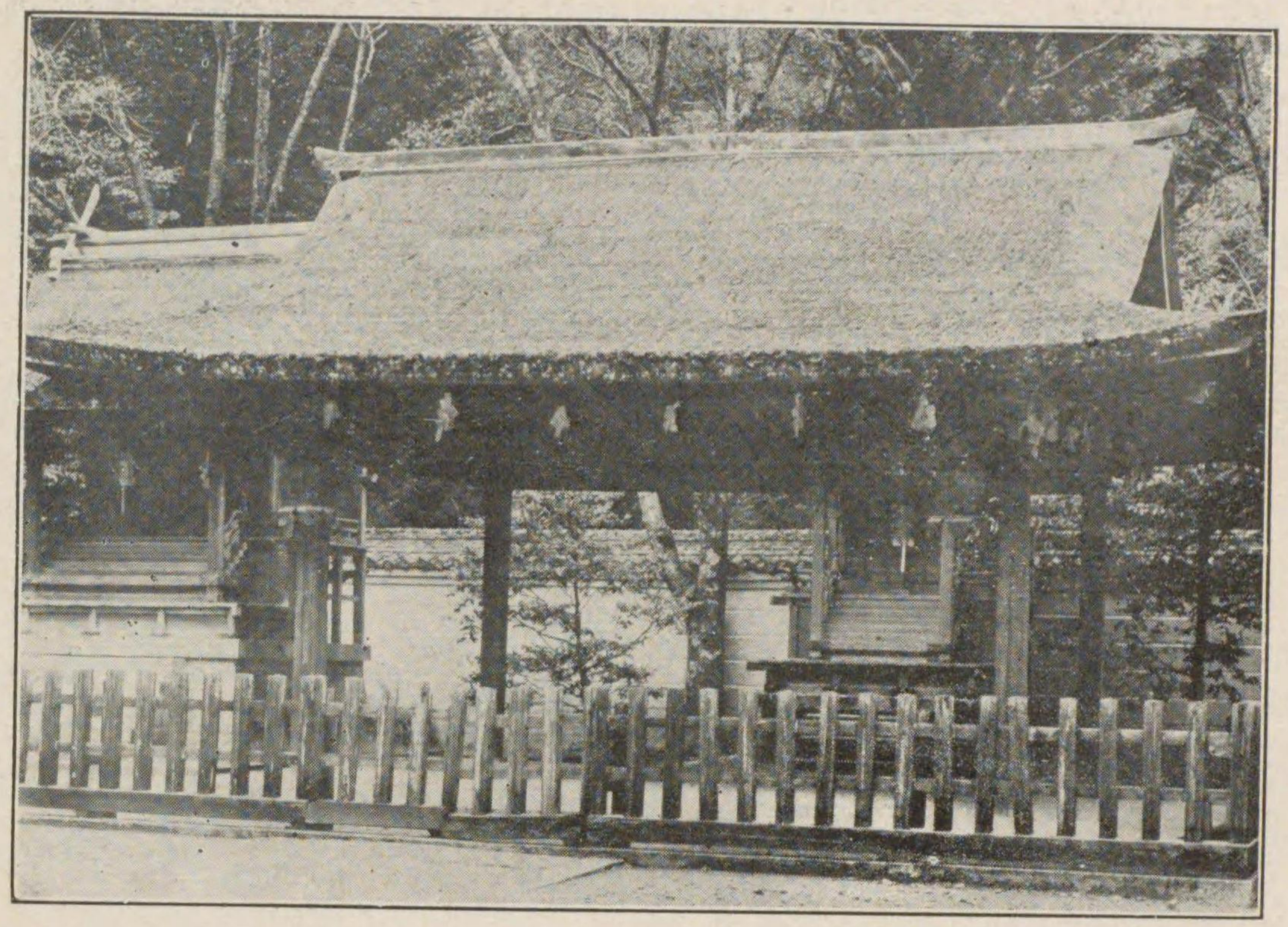
(三四) 同　茶　所

茶所（チャジョ）は木馬舎の南に接す。入母家造平入、瓦葺、建坪十坪七合餘。寬政九年大阪戎橋大和屋彌三郎外講中獻納。參拜者はこゝに於て隨意に休憩して茶を喫する事を得。

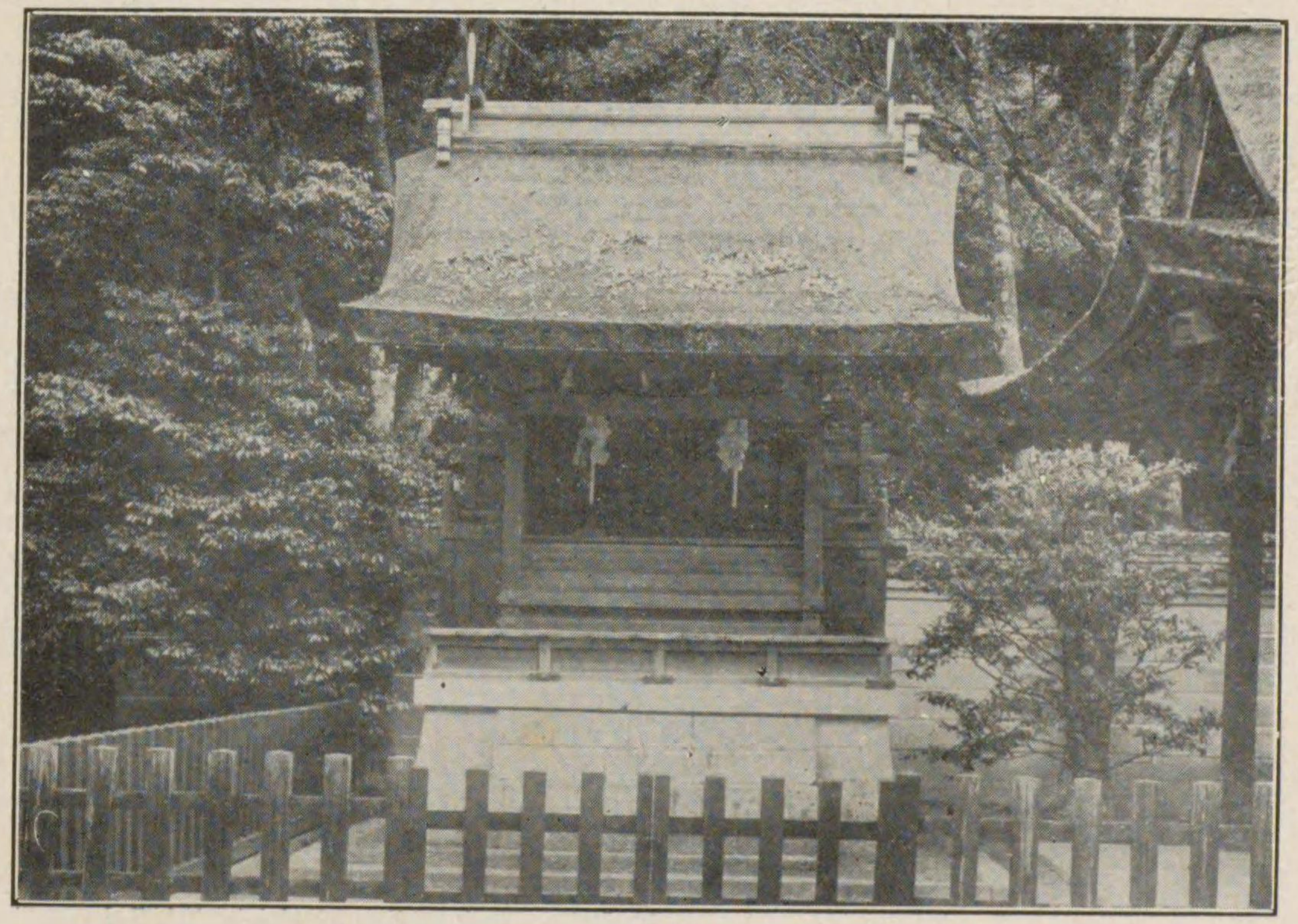
金刀比羅宮木馬舎



金刀比羅宮茶所



金刀比羅宮御末社祓戸社



金刀比羅宮御末社火雷社

(三五) 金刀比羅宮御末社祓戸社

祓戸社は茶所の西一町にあり。本殿、流造四方高欄、檜皮葺、建坪六合。拜殿、入母家造平入、檜皮葺、拜庭、建坪六坪五合餘。明治十三年改築。瀬織津姫神、速秋津姫神、氣吹戸主神、速佐須良姫神、鎮座。參拜者はこゝに於て、心身の祓除を禱る。

(三六) 同御末社火雷社

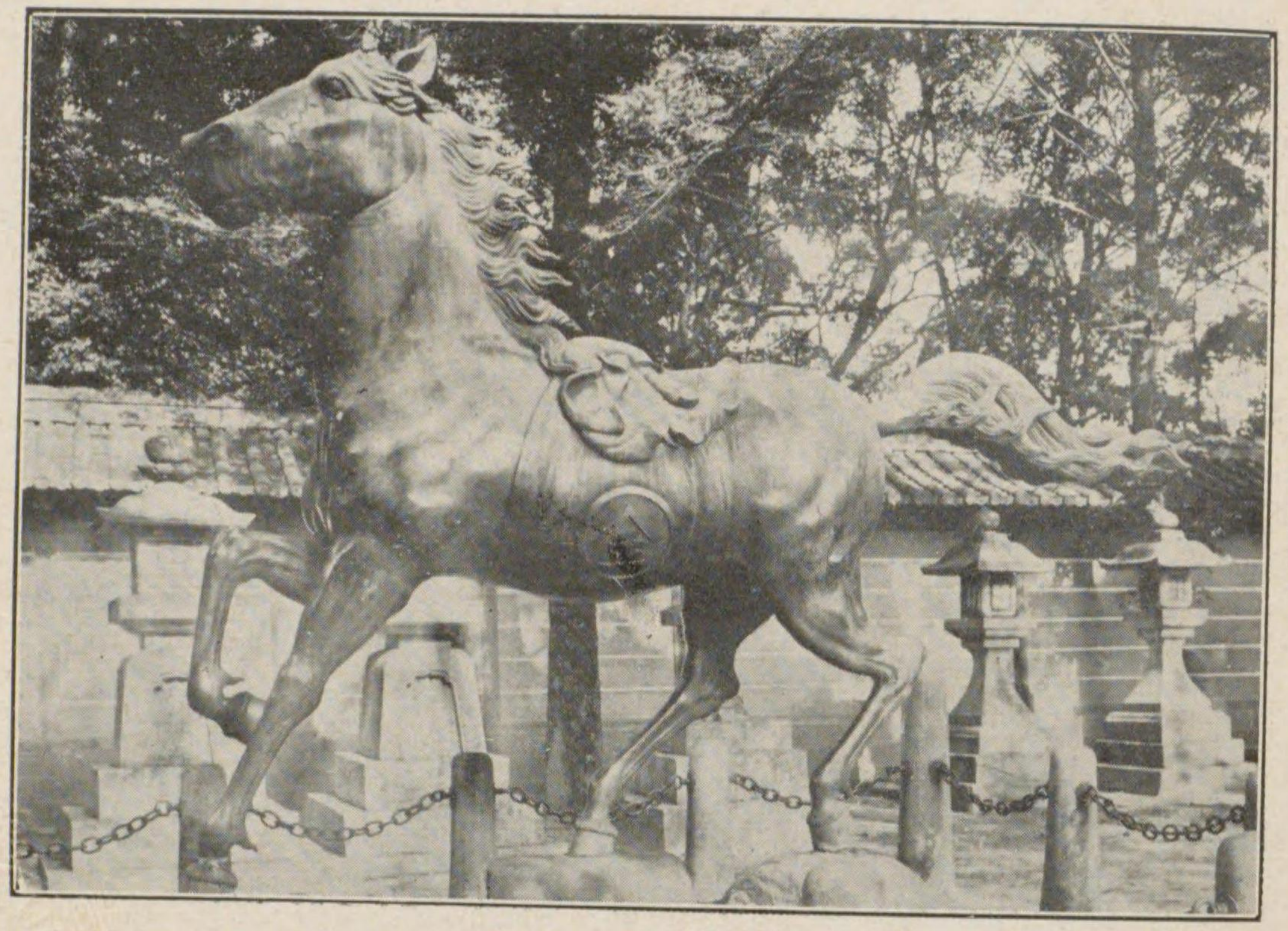
火雷社は祓戸社の西にあり。社殿、流造三方高欄、檜皮葺、建坪八合餘、明治十三年改築。火産靈神、奥都比古神、奥津比賣神、鎮座。又御相殿には八衢比古神、八衢比賣神、來名戸神、鎮座。

(三七)　金刀比羅宮祓戸社前銅馬

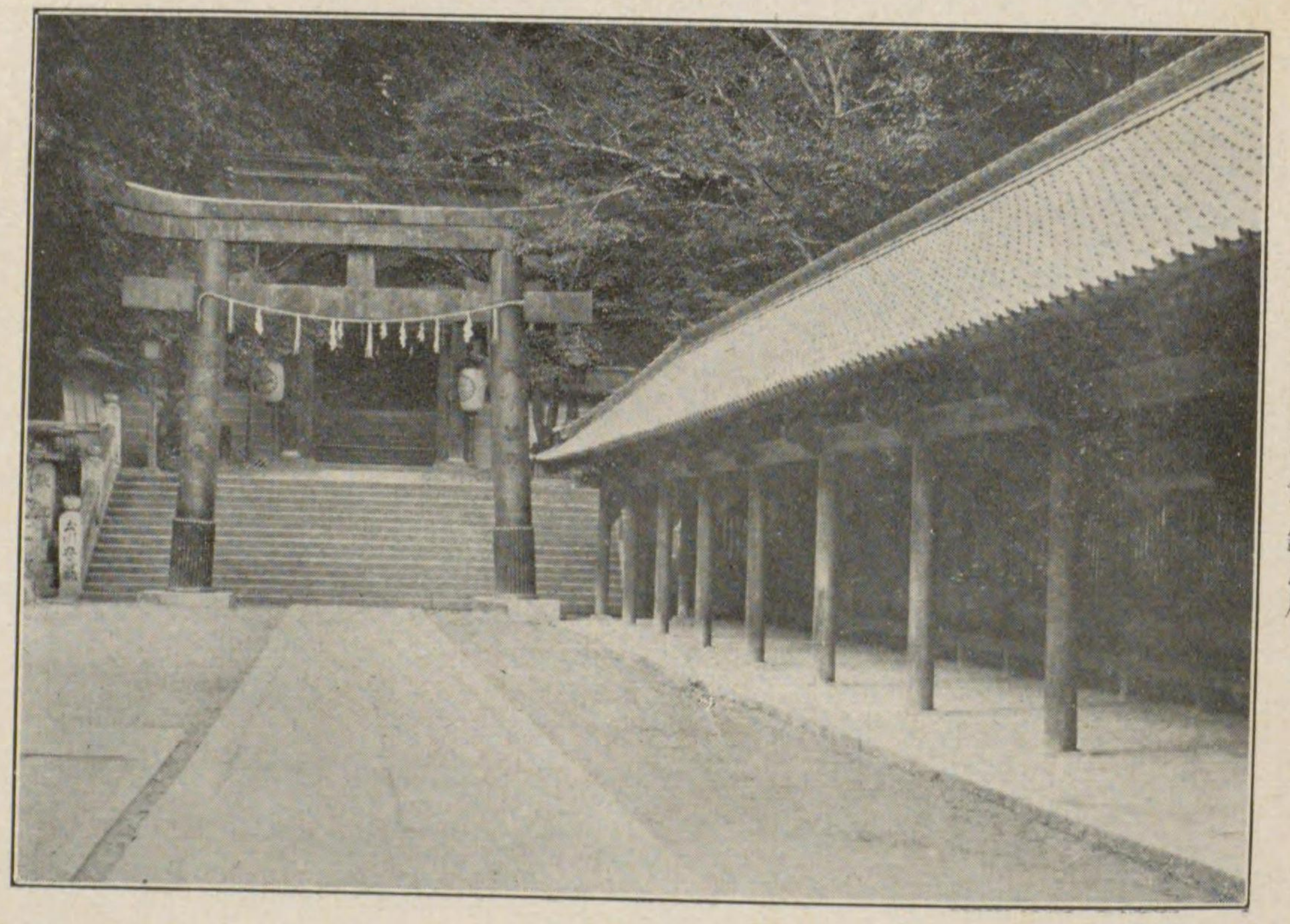
祓戸社前銅馬は高九尺、明治四十四年廣嶋市大手町三丁目島津久吉同妻まさ獻納。

(三八)　同旭社前回廊、黄銅鳥居

旭社(アサヒノヤシロ)前回廊は祓戸社(ハラヒドノヤシロ)前の石階を上り右手にあり。切妻造、瓦葺、桁行百〇八尺、梁行九尺八寸、嘉永七年の創立にして、現在のものは明治三十四年改築。
回廊の北端に黄銅鳥居あり、薹座造、高二十四尺、柱間十六尺、慶應三年伊豫松山松齡講獻納。



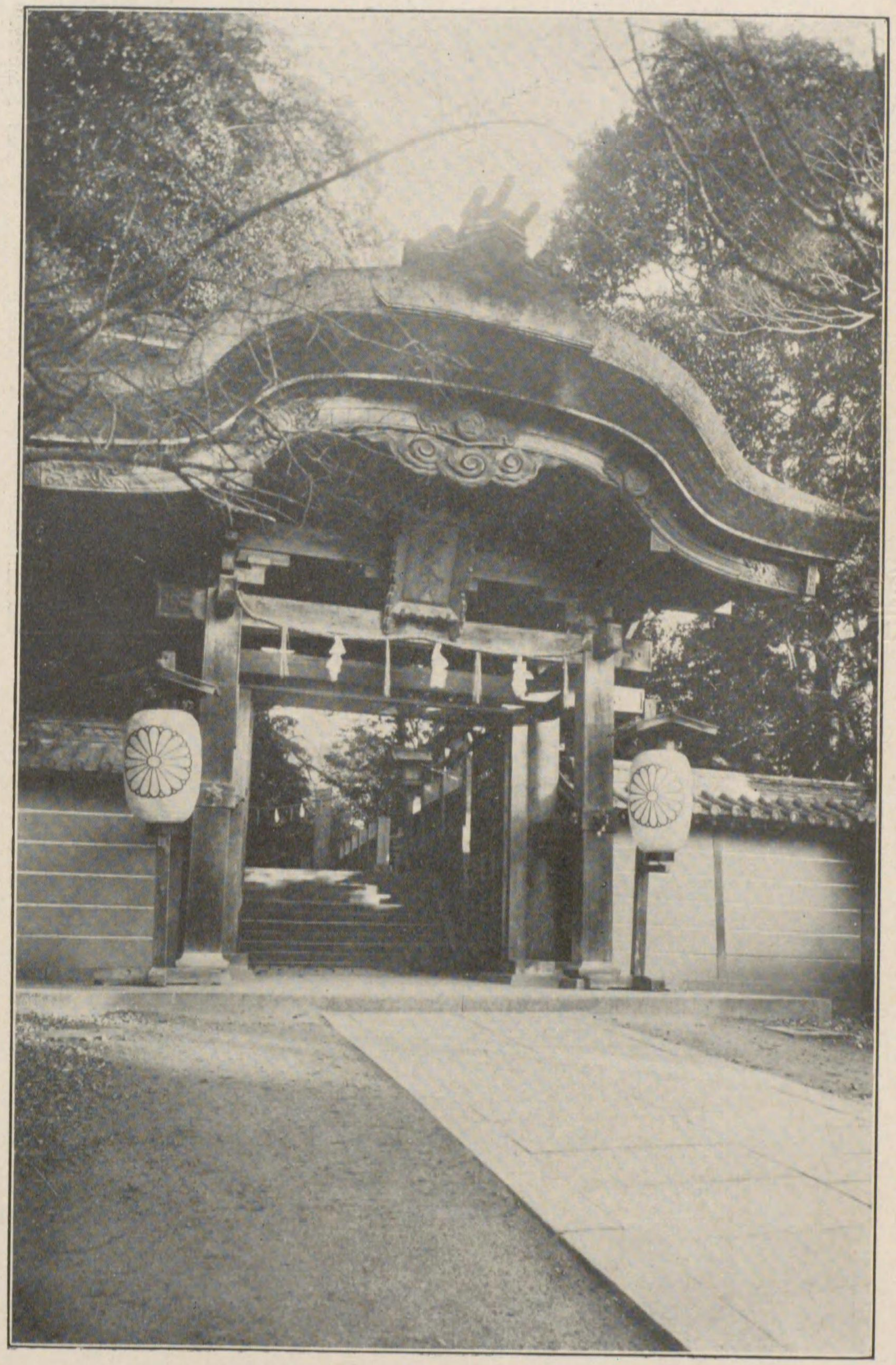
金刀比羅宮祓戸社前銅馬



金刀比羅宮旭社前回廊及黄銅鳥居

(三九) 金刀比羅宮賢木門

賢木門（サカキノ）は黄銅鳥居の北にあり。正面唐破風、側面千鳥破風、檜皮葺、建坪四坪七合、結構優麗なるを以て知らる。門に掲揚せる賢木門三字の額は、有栖川宮熾仁（タルヒト）親王殿下の御筆なり。昔天正年間長曾我部元親當琴平山の北隣に陣取りて神罰を被り、恐懼罪を謝して棟門を獻上せしが、工を急きし爲め誤つて一柱を逆用せり、爾來俗に逆木門（サカキノ）といへり。明治十二年今の門に改築せしが、古名の音を襲用して賢木門（サカキノ）と稱す。



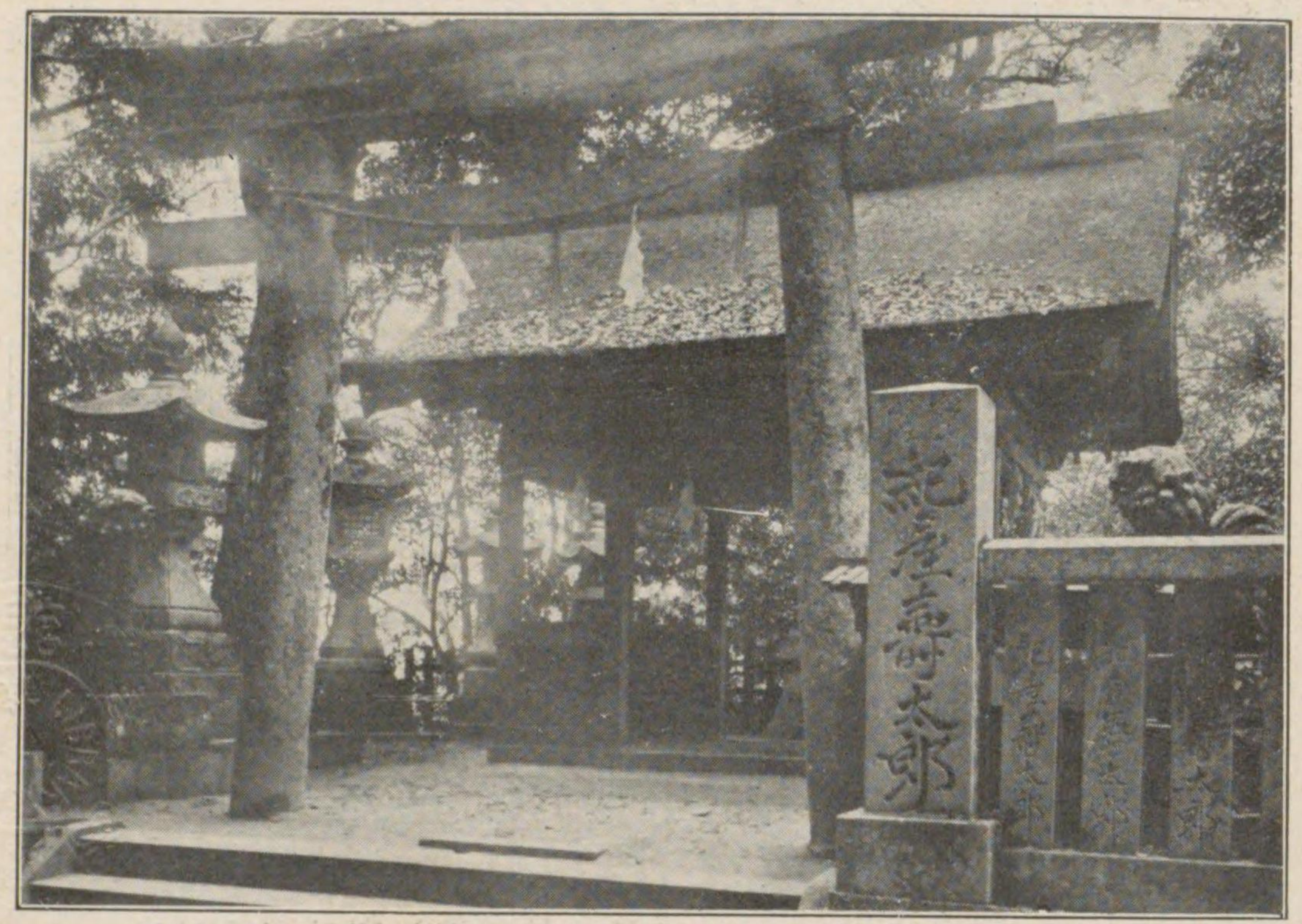
金刀比羅宮賢木門

(四〇) 金刀比羅宮皇廟皇陵遙拜所

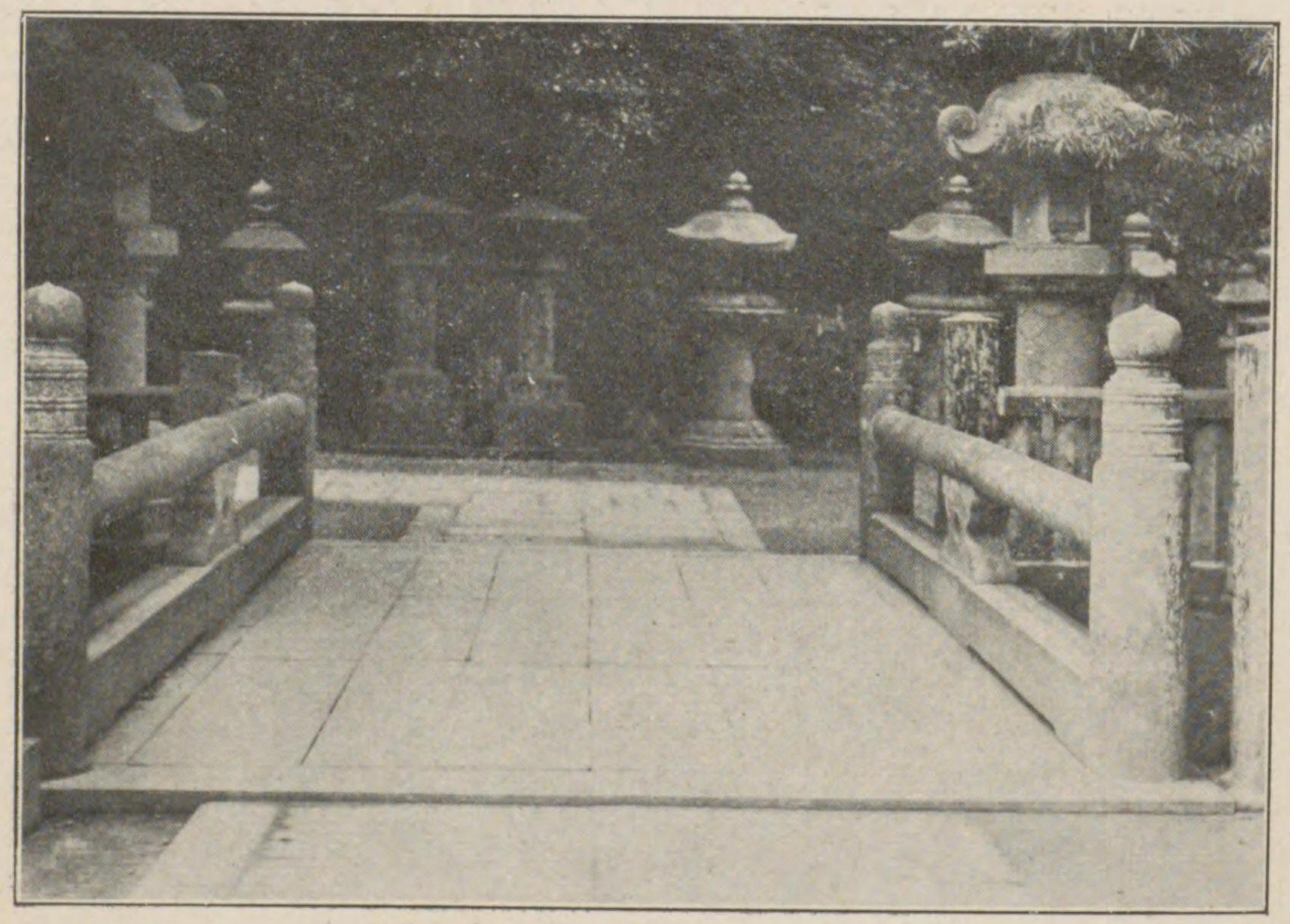
皇廟皇陵遙拜所は賢木門の北にあり。神籬（ヒモロギ）殿、流造、檜皮葺、建坪六合。拜殿、切妻造平入、檜皮葺、拜庭、建坪二坪五合。共に明治十三年改築。拜殿の左右にある石造高麗狗は溫雅優麗を以て知らる。

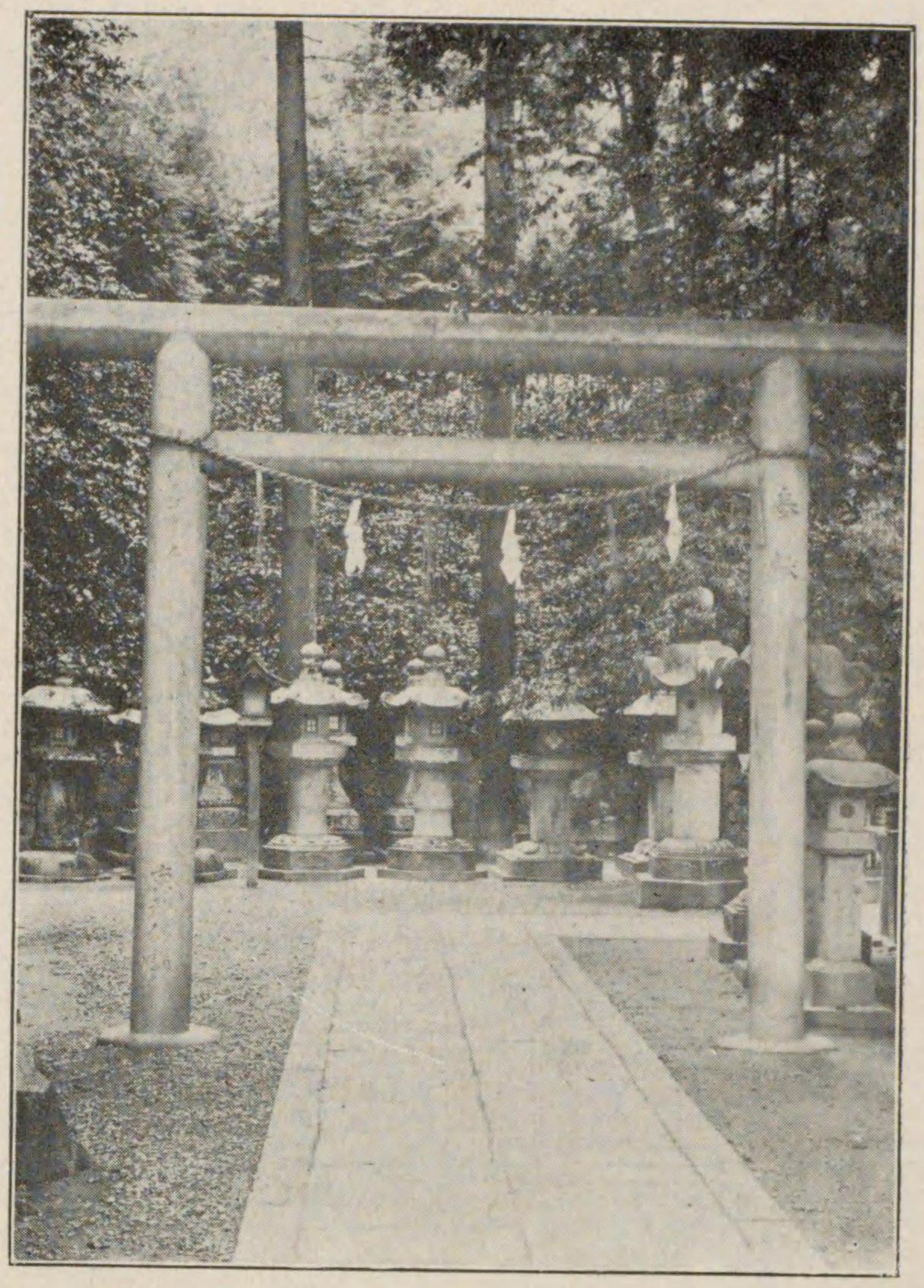
(四一) 同連理橋

連理（レンリ）橋は遙拜所前を北して西に折れ、更に北に向ふ所にあり。石造高欄附、長三間三尺六寸、幅二間八寸五分。結構大ならざるも古來名あり。

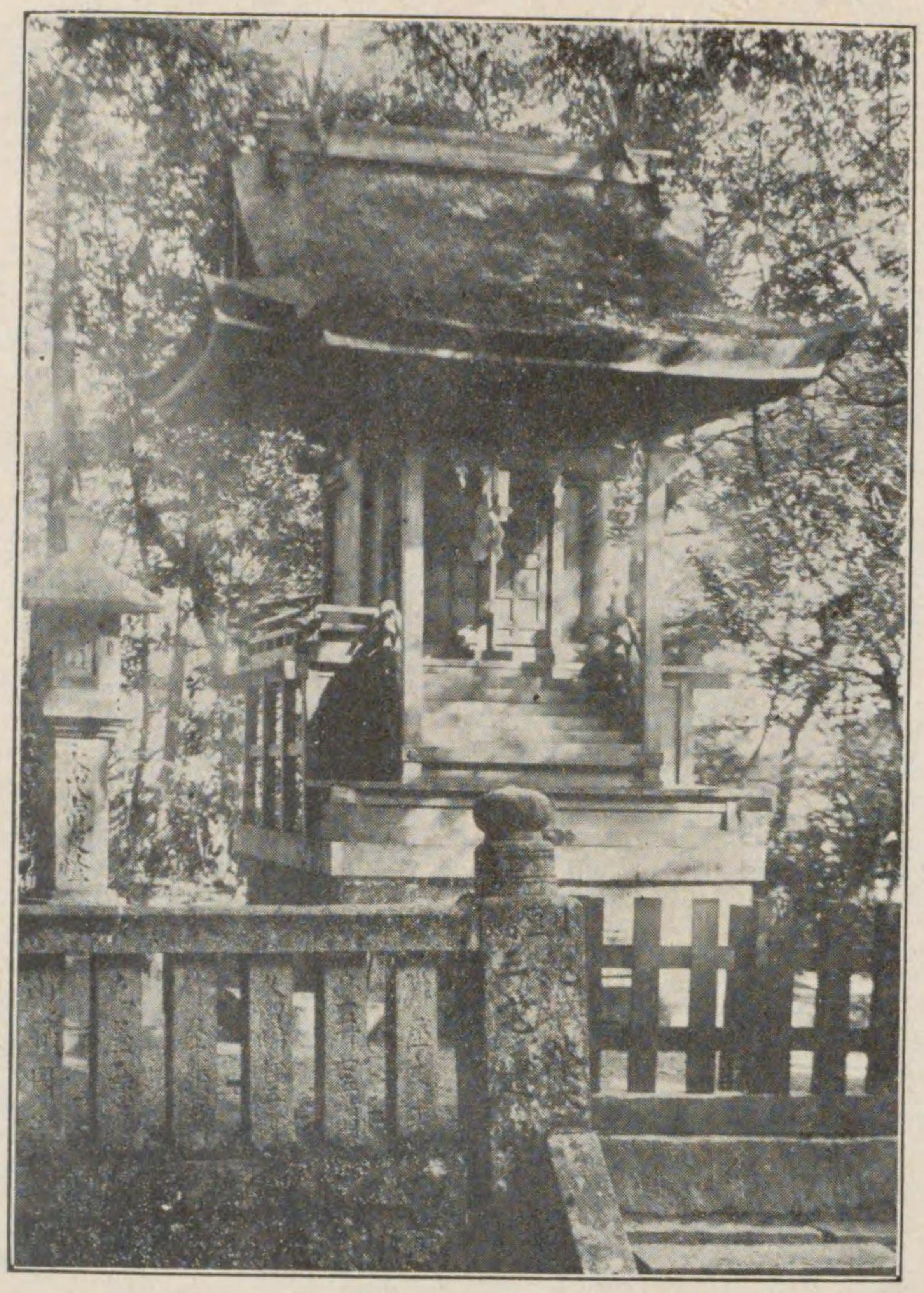


金刀比羅宮皇廟皇陵遙拜所


金刀比羅宮連理橋



金刀比羅宮闇峠



金刀比羅宮御末社眞須賀神社

(四二) 金刀比羅宮闇峠

遙拜所と連理橋との間は常綠濶葉樹と杉の古木特に繁茂し幽邃森嚴晝猶暗し、俗に闇峠（クラガリタウゲ）といふ。
こゝにある鳥居は華崗石神明造、高十五尺五寸餘、幅二十一尺餘、明治四十三年京都市錦小路通柳馬場京都錦講獻納。

(四三) 同御末社眞須賀神社

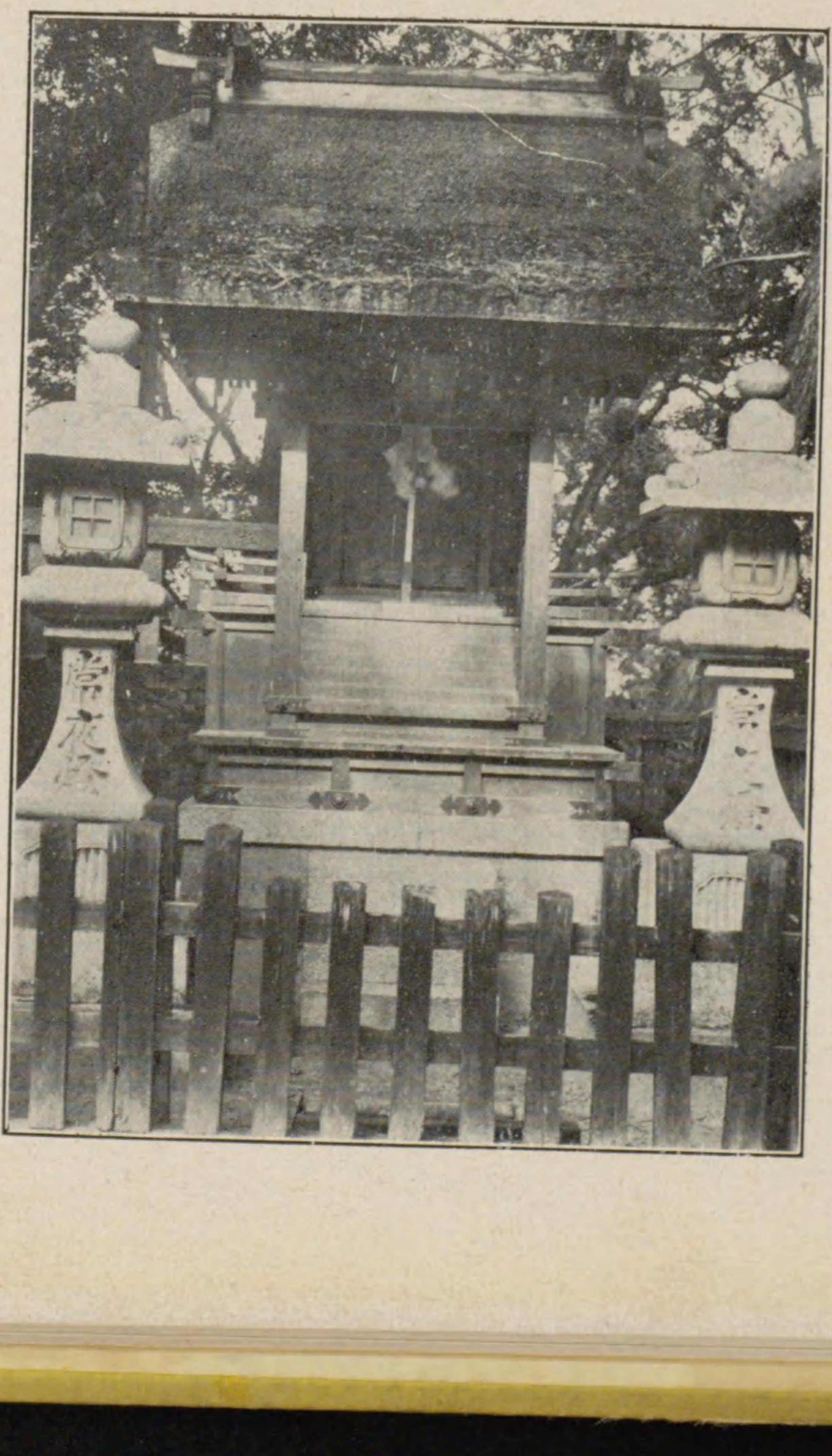
眞須賀（マスガ）神社は連理橋の北方正面にあり。社殿、入母家造平入、四方高欄、檜皮葺、建坪五合餘、明治八年改築。建速須佐之男尊（タケハヤスサノヲノミコト）、奇稻田姫尊（クシイナダヒメノミコト）、鎭座。此二柱の神は御本宮に座す大物主大（オホモノヌシノ）神の御祖神に當らせ給ふ。

(四)　金刀比羅宮御末社御年神社

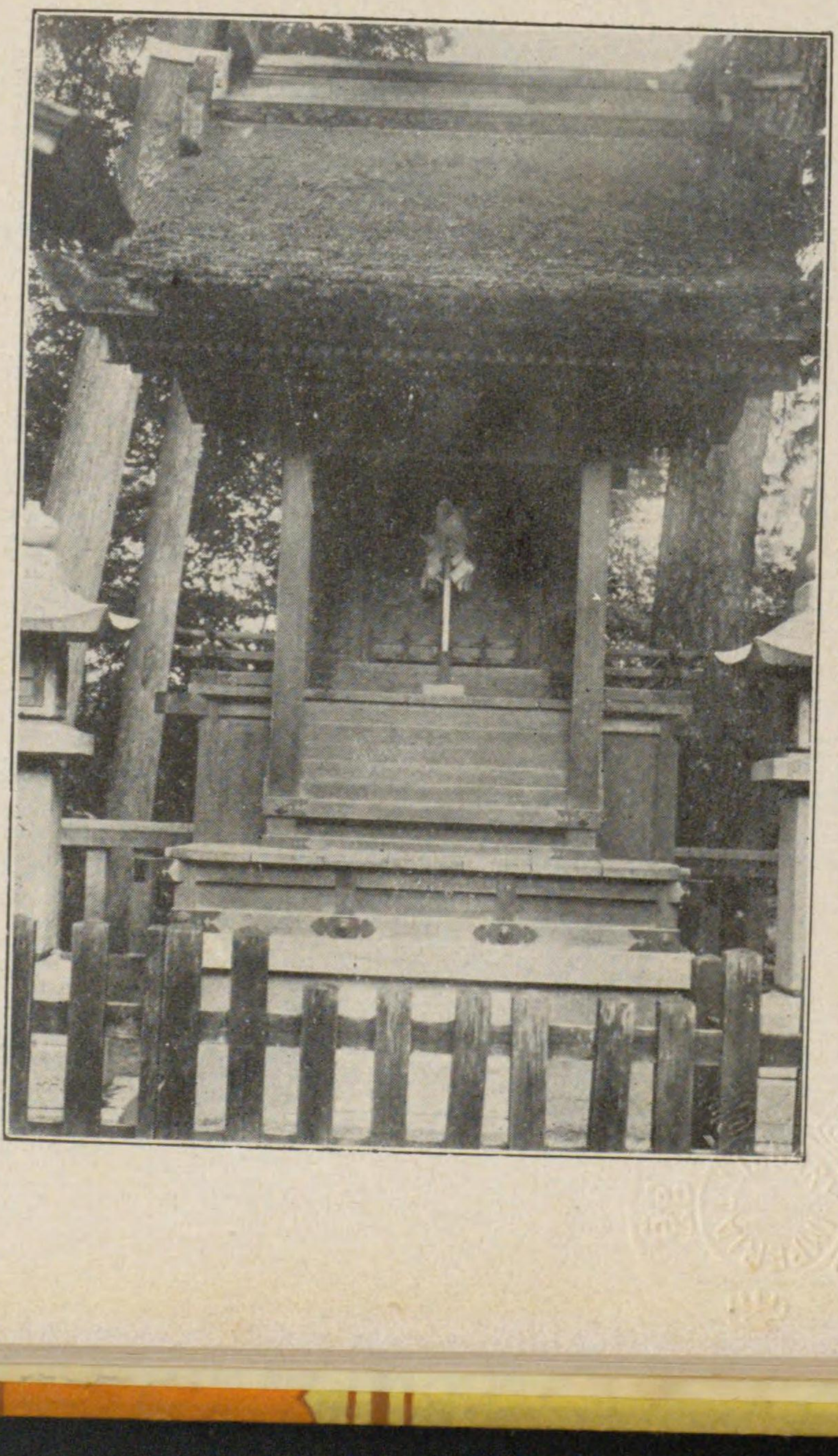
御年神社は眞須賀神社の西にあり。社殿、流造四方高欄、檜皮葺、建坪三合餘。明治十一年改築。大年神、御年神、若年神、鎭座。

(五)　同御末社事知神社

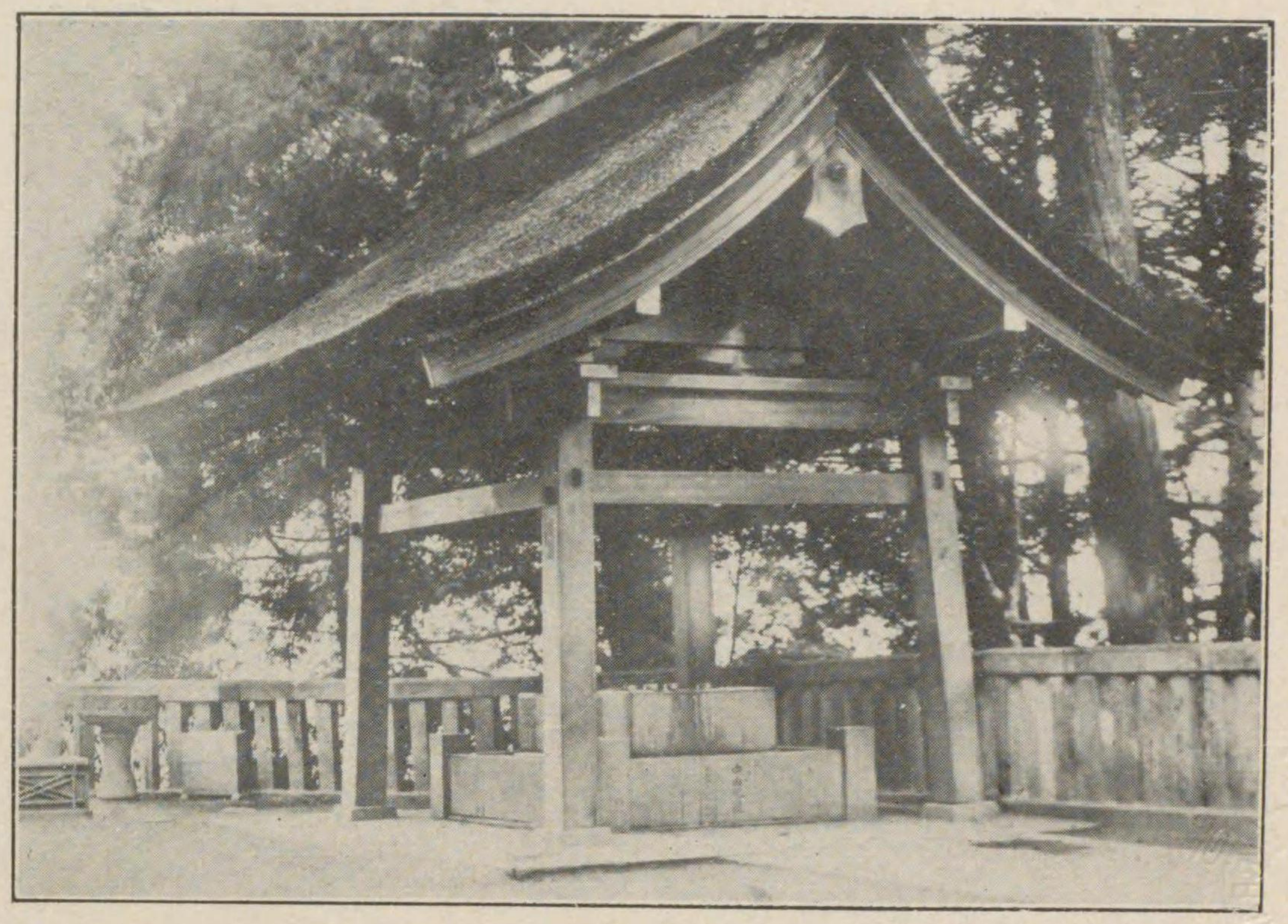
事知神社は御年神社の西にあり。社殿、流造三方高欄、檜皮葺、建坪六合。明治十一年改築。積羽八重事代主神、味鉏高彥根神、加夜鳴海神、鎭座。此三柱の神は御本宮に座す大物主大神の御子神に當らせ給ふ。



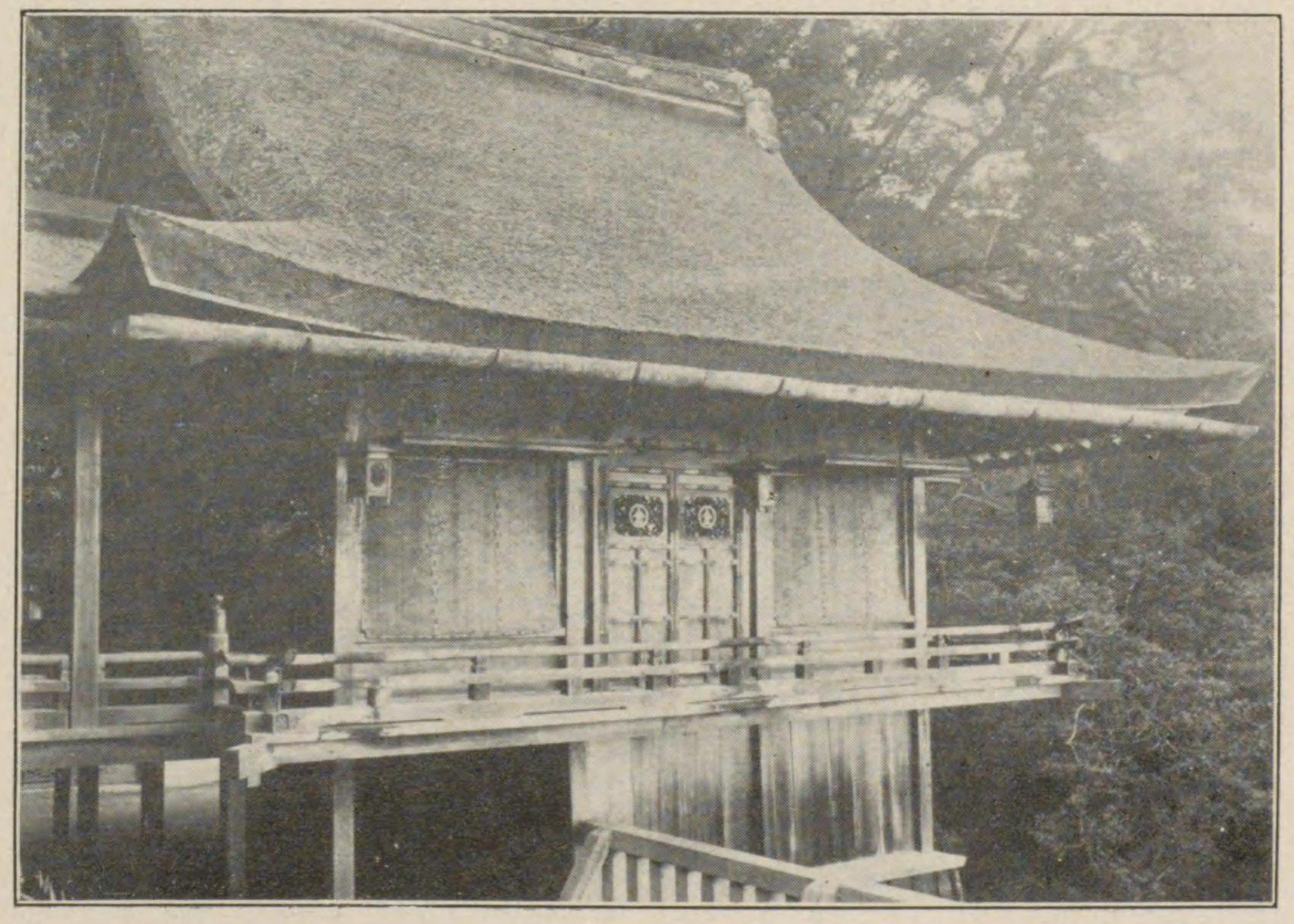
金刀比羅宮御末社御年神社



金刀比羅宮御末社事知神社



金刀比羅宮御本宮御手水舍



金刀比羅宮御本宮神饌殿

(四六) 金刀比羅宮御本宮御手水舍

御本宮御手水舍は事知神社の西、即ち御前四段坂の西詰にあり。切妻造、檜皮葺、建坪二坪七合餘。大正四年東京市本郷區春木町二丁目中山瀧次郎改築獻納。飲料用水道によりて絶えず清淨なる御手洗水を湛ふ。

(四七) 同御本宮神饌殿

御本宮神饌殿は御手水舍の西にありて斷崖に臨む。入母家造三方高欄、檜皮葺、建坪十坪五合餘、明治八年改築。朝夕神前に獻する大御饌を整ふる所なり。北渡殿によりて御本宮拜殿に通す。

(四八) 金刀比羅宮御本宮拜殿

御本宮は御前四段坂正面にあり。社殿、大社關棟造、檜皮葺。御本殿、御中殿、は各建坪九坪餘、拜殿は同二十六坪餘、いづれも檜無節材を用う。拜殿天井は吹寄格天井にして花卉の金蒔繪を施す。社殿の栱枓凡て角材にして弧をなさゝるは他に類例を見さる所なり。明治十一年改築。圖は拜殿の正面。此地海拔八百二十八尺餘(二百五十一米)眺望絶佳なり。

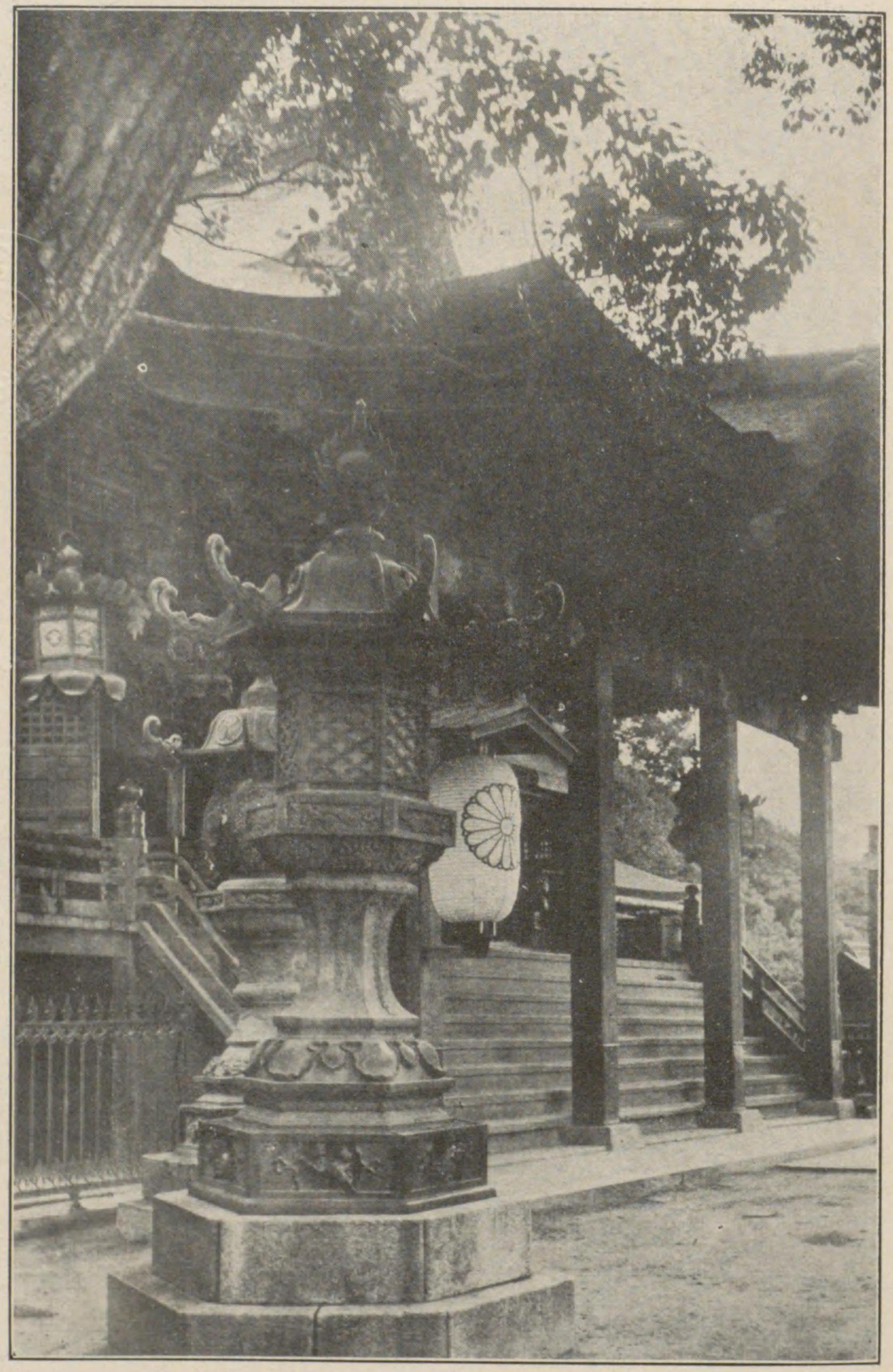
大物主大神(オホモノヌシノ)、鎭座。永萬元年御相殿(ミアヒドノ)に崇德天皇鎭座。

此神の大御光のかしこさは外國までも仰くとそ聞く

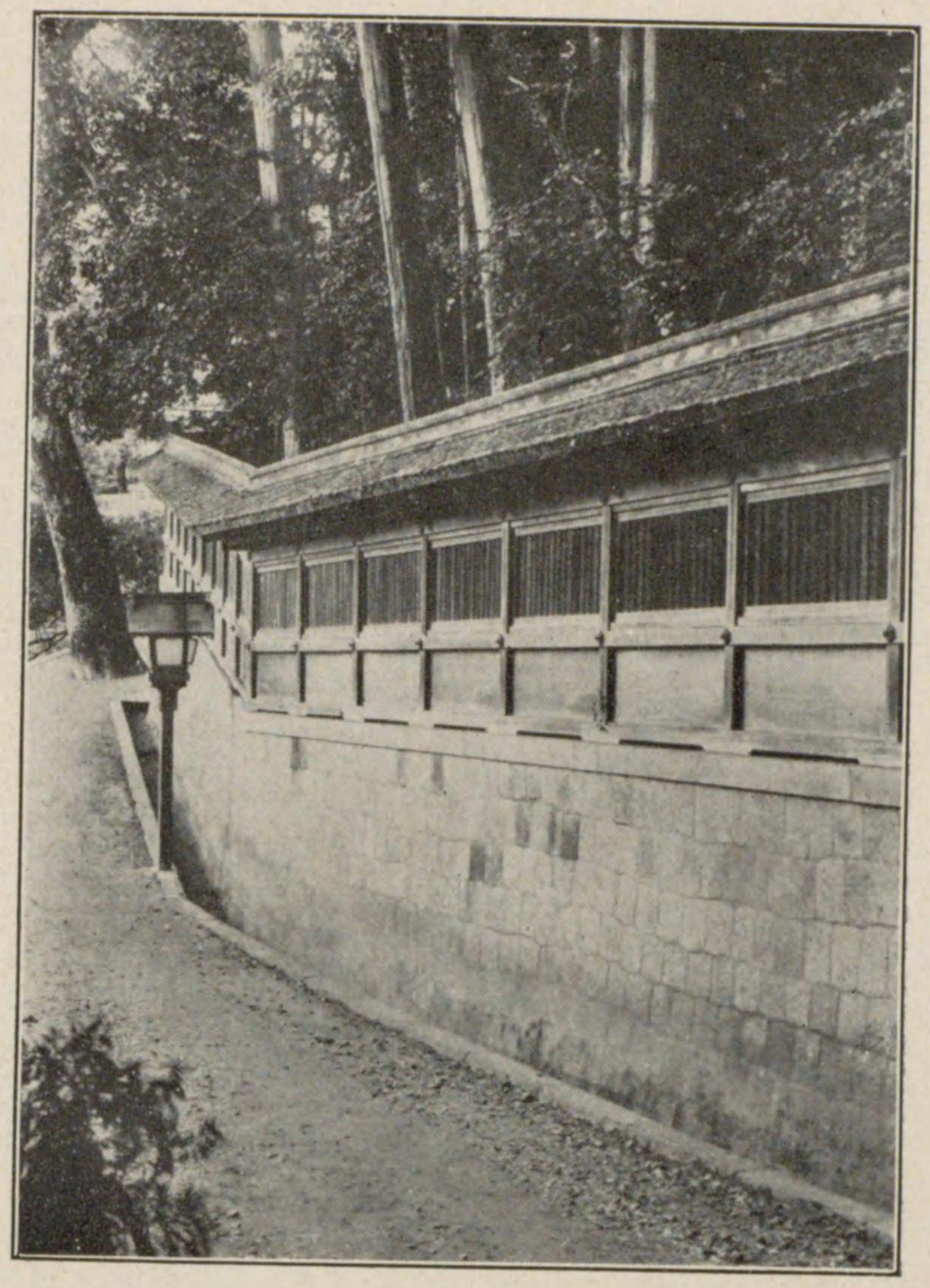
山階宮晃親王

大君の御代を八千代と瑞垣に祈る誠は神もうくらむ

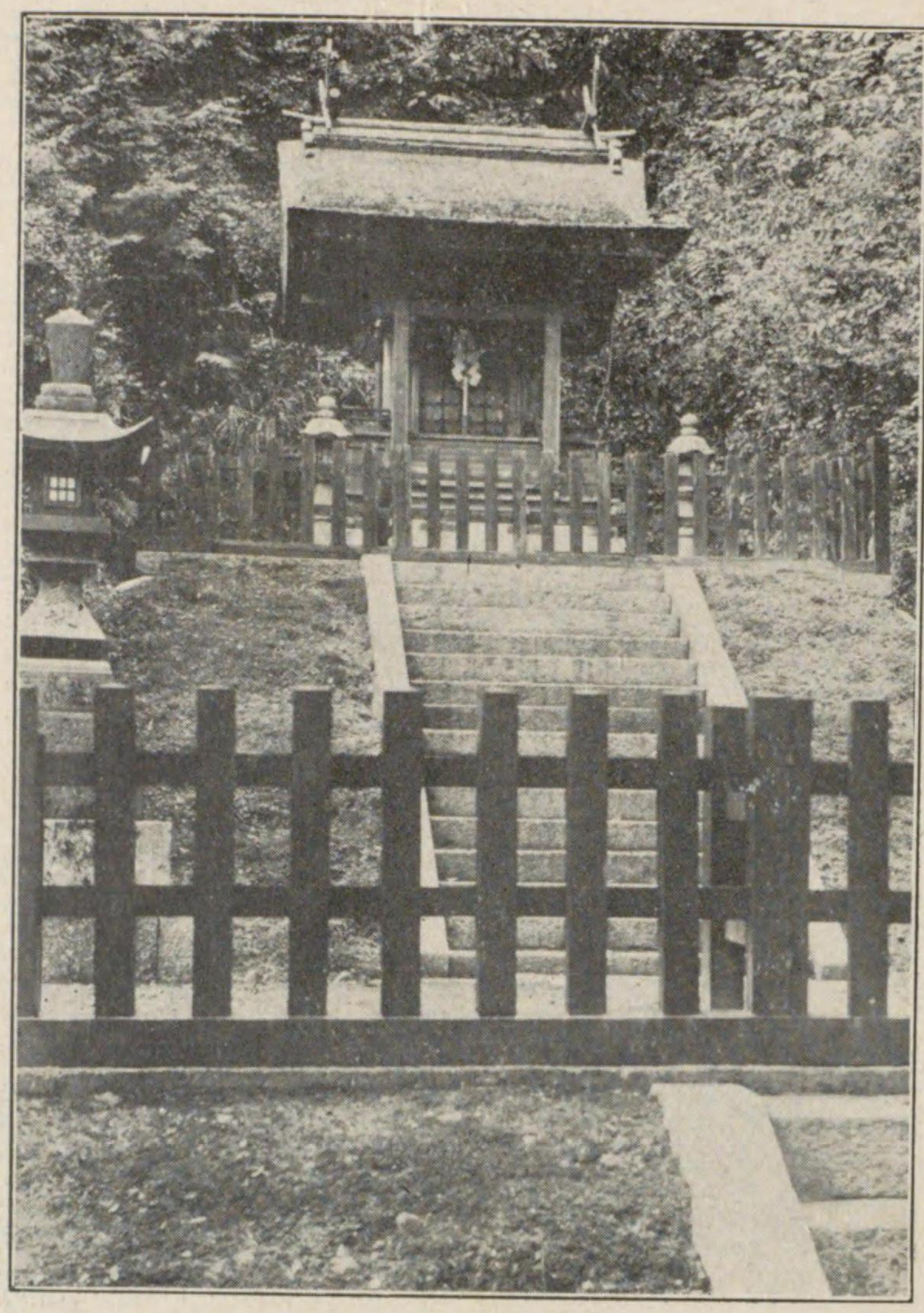
伏見宮 文秀女王



金刀比羅宮御本宮拜殿



金刀比羅宮御本宮北御透垣



金刀比羅宮御末社常磐神社

(四九) 金刀比羅宮御本宮北御透垣

御本宮前より神饌殿（ミケドノ）を經て北に進めは、神林蓊鬱として繁茂し、樟の大樹、檜の老木、枝を交へ葉を重ね翠色滴るか如し、こゝに御本宮につゝける北御透垣（スイガイ）あり。長さ百八十尺六寸。大正三年改築

御垣内は禁足の地域にして、長寛元年崇德上皇の御參籠あらせられし御舊蹟は此御垣の東北端にして古御籠所の名を留む。

(五〇) 同御末社常磐神社

常磐（トキハ）神社は御本宮の北二丁半にあり。社殿、流造四方高欄、檜皮葺、建坪四合九勺、明治十二年改築。

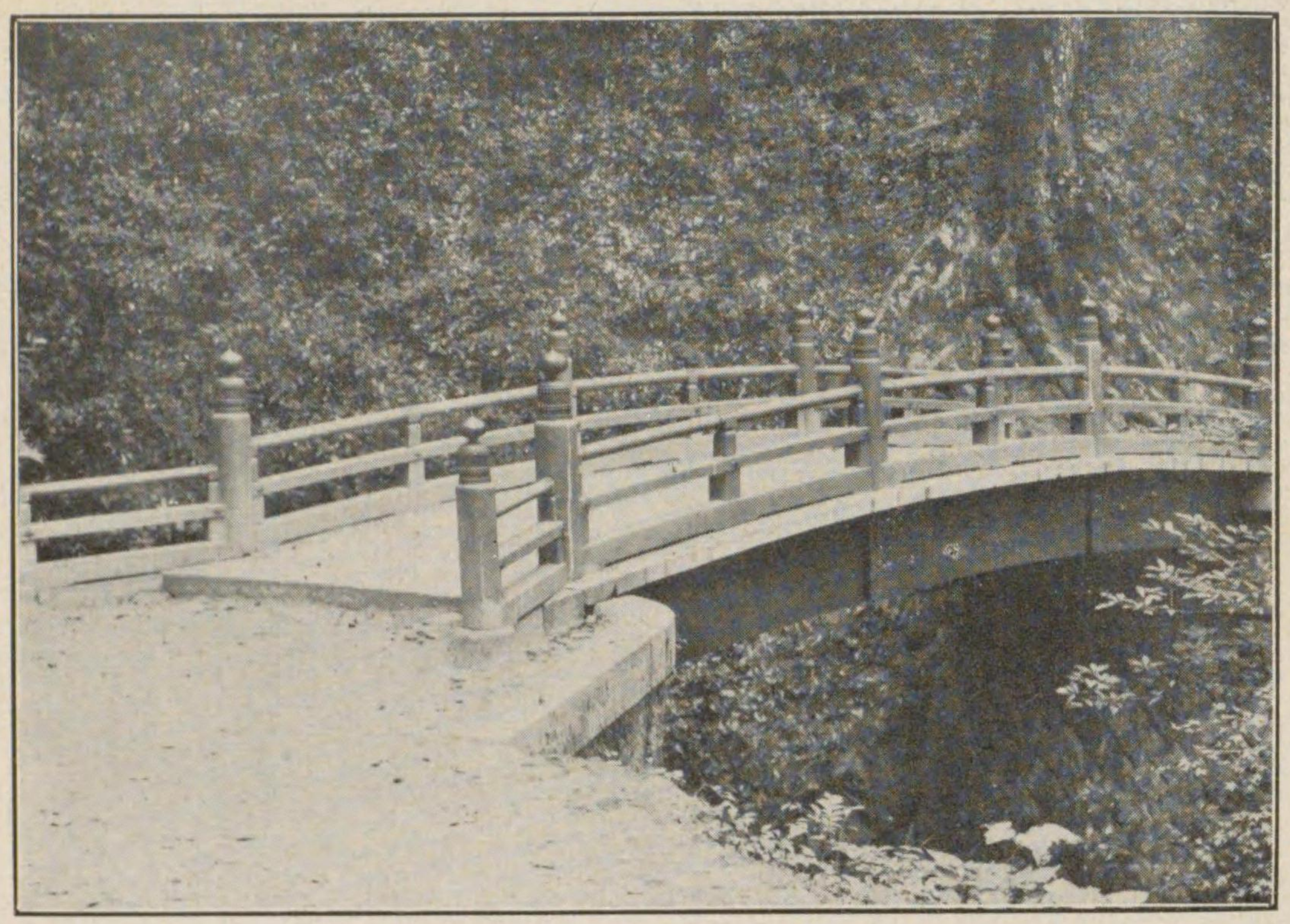
武雷尊（タケイカツチノミコト）、譽多和氣尊（ホムタワケノミコト）、鎮座。

（五一）　金刀比羅宮眞井橋

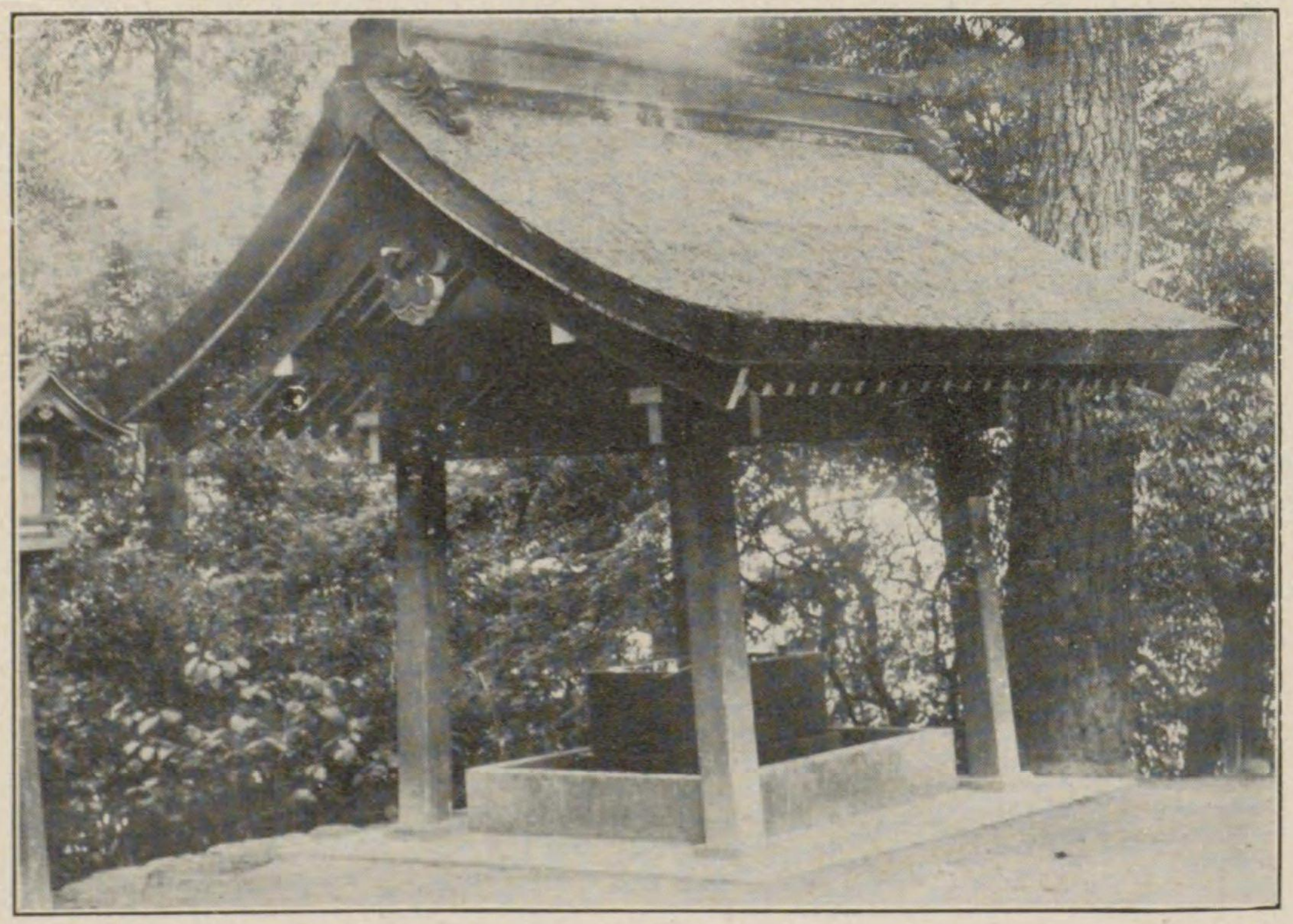
眞井橋は御本宮の北二丁眞井溪に架す。朱塗高欄木橋、長四間、幅一間〇六寸、明治四十一年建設。鬱蒼たる林樹の翠色と朱欄と相反映し、溪亦深くして嵐氣人に迫る。橋上より西を仰けは眞井水源の堰堤を見るべし、千四百五十石の水を貯ふ、宮設水道水源の一なり。

（五二）　同御攝社白峰神社御手水舍

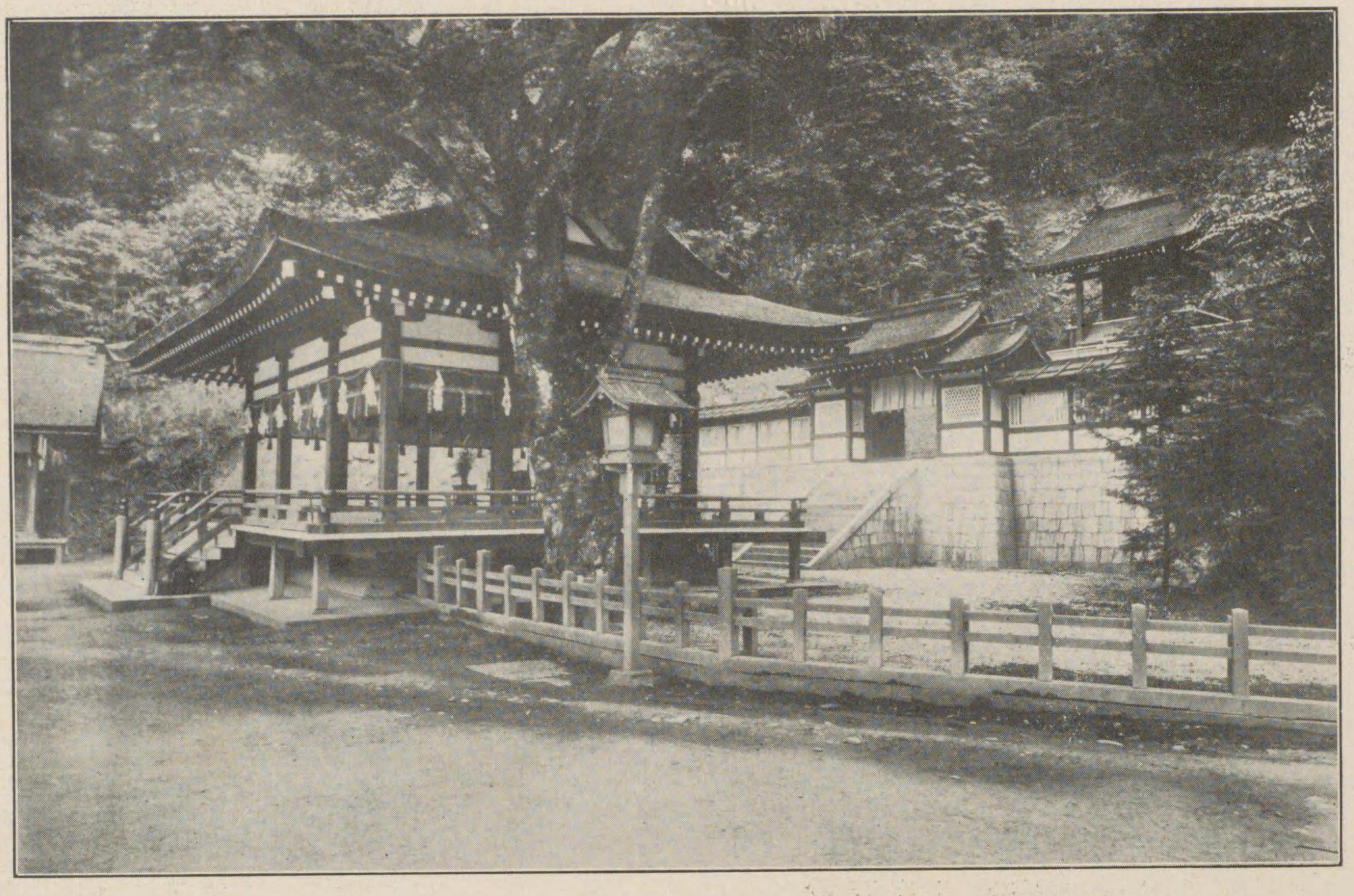
白峰神社御手水舍は御本宮の北三丁半にあり。切妻破風造朱塗、檜皮葺、建坪一坪二合。大正二年建築。これより西に向へは石鳥居あり。華崗石神明造、高十五尺四寸。柱間十三尺四寸。大正七年兵庫縣淡路國津名郡上灘村間浦喜藏獻納。



金刀比羅宮眞井橋



金刀比羅宮御攝社白峰神社御手水舍



金刀比羅宮御攝社白峰神社

(三五) 金刀比羅宮御攝社白峰神社

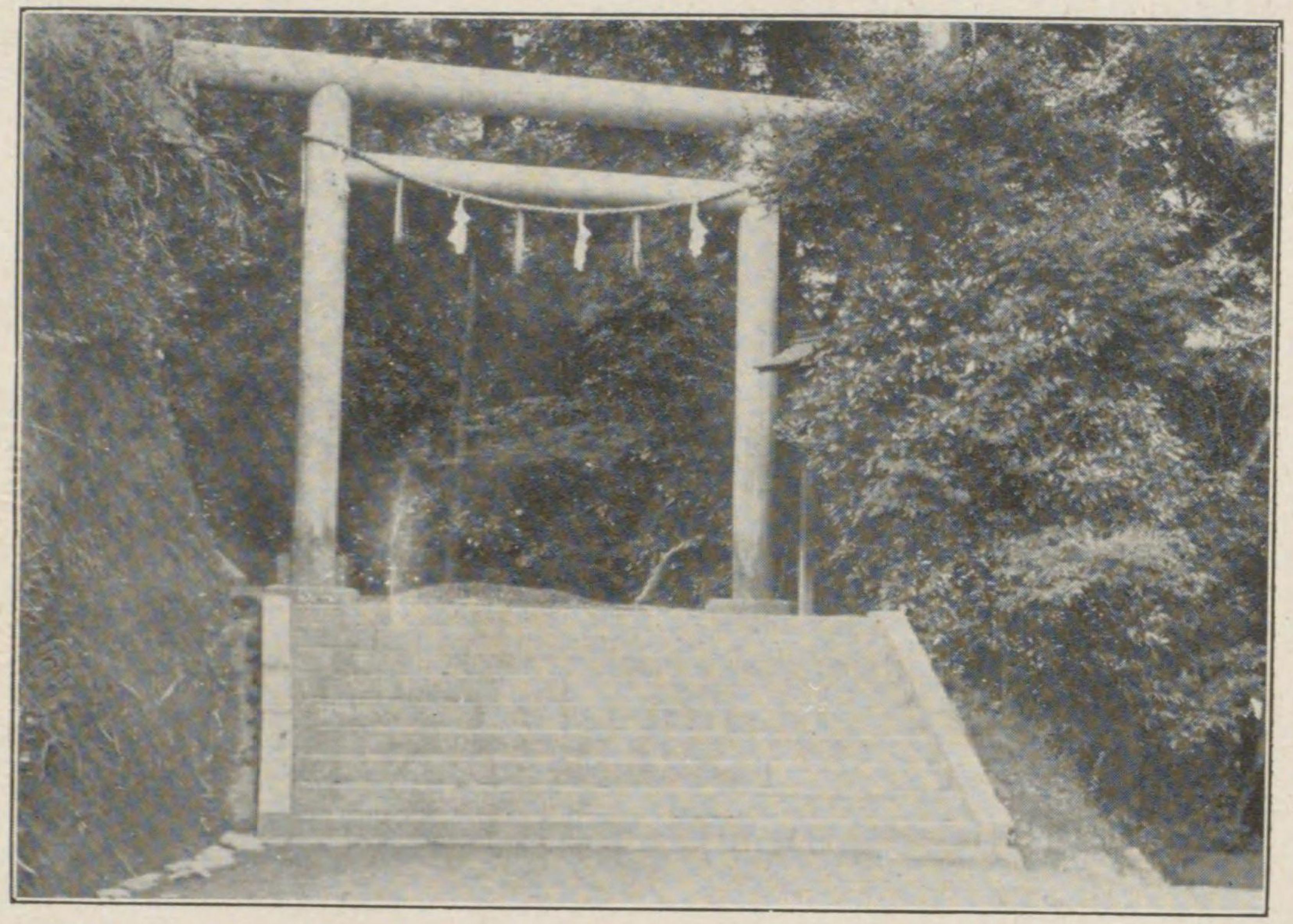
白峰(シロミネ)神社は御本宮の北四町半。本殿、中門、拜殿、共に朱塗檜皮葺。本殿流造。中門は切妻平入にして其脇殿には源爲義、源爲朝の木像を安置す。拜殿は入母家平入四方高欄建坪十二坪。明治四十四年乃至大正二年建築。崇徳(スミ)天皇鎭座。御相殿(アヒドノ)に待賢門院(タイケンモンイン)、大山祇神(オホヤマツミ)鎭座。毎月二十六日月次祭(ツキナミ)。八月二十六日大祭。此附近楓(モミヂ)多し依つて紅葉谷(モミヂダニ)と稱す

（五四）金刀比羅宮紅葉谷鳥居

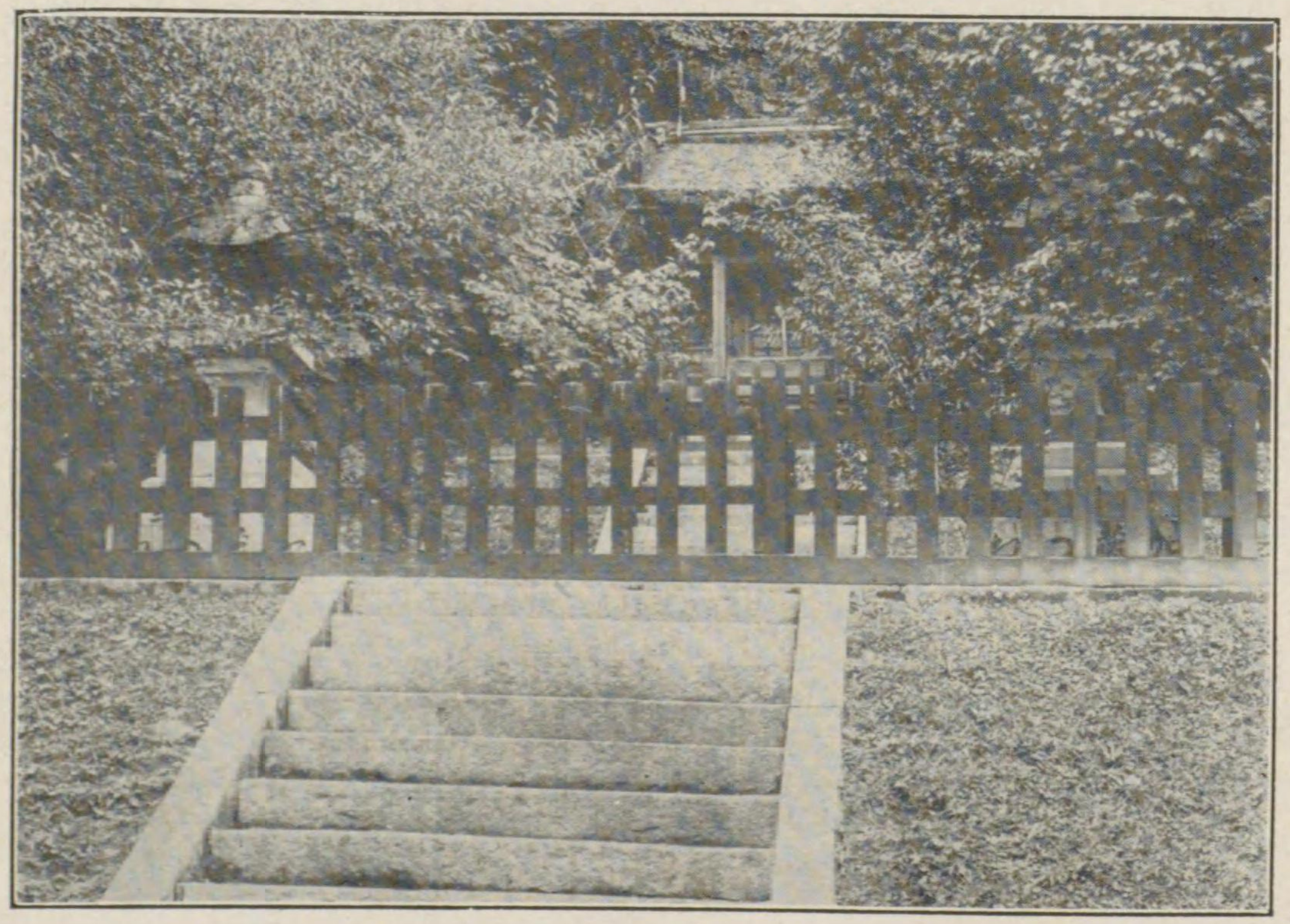
紅葉谷（モミヂダニ）鳥居は白峰（シロミネ）神社の北にあり。
華崗石神明造、高十五尺四寸、柱間十三尺四寸。大正四年三重縣伊勢國桑名近藤忠治外二人獻納。

（五五）同御末社菅原神社

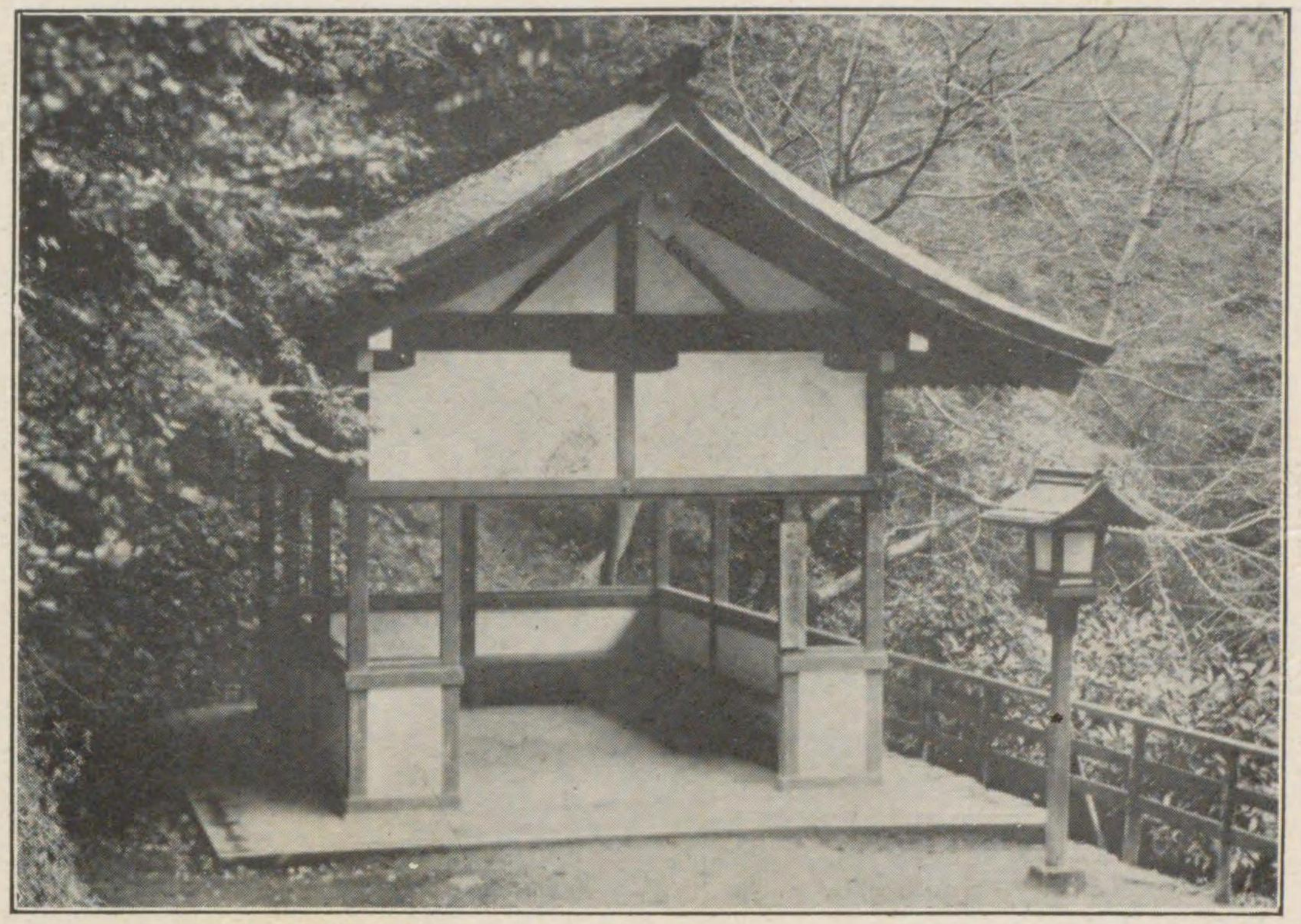
菅原（スガハラ）神社は御本宮の北五町。社殿、流造四方高欄檜皮葺、建坪四合九勺、明治十二年改築。
菅原道眞命（スガハラノミチザネノミコト）、鎮座。



金刀比羅宮紅葉谷鳥居



金刀比羅宮御末所菅原神社



金刀比羅宮卯花谷休所

金刀比羅宮卯花谷眺望

(五六) 金刀比羅宮卯花谷休所

卯花谷休所は御本宮の北八町(菅原神社北三町)にあり。切妻造妻入、朱塗、杉枌葺、建坪六坪、明治四十四年建築。參拜者の休憩に便す。此附近溲疏多し依つて卯花谷といふ、眺望佳なり。

休所の西に木製朱塗稲荷造鳥居あり。高十一尺、柱間九尺。明治四十一年琴平町内田ひで獻納。

(五七) 同卯花谷眺望

卯花谷休所より西に登る事半町、眼界遠く開けて、那珂の平野、讃岐小富士(飯山)、瀬戸内海の水光、塩飽列嶋等指呼のうちにあり。

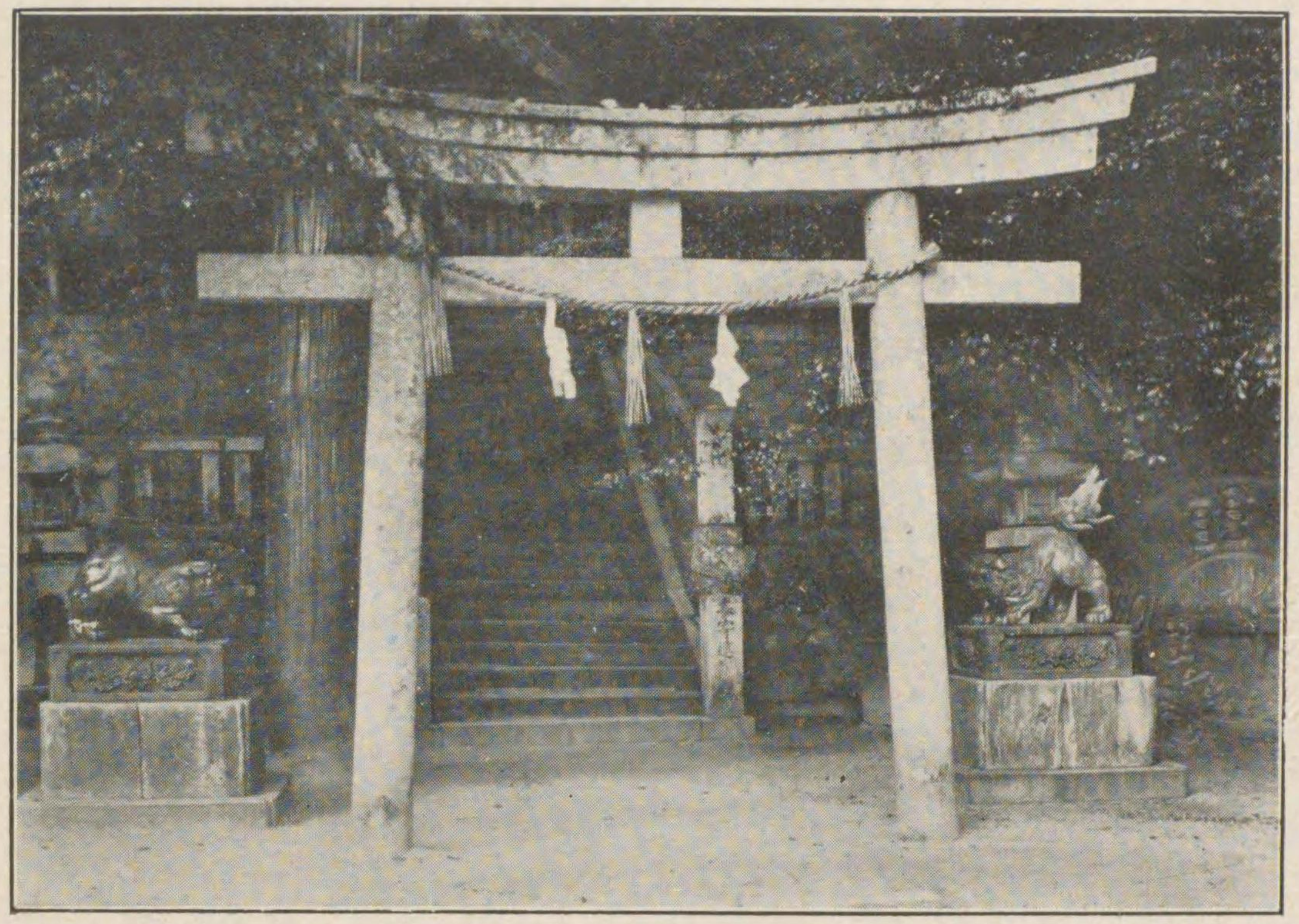
（五八）　金刀比羅宮威德巖

威德巖は御本宮の北十一町（卯花谷休所より三町）。琴平山字内瀧にあり。斷巖高く聳立てるに、樹木鬱として繁り、俗塵の及はさる別境なり。此地は嚴魂彥命參籠せられし舊蹟にして、崇德上皇も嘗てこゝに御參籠あらせられたる事ありと云傳ふ。

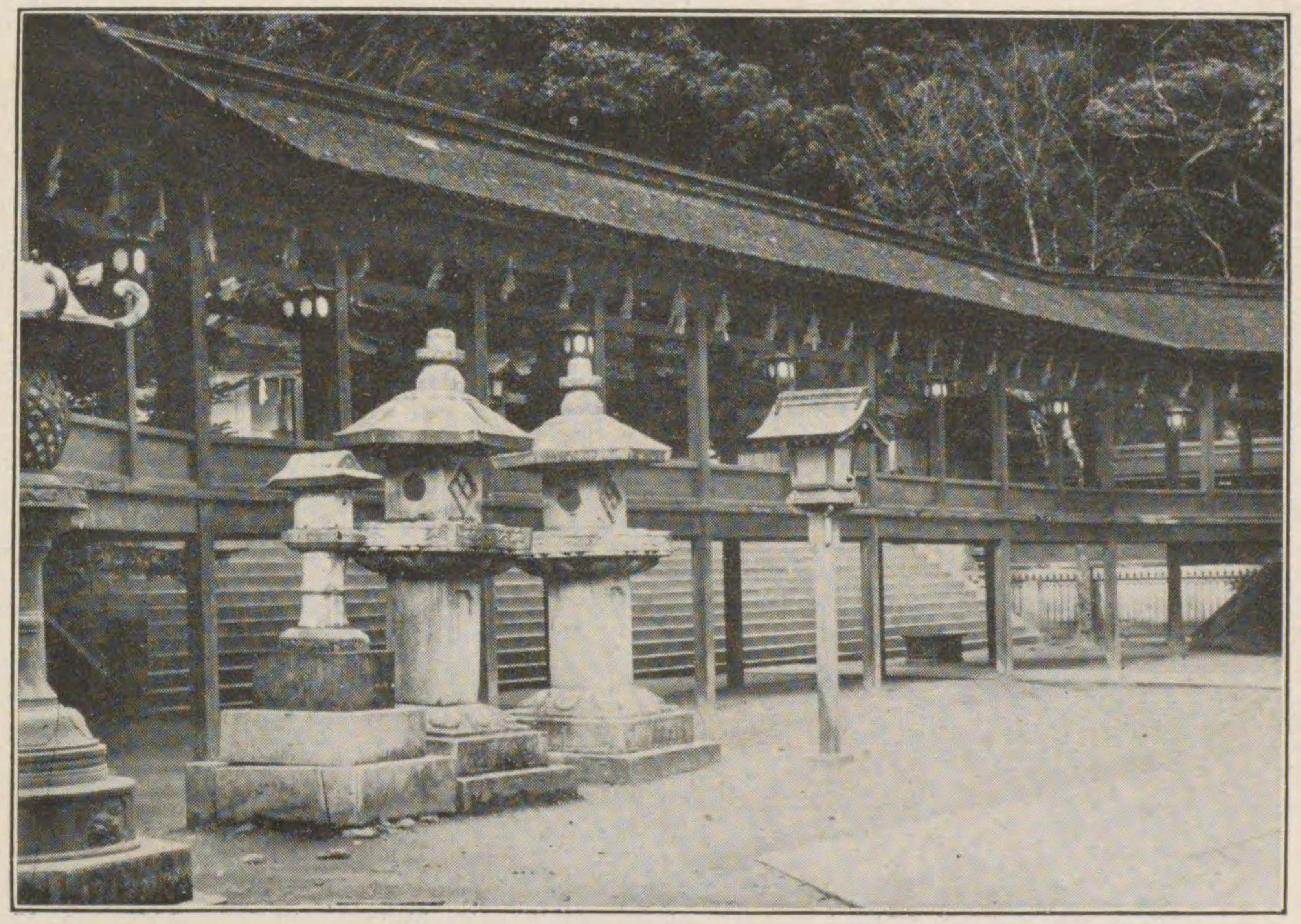
（五九）　同御末社嚴魂神社

嚴魂神社は御本宮の北十一町にあり。世に奥社の名を以て知らる。本殿流造三方高欄素木檜皮葺建坪四坪六合餘。中門向唐門朱塗檜皮葺建坪一坪二合餘。拜殿入母家造妻入朱塗四方高欄平格天井檜皮葺建坪十五坪餘。共に明治三十九年改築。嚴魂彥命、鎮座。命は三百年の昔、當宮別當職たりし宥盛大人にして、時恰も兵亂に會し、一身を神明に捧けて國家安寧を祈り、毅然として四方の民衆を綏撫する等其功績偉大なり、世人其高德を欽慕して措かす、卒後威德殿として奉祀せしが、後今の名に改めらる。毎月六日月次祭、每年一月六日大祭。

金刀比羅宮御末社嚴魂神社



金刀比羅宮御末所睦魂神社



金刀比羅宮御本宮南渡殿

(六〇) 金刀比羅宮御末社睦魂神社

睦魂(ムツタマ)神社は御本宮の南に隣る。社殿、王子造三方高欄銅葺。建坪四坪、正保二年改築。大國魂神(オホクニタマノ)、大國主神(オホクニヌシノ)、少彦名神(スクナヒコナノ)、鎮座。

(六一) 同御本宮南渡殿

御本宮南渡殿(ミナミノワタドノ)は御本宮と三穂津姫社(ミホツヒメノヤシロ)との間にあり。檜皮葺、長二十二間四尺餘、幅一間三寸、建坪二十三坪八合餘。明治十一年建築。

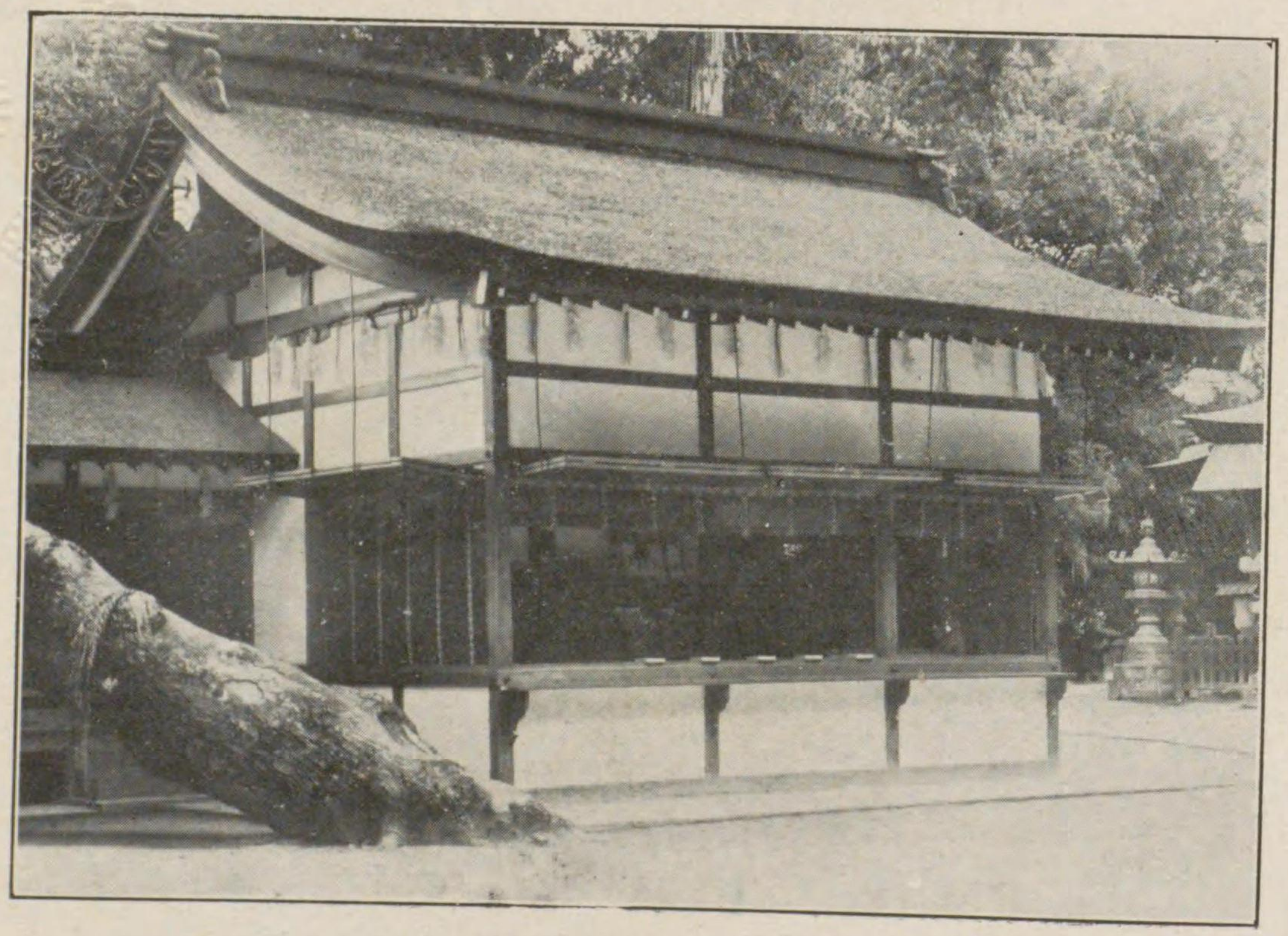
（六二）金刀比羅宮神樂殿

神樂殿（カグラドノ）は御本宮の東南にあり。入母家造三方高欄扇垂木檜皮葺、建坪十坪五合餘。明治十一年改築。伶人樂を奏する所なり。

（六三）同御本宮前神札所

御本宮前神札所は神樂殿の南にあり。切妻造妻入、蔀戸（シトミド）、平格（ヒラカウ）天井、檜皮葺、建坪二十一坪六合餘。大正十五年改築。

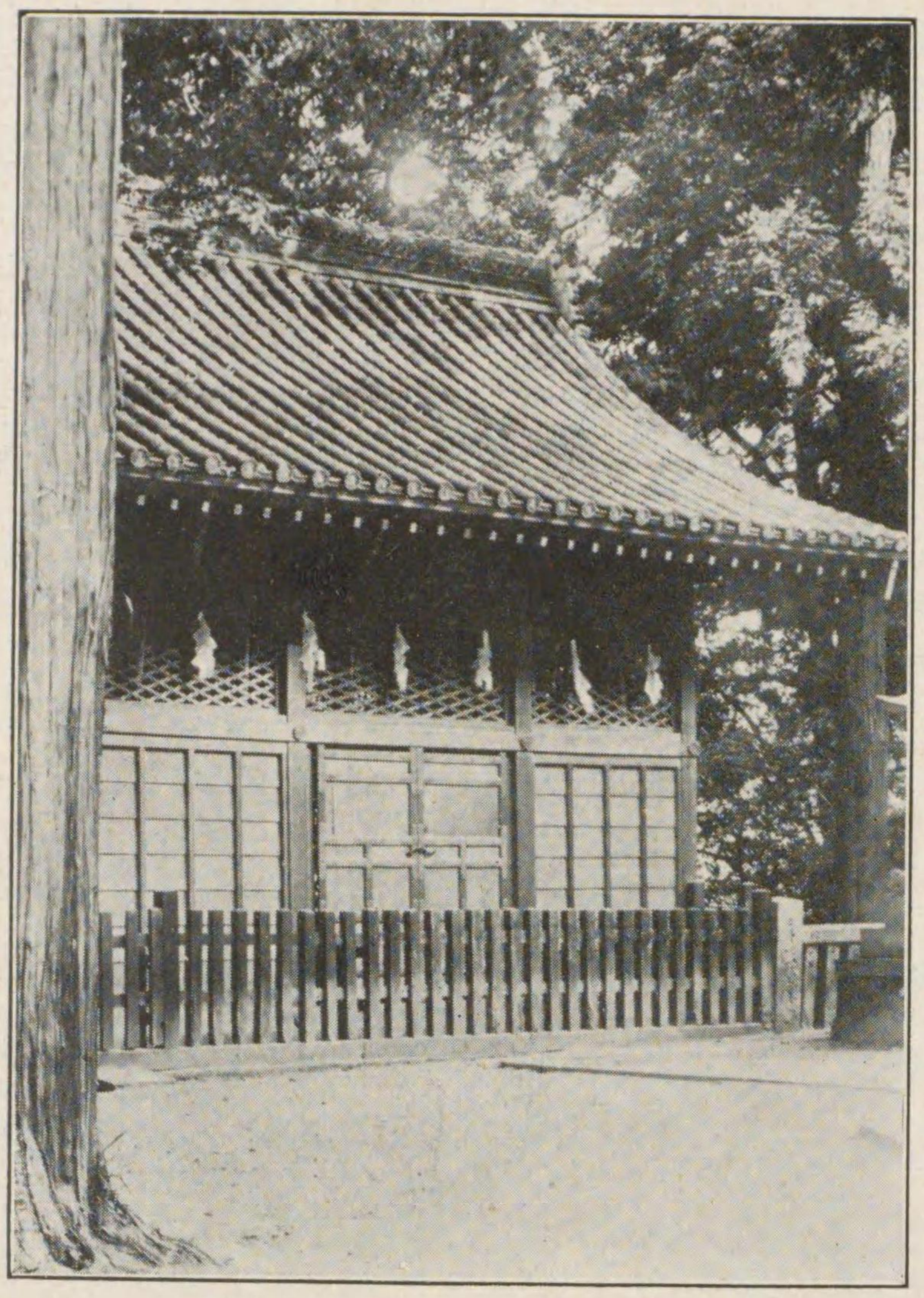
金刀比羅宮神樂殿



金刀比羅宮御本宮前神札所

金刀比羅宮御本宮前警衛所

金刀比羅宮御炊殿



(六四) 金刀比羅宮御本宮前警衛所

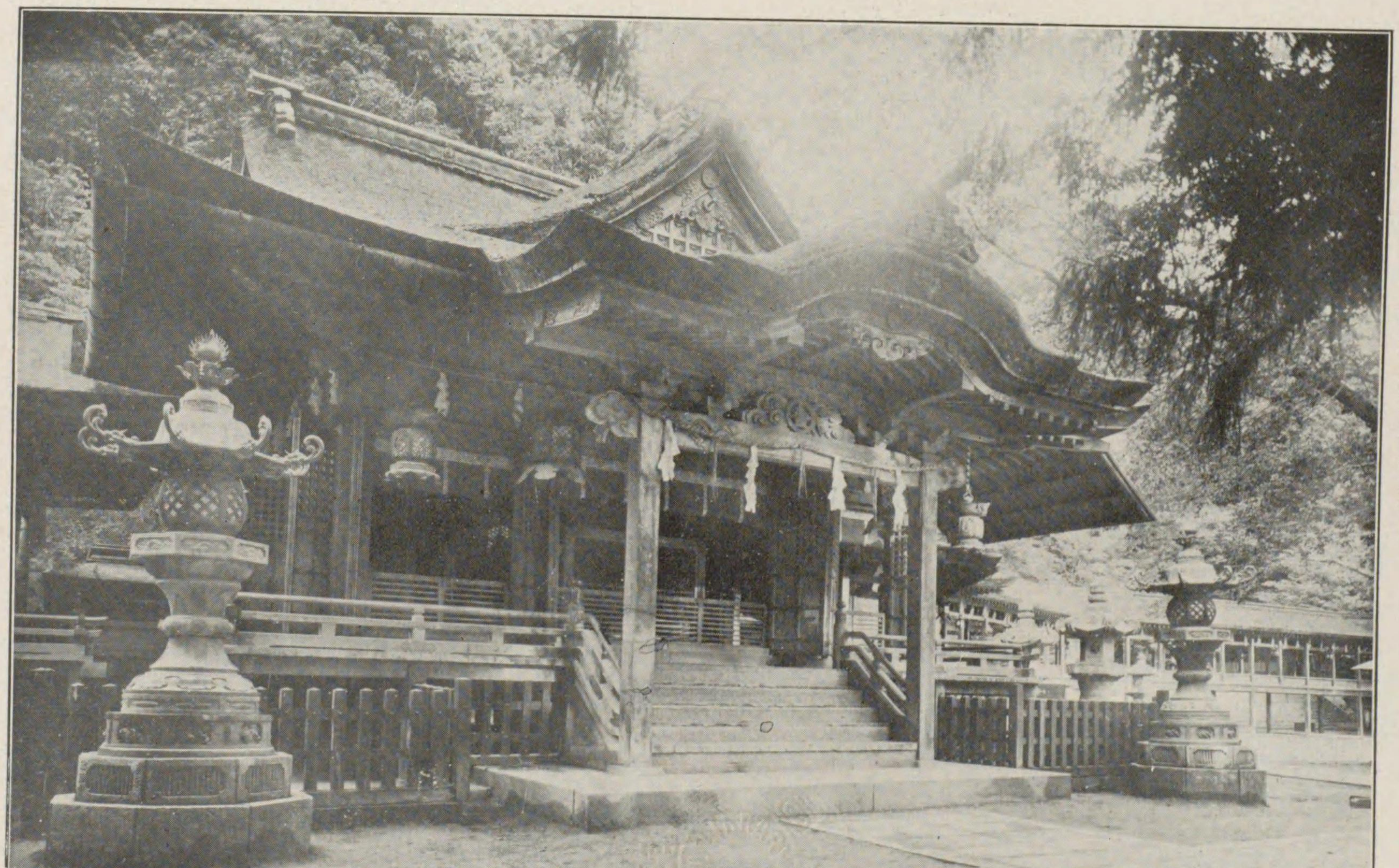
御本宮前警衛所は神札所の東南にあり。圖に向うて左にあるは神札所の妻にして、右なるは警衛所なり。警衛所は切妻造平入、檜皮葺、建坪四坪一合餘、昭和二年改築。

(六五) 同御炊殿

御炊殿(ミカシギドノ)は警衛所の東南にあり。切妻造平入、瓦葺、建坪十坪五合餘、明治七年建築。朝夕神前に獻する大御饌を調理する所なり。

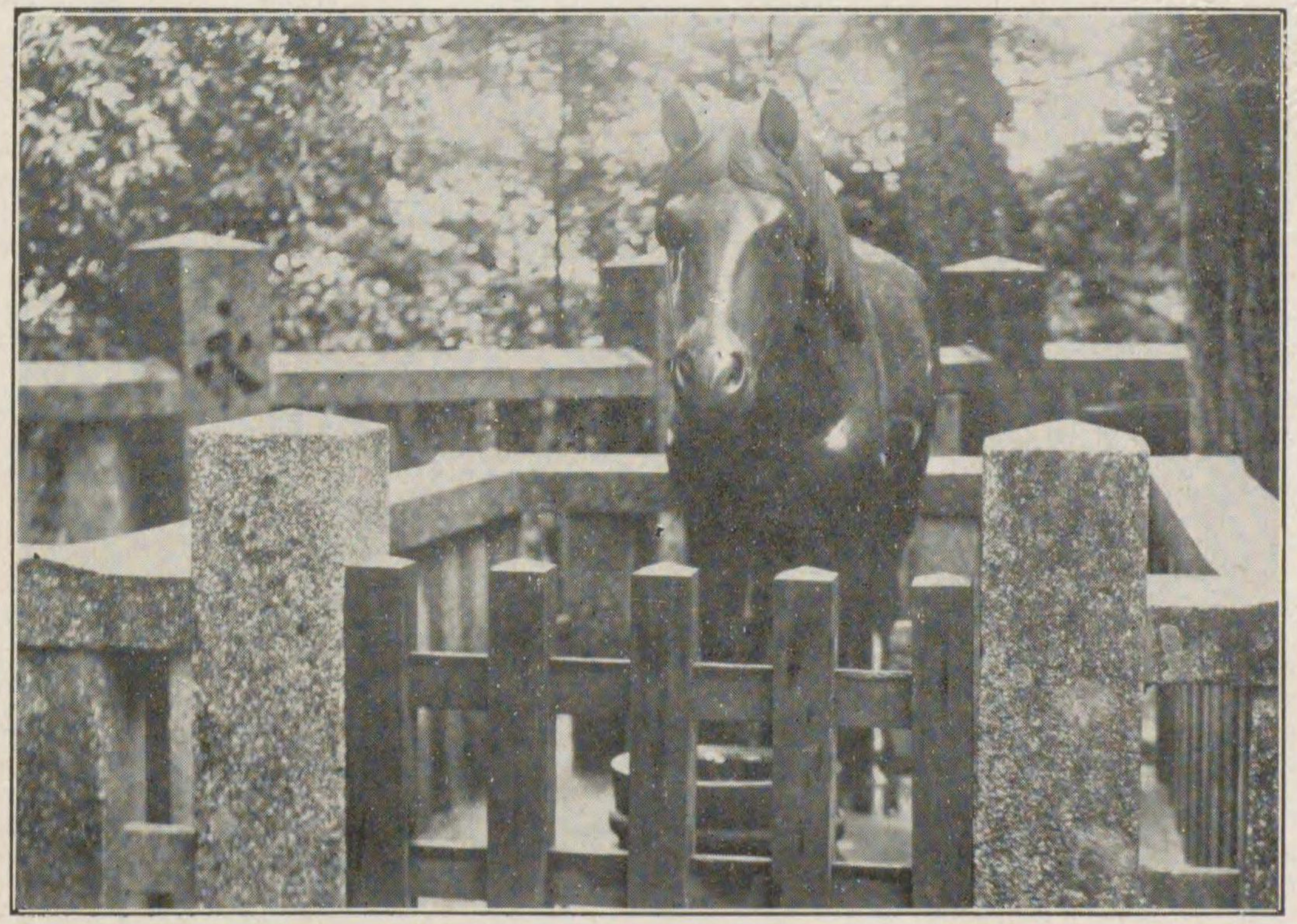
（六六）金刀比羅宮御末社三穂津姫社

三穂津姫社は御本宮の南にあり。本殿、王子造、四方高欄、檜皮葺、建坪三坪七合餘。中殿、檜皮葺、建坪四坪。拜殿、大社關棟造、三方高欄、平格天井、檜皮葺、建坪十一坪六合餘。共に明治九年改築。三穂津姫神、鎮座。大神は御本宮に座す大物主大神の后の神に座す。毎月一日月次祭、五月十日大祭。



金刀比羅宮御末社三穂津姫社

金刀比羅宮御末所嚴島神社



金刀比羅宮三穂津姫社前銅馬

(六七) 金刀比羅宮御末社嚴嶋神社

嚴嶋神社は三穂津姫社の東南にあり。社殿、入母家造平入、四方高欄、檜皮葺、建坪五合五勺、明治八年改築。

伊都岐島姫尊、鎮座。

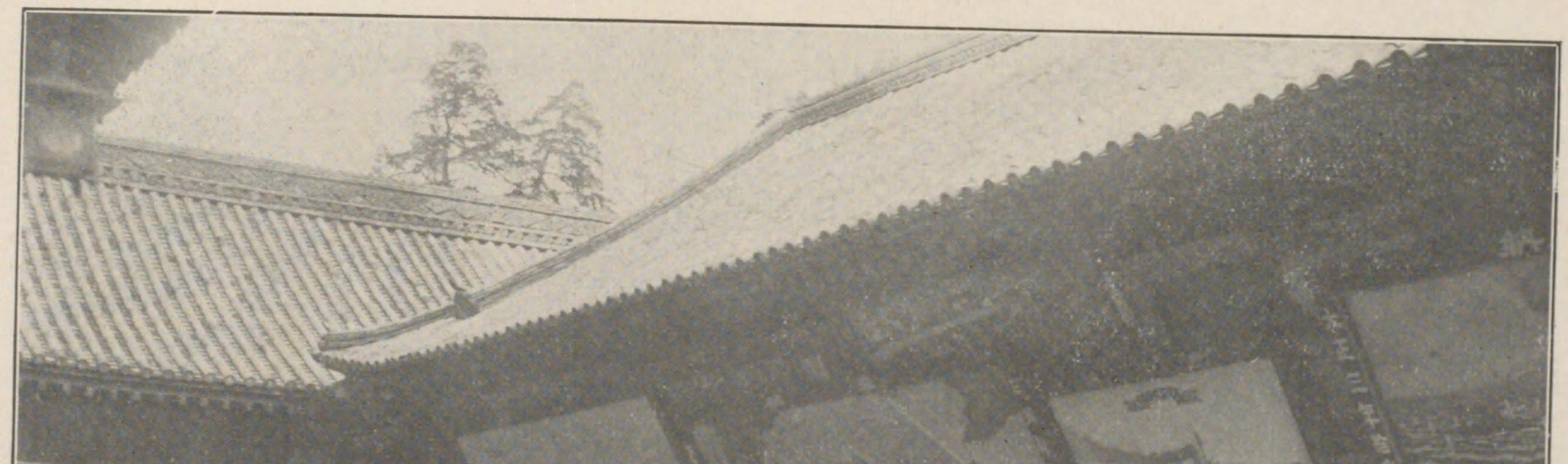
(六八) 同三穂津姫社前銅馬

三穂津姫社前銅馬は高四尺八寸、製作優麗を以て知らる。文政七年周防國花岡驛上原惣左衛門延清獻納。

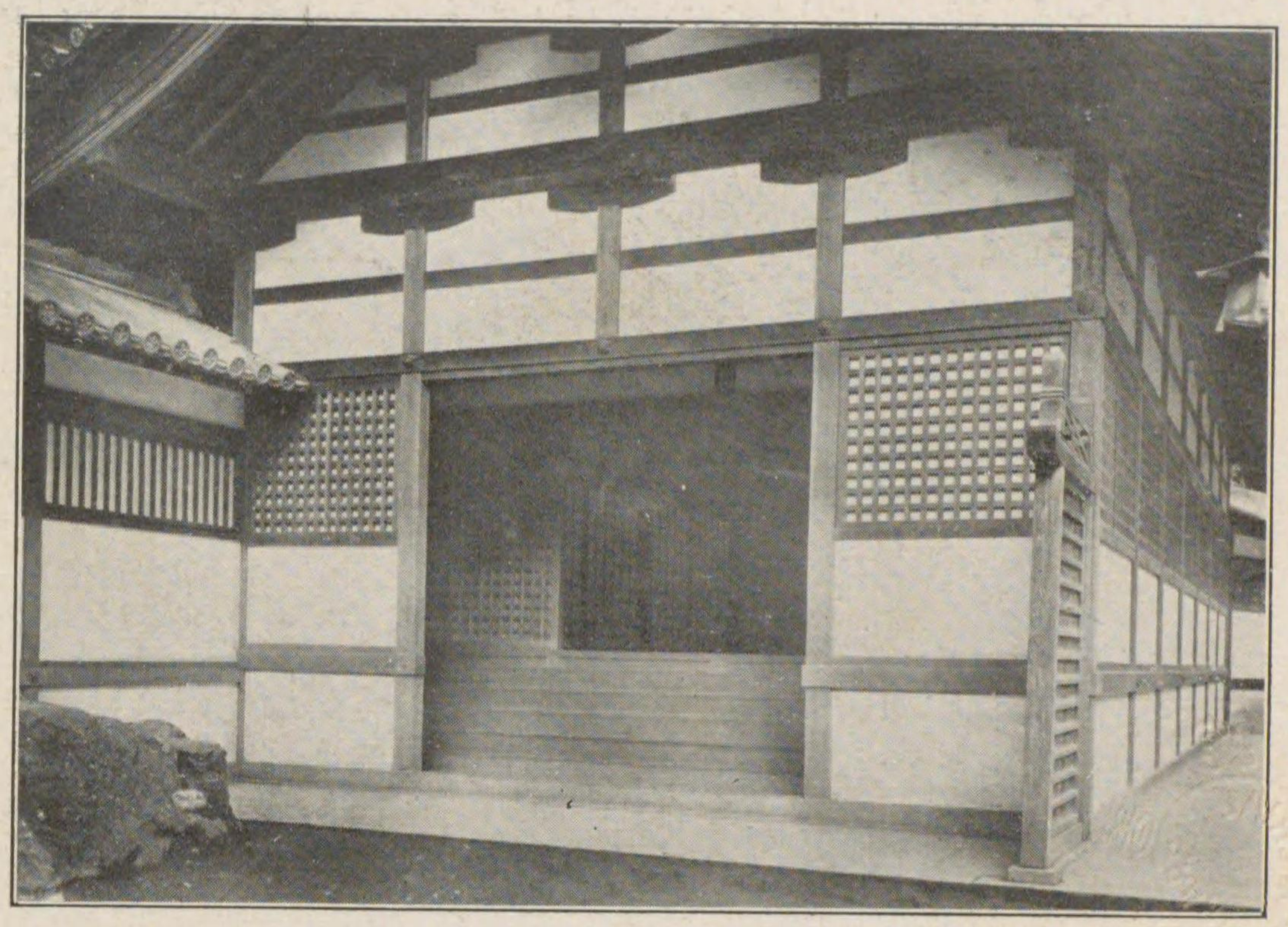
（究） 金刀比羅宮繪馬殿

繪馬殿は南北二棟ありて共に三穗津姫社の南にあり。圖の左方正面なるは北繪馬殿にして、入母家造、石疊床、瓦葺、建坪三十四坪、文化八年改築。又向うて右なるは南繪馬殿にして、入母家造、土間床、瓦葺、建坪三十一坪餘、寛延元年建築。繪馬殿の內には無數の繪馬あり、就中軍艦より獻上せし流初穗の浮板は人目を引くものなるが、こは軍艦の讃岐沖を航過するに當り、乘組員初穗を獻せんが爲め醵金して、之を水の透入せざる厚き布に納め浮板を附して海に投し、一同當宮の方に向うて列立して遙拜を行ふ、かくて初穗は讃岐沿岸に漂著し村役塲又は篤志者の手によりて當宮に納めらるゝものとす。此の外神恩報賽の繪額、船具、等殿內狹きまで掲げらる。

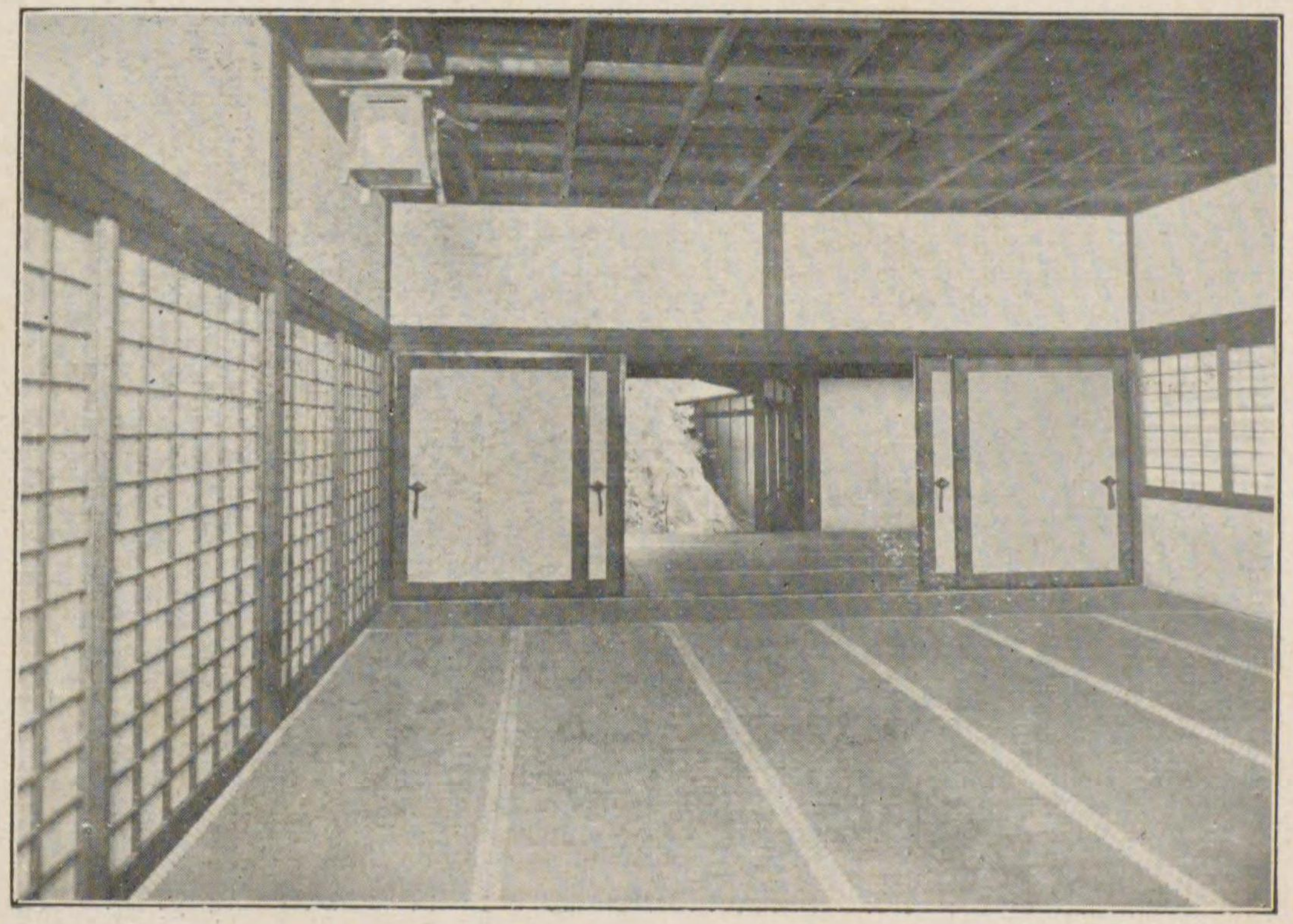
奉納の繪額見はてゝ寶物の繪卷物見る
春の日永き　　子爵前田利定



金刀比羅宮繪馬殿



金刀比羅宮參集殿



同參集殿內部

(七〇) 金刀比羅宮參集殿

參集殿(サンシユウデン)は南繪馬殿(ミナミノエマドノ)の西にあり。切妻造妻入、蔀戸(シトミド)、平格天井、瓦葺、建坪二十四坪餘。附屬細殿(ホソドノ)九坪。共に大正八年建築。御本宮拜殿に昇殿する人々の參集する所なり。

(七一) 同參集殿內部

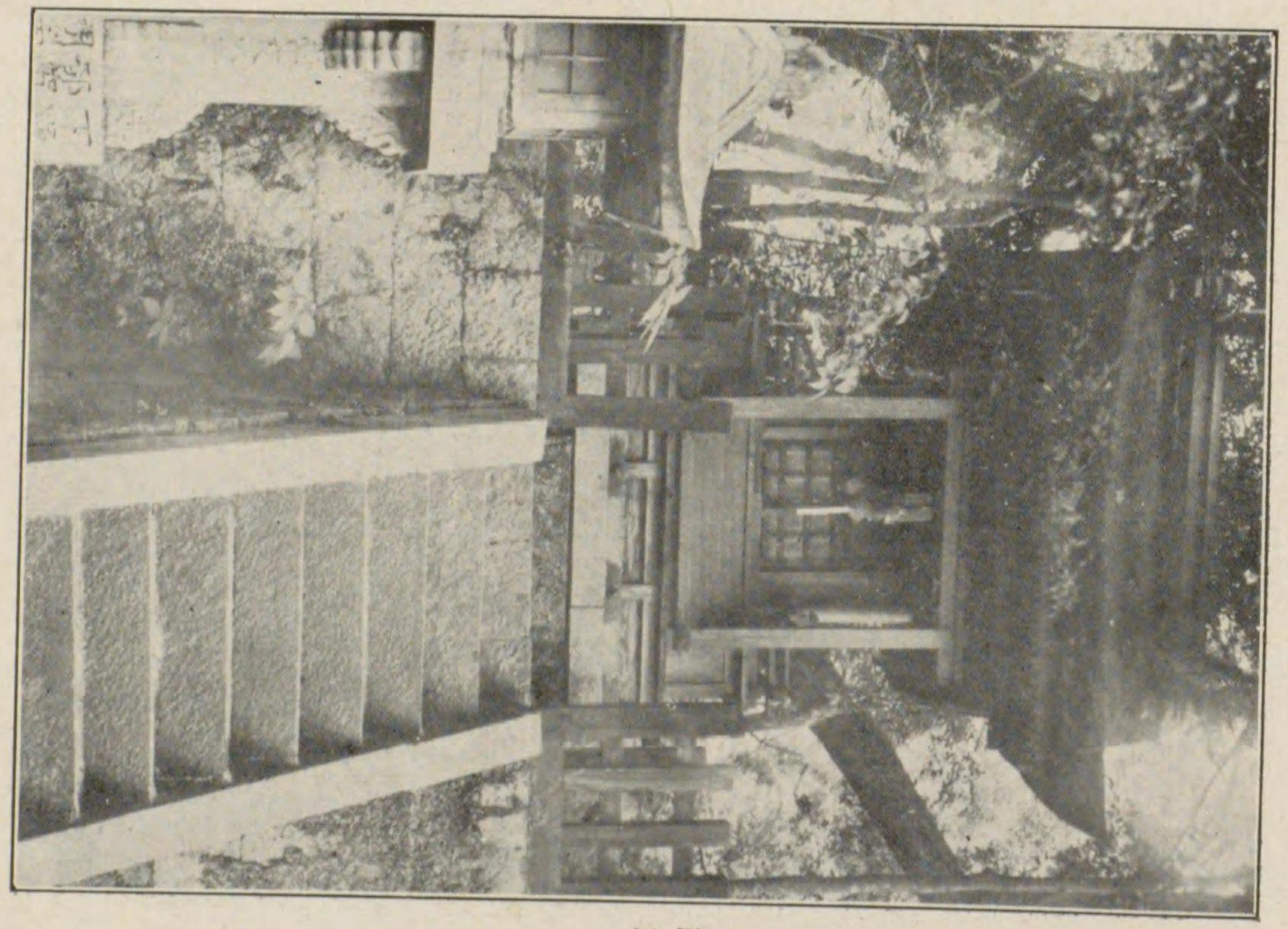
參集殿は廣間と小間とより成り、共に檜無節材を用ゐ閑雅端正なる建物なり。

(七一)　金刀比羅宮御末社大山祇社

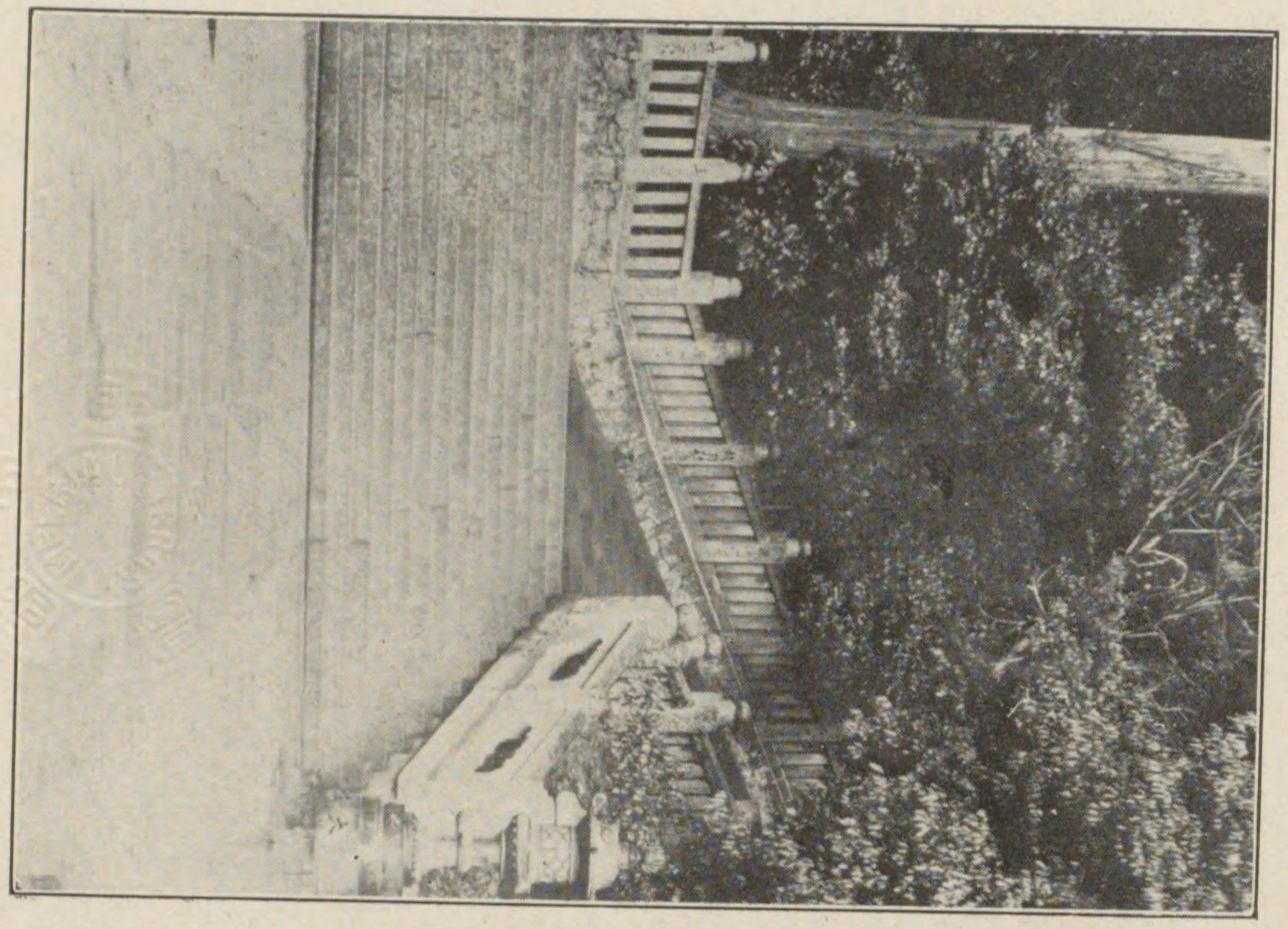
大山祇社は、三穂津姫社前の下向阪を降れば、阪の中腹にあり。社殿、流造、四方高欄、檜皮葺、建坪三合六勺、明治八年改築。大山祇神、鎮座。

(七二)　同　下向阪下

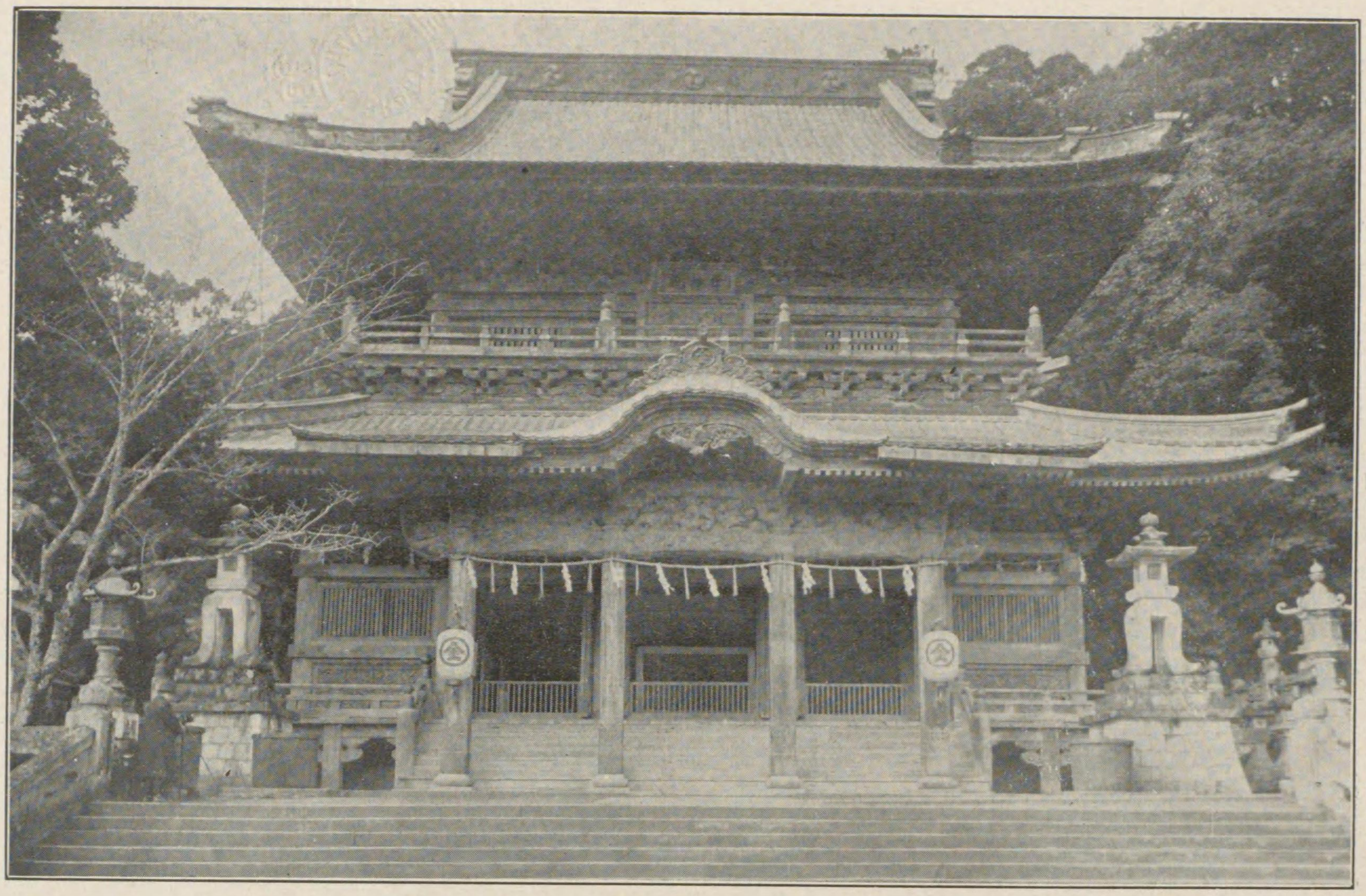
下向阪は、御末社三穂津姫社前にあり。御本宮に參拜せる人は此阪より下向するを順路とす。圖は其阪下。



金刀比羅宮御末社大山祇社



金刀比羅宮下向阪下



金刀比羅宮御末社旭社

（十四）　金刀比羅宮御末社旭社

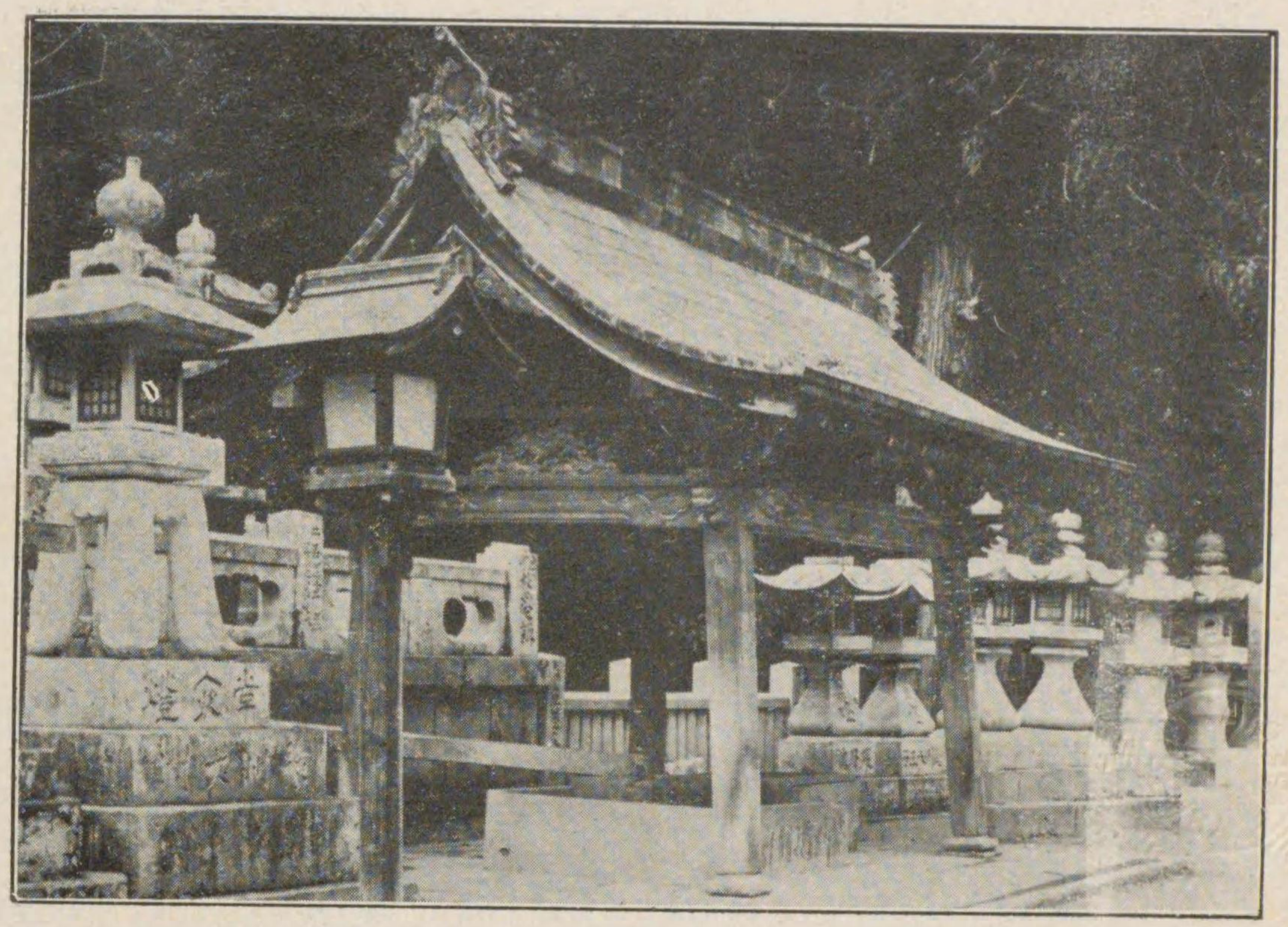
旭社（アサヒノヤシロ）は社殿中最雄大にして、二層入母家造平入、三方高欄、銅瓦葺、桁行梁行各六十尺餘、建坪百〇一坪。全部欅材を用ゐ、上層屋根裏には卷雲を彫り、柱間扉等には人物鳥獸花卉を刻し、其巧緻なるは宇内稀に見るところなり。天保八年建築。階下正面に掲揚せる旭社二字の額は正二位綾小路有長筆。天御中主神（アメノミナカヌシノカミ）、高皇產靈神（タカミムスビノカミ）、神皇產靈神（カムミムスビノカミ）、伊邪那岐神（イザナギノカミ）、伊邪那美神（イザナミノカミ）、天照大御神（アマテラスオホミカミ）、天津神、國津神、八百萬神、鎭座。毎月一日月次祭（ツキナミ）、四月一日大祭。

（十五）金刀比羅宮御末社旭社側面

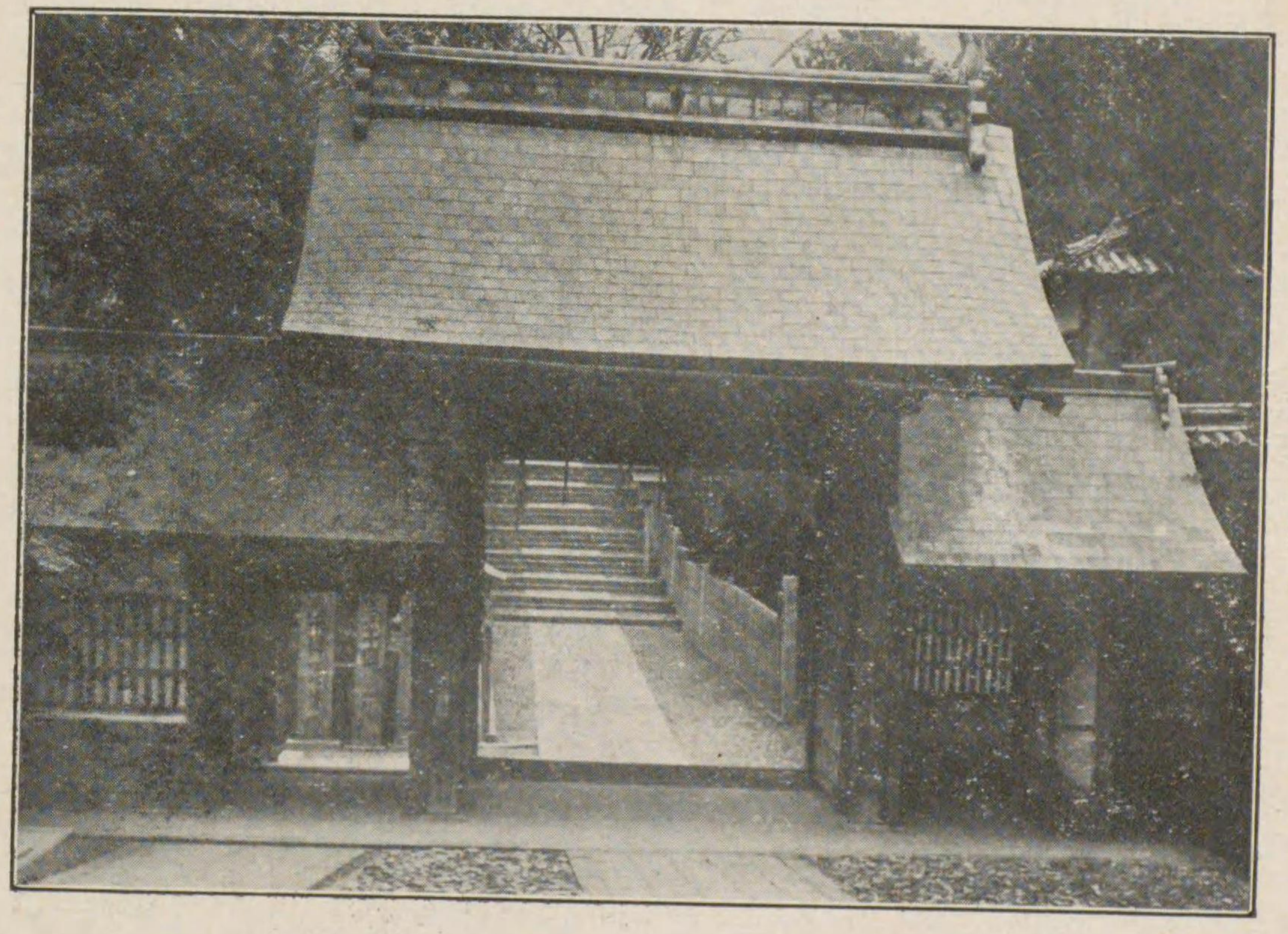
圖は前記旭社（アサヒノヤシロ）の側面なり

金刀比羅宮御末社旭社側面

金刀比羅宮旭社前御手水舍



金刀比羅宮社務所通用門



(十六) 金刀比羅宮旭社前御手水舍

旭社(アサヒノヤシロ)前御手水舍は切妻造、銅瓦葺、建坪七合六勺餘。

(十七) 同社務所通用門

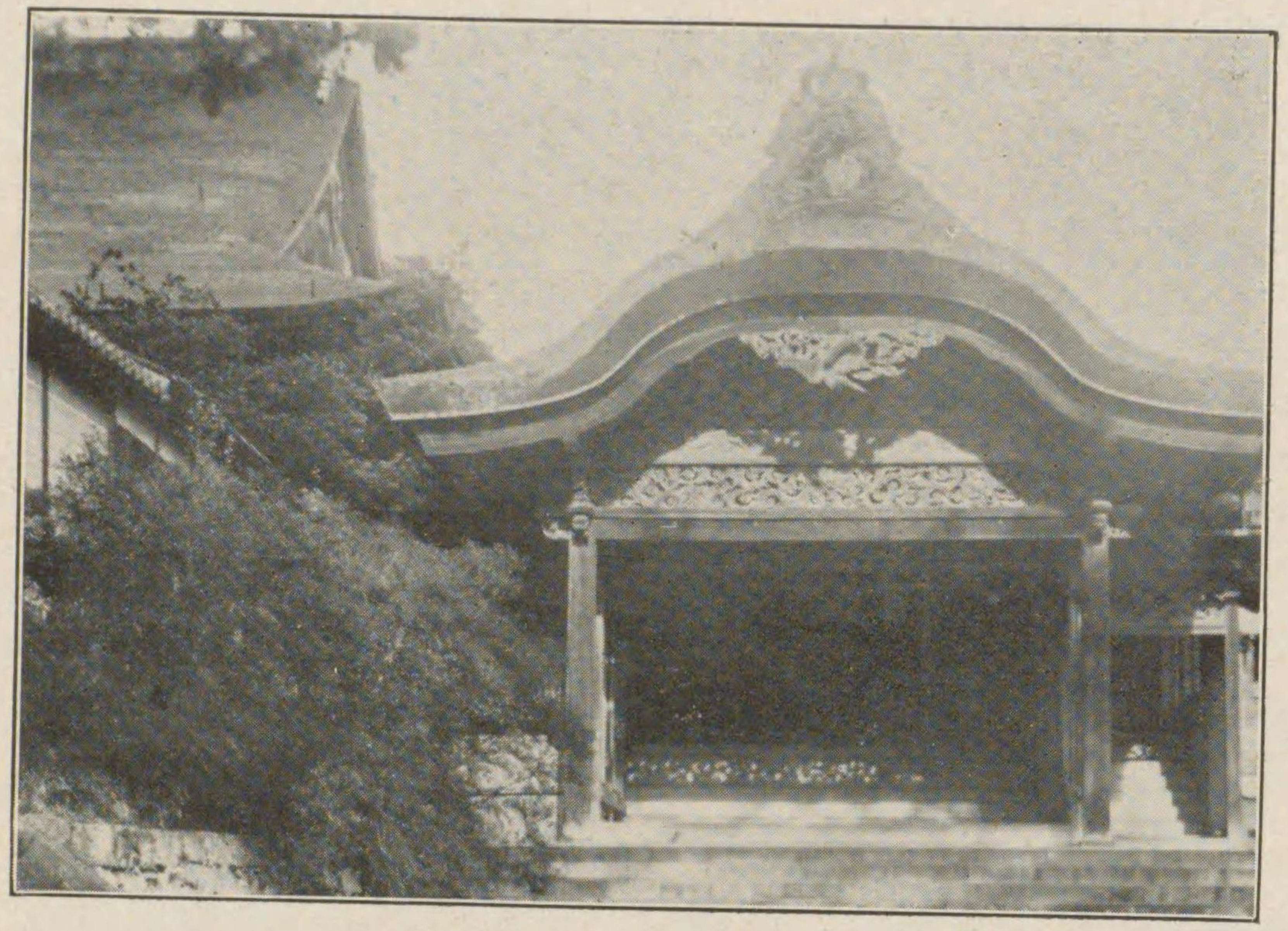
社務所は御本宮の東四町にあり。圖は社務所通用門にして、切妻造平入、建坪四坪六合餘、天保九年改築。

(廿八) 金刀比羅宮社務所玄關

社務所玄關は通用門の正面にあり。式臺、唐破風、平格天井、檜皮葺。上屋根、千鳥破風、檜皮葺。總建坪四十二坪八合。萬治二年改築。

(廿九) 同玄關床

前記玄關の床にして。金張地に墨畫、扁柏に鷲の圖を描く。畫面寸法、高八尺六寸五分、幅十九尺、森寛齋の筆なり。

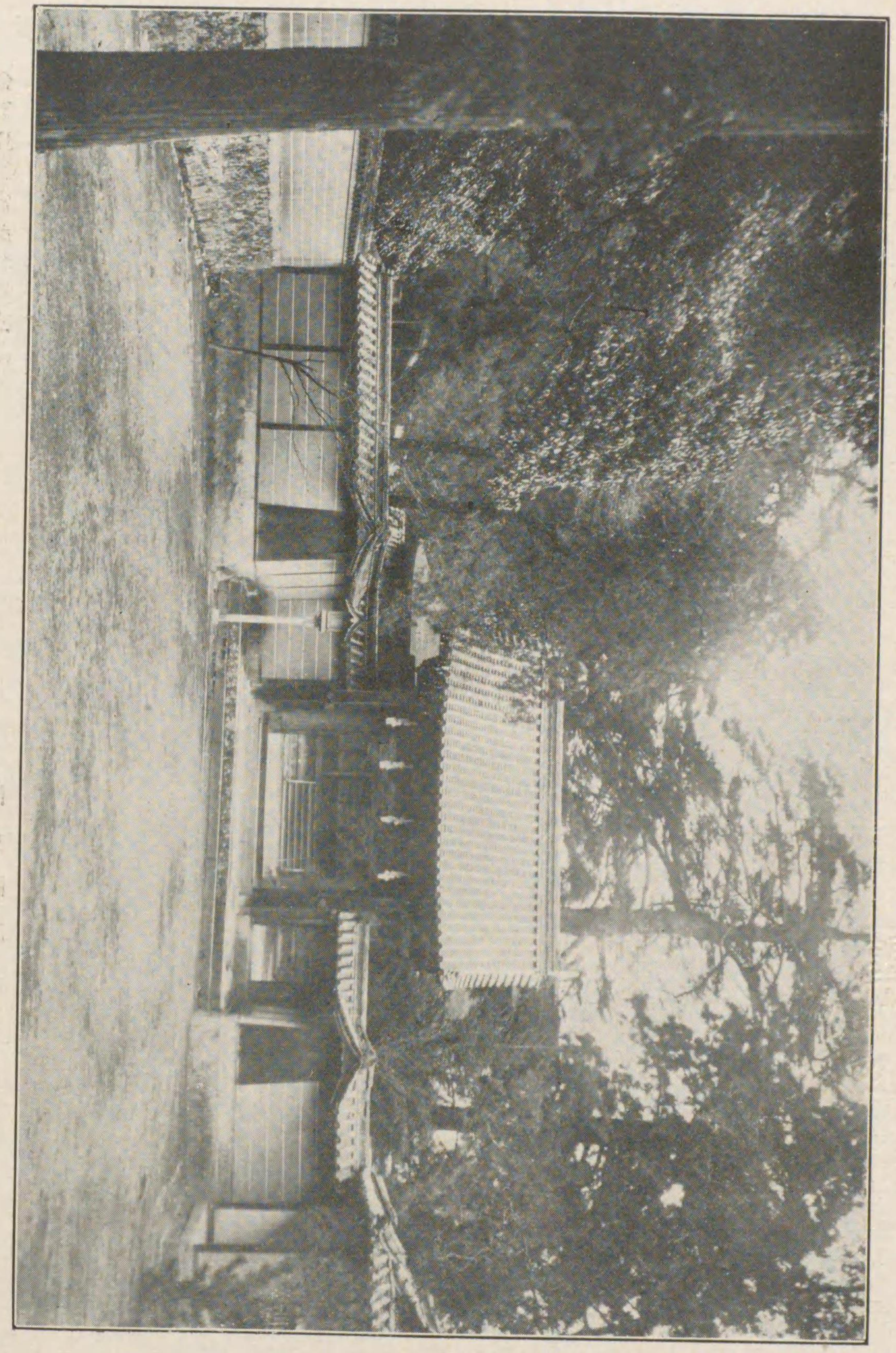


金刀比羅宮社務所玄關

同玄關床

(六) 金刀比羅宮社務所四脚門

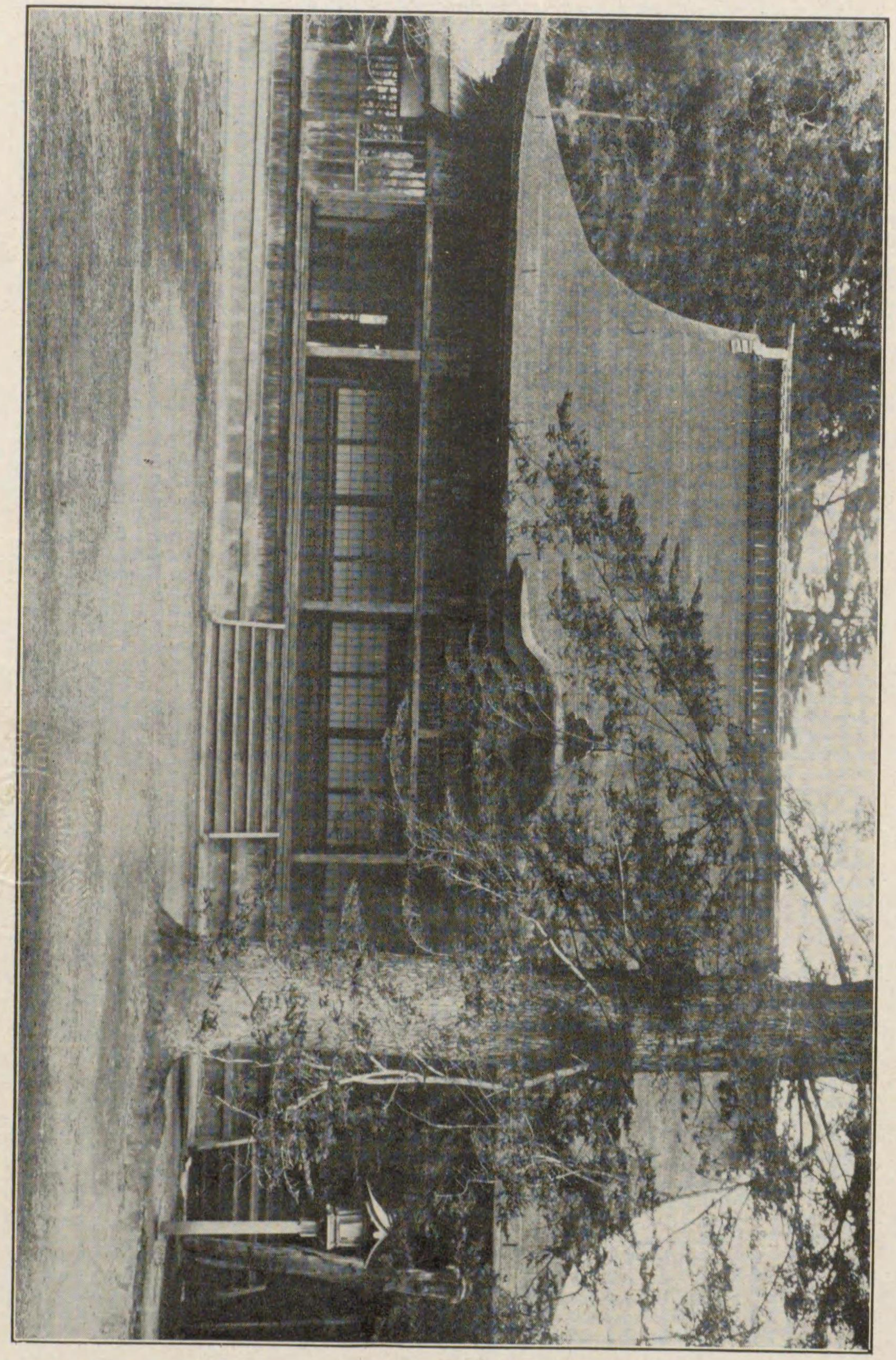
四脚(ヨツアシ)門は社務所の正門にして、主として皇族御參拜、又は勅使、幣帛供進使、參向等の場合に用ゐらる。四脚門造、切妻造平入、瓦葺、建坪六坪三合餘。結構優秀なるを以て知らる。



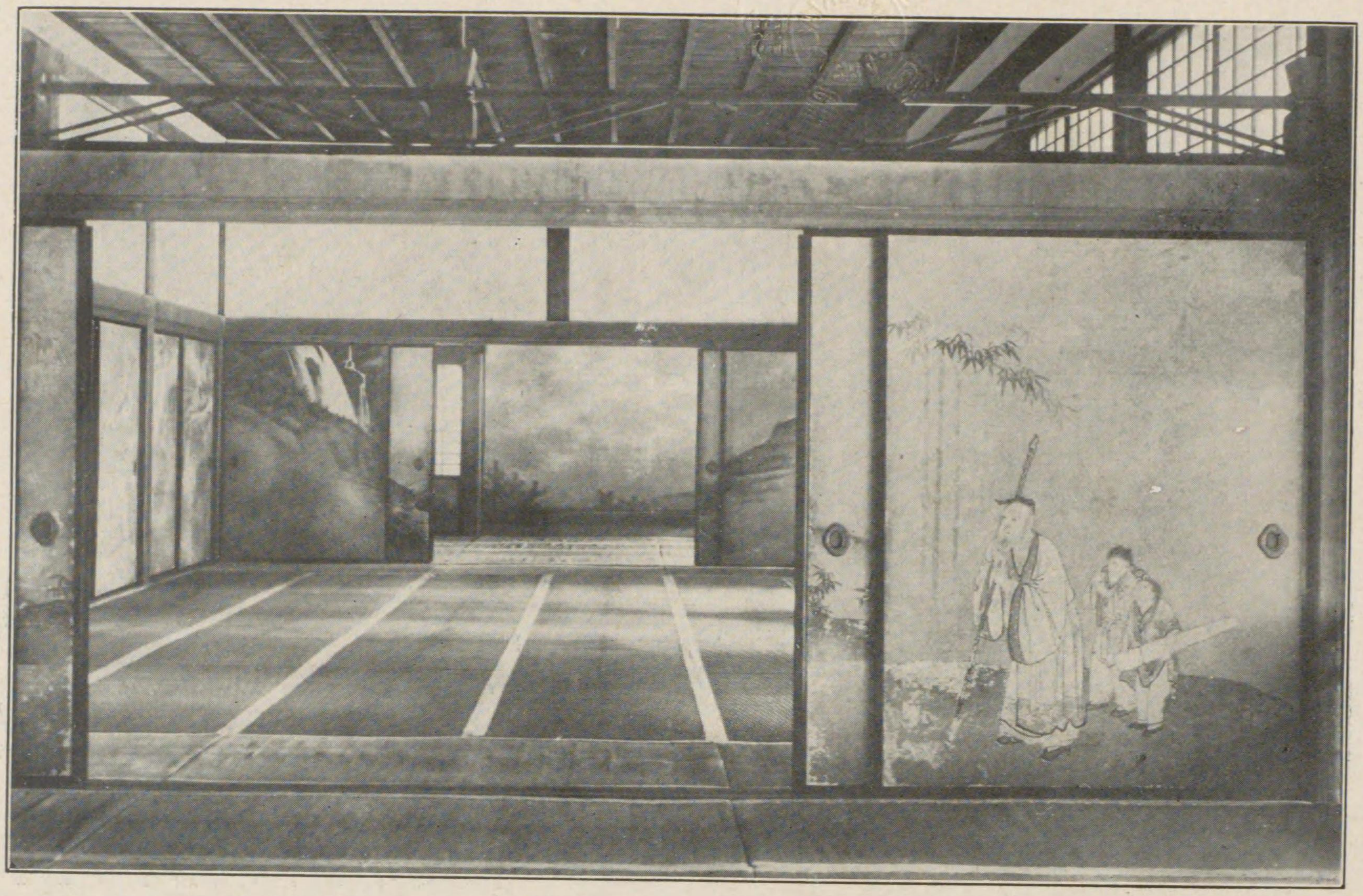
金刀比羅宮社務所四脚門

(六) 金刀比羅宮社務所表書院

表書院は四脚門の正面にあり。俗に千疊敷と稱す。表上段、山水之間、七賢之間、虎之間、鶴之間、富士一之間、富士二之間、の七室より成る。入母家造平入、檜皮葺、建坪百十二坪。萬治二年改築。



金刀比羅宮社務所表書院



金刀比羅宮社務所表書院内部

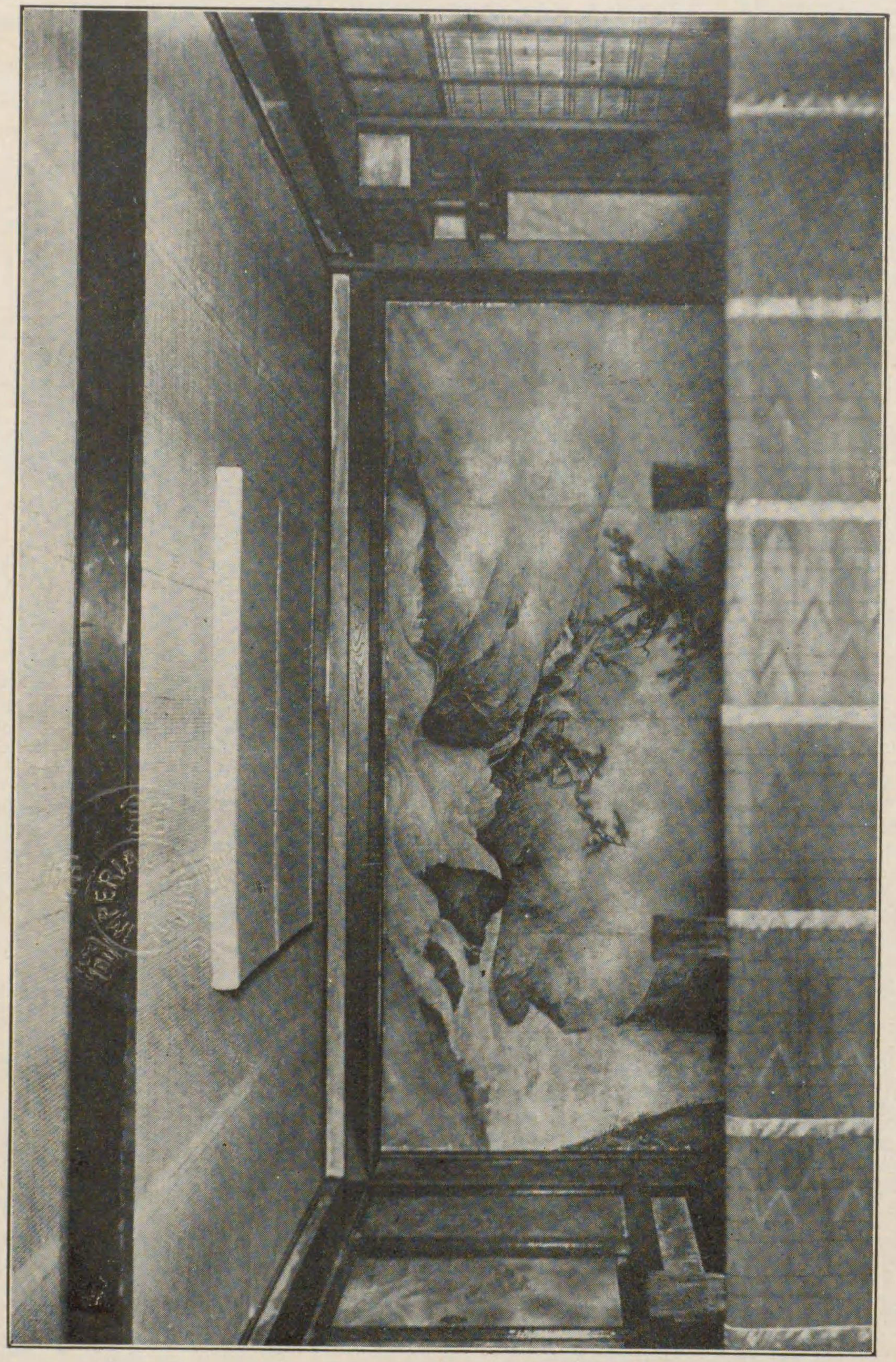
（八二）金刀比羅宮社務所表書院内部

前記表書院内部にして、圖は七室のうち七賢之間より虎之間を隔て丶鶴之間を望むもの。鶴圖、虎圖、七賢圖は孰れも圓山應擧の筆にして、前二圖は天明七年に、又七賢圖は寛政六年に描けるもの。共に明治二十四年臨時全國寶物取調局に於て、優等にして美術上の摸範として要用なるへきものと認定せられ。同三十四年内務省告示を以て國寶と定めらる。

(八三) 金刀比羅宮社務所表書院上段之間

表書院上段之間は一に表上段又は瀧之間と稱し、折上小組格天井、帳臺襖、架燈口。床には墨畫瀑布圖を描く、畫面寸法、高八尺六寸五分、幅十五尺八寸、寛政六年圓山應擧の筆にして恐らく其畢生の大作ならん。臨時全國寶物取調局の認定、並に内務省の國寶指定、前項に同し。

大正天皇陛下いまだ東宮に坐しましゝ明治三十六年當宮に御參拜あらせられ此室にて御休憩あらせられたり。



金刀比羅宮社務所表書院上段之間

5
7

昭和三年四月十四日發行

編輯兼發行者　金刀比羅宮社務所第一課

右代表者　井上功
香川縣仲多度郡琴平町八百六十三番地ノ寄留

印刷者　小野秀八
香川縣仲多度郡琴平町百八十六番地

印刷所　小野印刷所
香川縣仲多度郡琴平町百八十六番地

55
7

5
7

559
75